

THE PRACTICE OF MEDICINE

FOR THE USE OF STUDENTS AND PRACTITIONERS.

ROBERTS BARTHOLOW, M.A.; M.D.; LL.D.;

Professor of Materia Medica & General Therapeutics in the Jefferson Medical College of Philadelphia; Formerly Professor of the Theory & Practice of Medicine and of Clinical Medicine in the Medical College of Ohio; Fellow of the College of Physicians of Philadelphia; Member of the American Philosophical Society, and of the American Neurological Association; Honorary Member of the Medical & Chirurgical Faculty of Maryland, of the New York and Ohio State Medical Societies, of the Cincinnati Academy of Medicine; Author of a Practical Treatise on Materia Medica and Therapeutics; of a Treatise on Medical Electricity, and of a manual of Hypodermic Medication, &c.

FIFTH EDITION, REVISED AND ENLARGED.

NEW YORK

1884.

TRANSLATED BY

M. TOYABE.

明治二十二年二月廿五日 內務省交書

原書一千八百八十四年刊行
譯書皇曆明治十七年出版

內科新論

米國博士拔爾蘇朗原撰
日本醫士鳥谷部政人譯述

內科新
論版權
所有章

內科新論第七冊序
烏谷部君譯救民內科
新論公於世醫商家翕然
爭先購之蓋因文詞通
曉義理精明止代學說
載而無遺也世之論醫者皆

曰學子明于獨能精于英今
 中國醫學亦有足驚人
 者若以書按二國之華歛其
 精明之實宜讀者自得是
 鳥谷部君之心也書以為序
 靜石長瀨衡題



內科新論第七冊目次

○病理各論及治則

第二全身諸病之部

○發疹熱諸病篇

天然痘	一
密發痘	十九
出血痘	廿一
變痘又假痘	廿三
牛痘及種痘術	卅一
水痘又風痘	卅八
麻疹	四十一
輕症麻疹(又日耳曼麻疹)	五十五
猩紅熱	五十八
痘瘡水痘麻疹輕症麻疹及 猩紅熱之診斷法	八十三

丹毒又羅斯

八十五

○熱性諸病

腸埤扶斯

九十七

發疹埤扶斯

百卅二

再歸熱

百四十六

發黃熱

百五十七

熱射病

百七十四

○瘴氣毒諸病 (又泥沼熱)

虎列刺

百八十三

虎列刺病豫防法概說

二百三

虎列刺病消毒法概說

二百六

回復後若夕八死後患者之處置

二百七

回復後若夕八死後衣被之處置

二百八

病室及器財之處置

全

虎列刺病原及治法之新說

二百十

脚氣

二百十九

實扶埤利亞

二百四十一

百日咳

二百七十

耳下腺炎

二百七十八

○泥沼毒諸病

間歇熱

二百八十三

弛張熱

三百四

○榮養機諸病

腺病

三百十二

佝僂病

三百二十一

急性佝僂質斯

三百三十三

慢性佝僂質斯

三百四十七

痛風

三百五十

密尿病又糖尿病

三百六十三

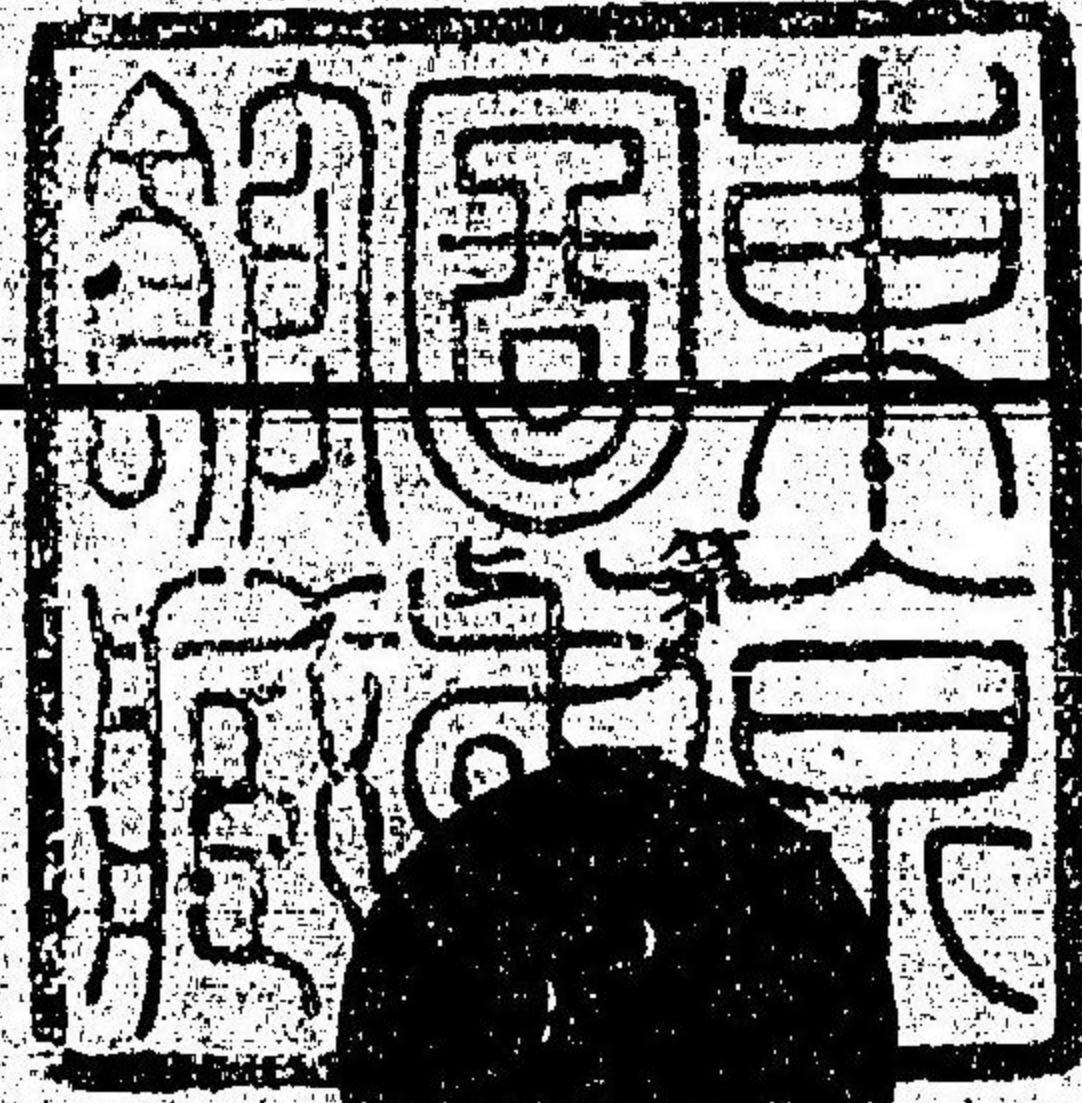
尿管

三百八十

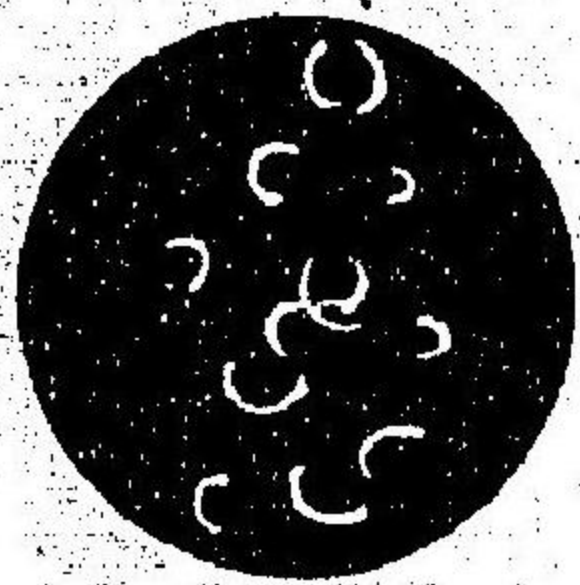
恐水病
恐水病治法之新説

三百八十五
三百九十三

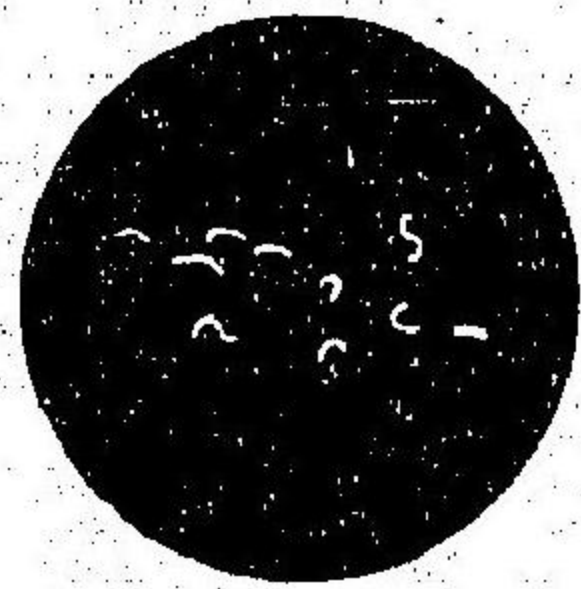
第七冊目次終



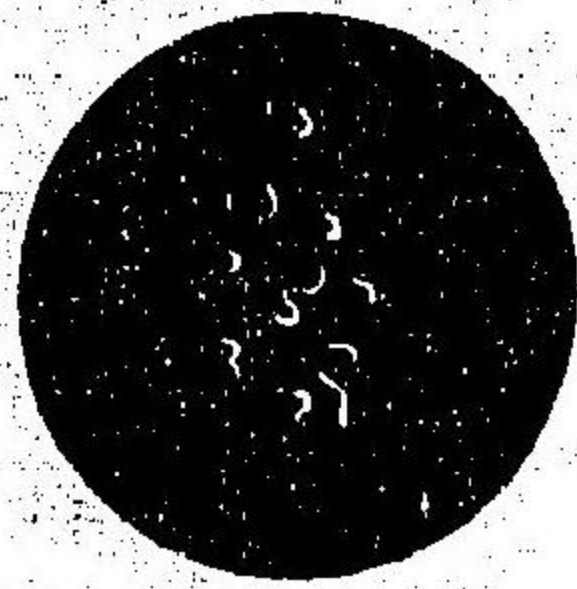
一第



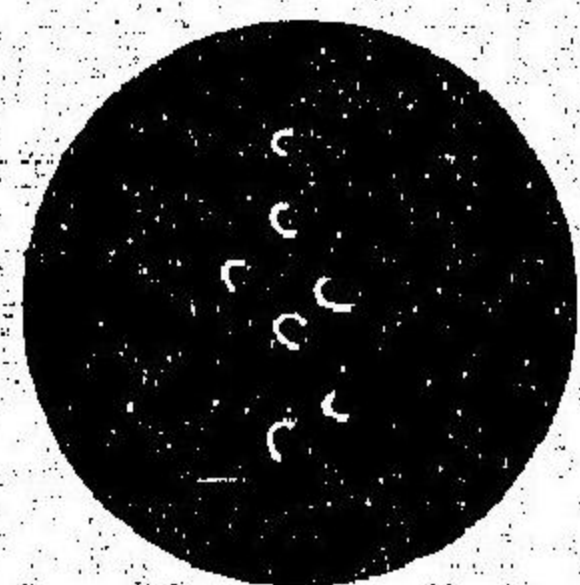
四第



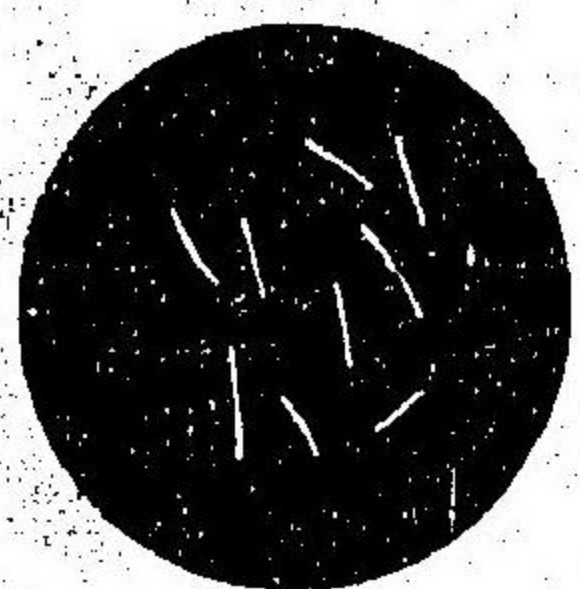
五第



三第



六第



第一 醫士「ヘリコールト」氏カ發見

第二 セシ彎曲微菌ノ圖

第三 「コツホ」氏カ發見セシ虎列刺

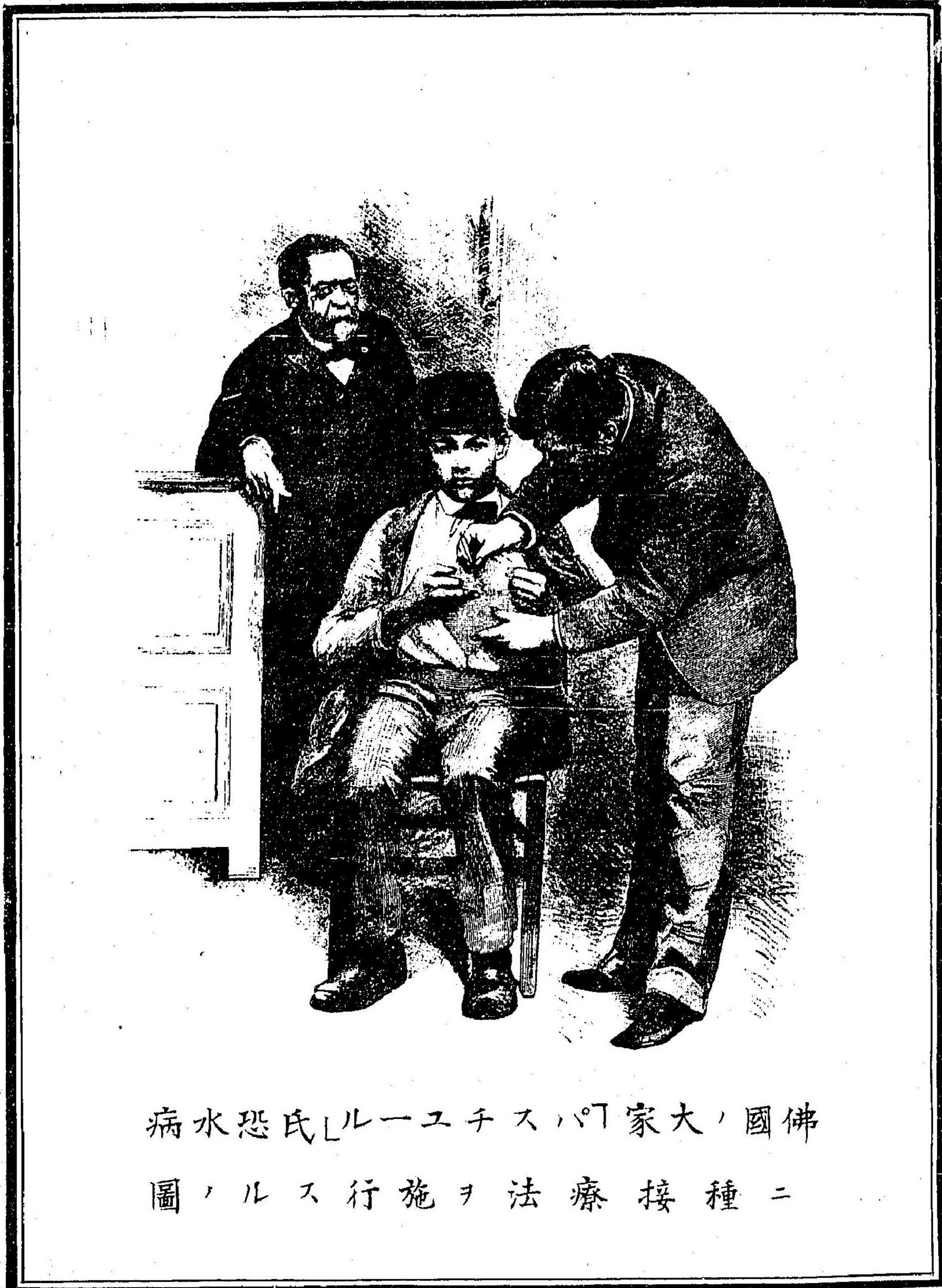
第四 患者ノ腸液ニ存スル彎曲微

第五 菌ノ圖

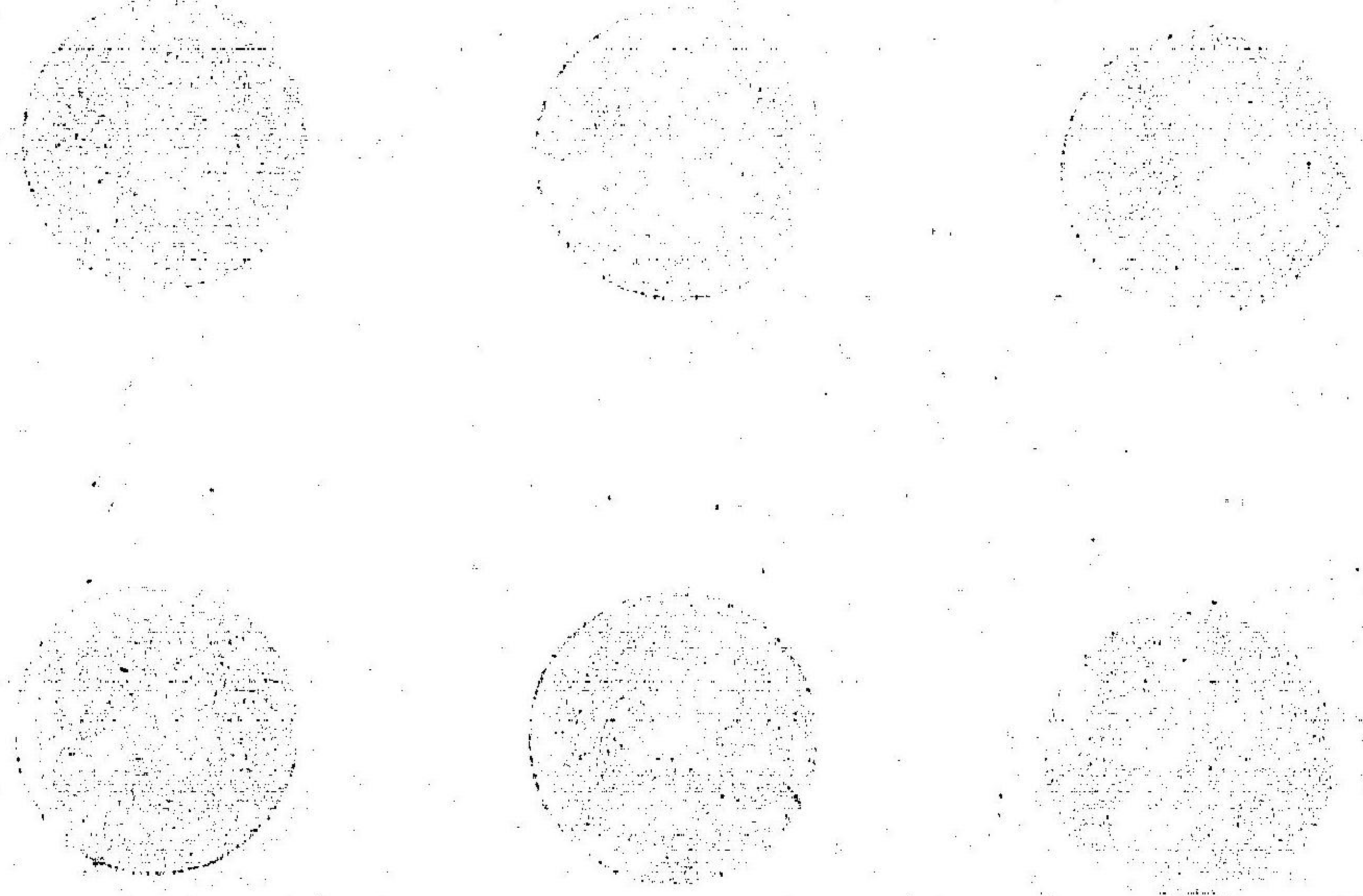
第六 結核ニ發スル桿狀微菌ニシ

テ彎曲微菌トノ比較ヲ示ス

モノナリ



佛國大名家，巴斯德氏水痘病
二種接療法施行圖



内科新論第七冊

病理各論及治則

第二全身諸病之部

○發疹熱諸病篇

○天 然 痘 名原 ヴァリオラ VARIOLA.

釋 義

痘瘡即チ天然痘ナルモノハ初起ニ於テ熱症ヲ發シ第三日ノ日晡ニ達シテ
豆形ノ膿疱疹ヲ現出スル所ノ發疹病ナリ而シテ後チ一時熱症ノ退消スルモノニシテ吾
人ハ之レヲ免熱時ト稱ス然リト雖モ更ニ又々第二回ノ熱症ヲ將來スヘシ所謂灌膿熱ナ
ルモノ即チ是レナリ

原 因

痘瘡ハ地質及ヒ時候ノ如何ヲ問ハス流行ノ勢力ヲ有スルモノナリ然レモ
近世種痘術發明以來大ヒニ病毒ノ蔓延ヲ制止スルヲ得タリ
本症ハ老幼共ニ發スルモノニシテ胎兒ト雖モ尚ホ且其侵襲ヲ免カル、ト能ハス甚タシ
キハ妊娠後四五月ニシテ之レニ罹ルコトアリ
男女ニ就テハ共ニ同一ノ比例ナリ

人種ハ其感動ヲ有スル一様ナラサルモノトス故ニ黒色ノ人種ニ多ク印度人ノ如キハ
 特ニ其感受性ヲ有スルモノナリ
 腸埜扶斯程紅熱及ヒ麻疹ニ罹リ實性ノ症候ヲ現出スルノ際ニアリテハ痘瘡ノ侵襲ヲ受
 クルコトナシ而シテ時期ヲ異ニスルハ各人ノ感受力モ亦タ同シカラサルモノトス
 一般ノ規則トシテ一タヒ本症ノ侵襲ヲ被ムルハ全然兇厄質トナルモノ多シ然リト雖
 凡破格ノ例證ヲ見ルコト亦タ鮮ナカラサルナリ
 予ハ同一ノ患者ニ於テ再三痘毒ニ感染シ又タ敢テ種痘術ニ依テ其素因ヲ消滅スルコト
 能ハサルカ如キ例証ヲ瞥見セリ
 本症ハ二三月ノ時日ヲ經テ感染スルコトアリト雖凡數年ヲ過キテ後チニ采ルモノハ極
 メテ稀レナリ
 當初輕症ニ罹リタルモノハ治後再ヒ病毒ニ感觸スルハ之レニ抵抗スルノ力微弱ナル
 ヲ以テ動モスレハ再感スルコトアリ
 痘瘡ハ一種ノ傳染毒ニ依テ瀰漫スルモノナリ而シテ其本體ハ未タ詳ラカナラスト雖凡
 最モ微細ナル有機體ニシテ其毒性ヲ檢セント欲セハ牛痘及ヒ痘瘡ノ瘡液中ニ含有スル
 ヲ見ルヘシ而レ凡其偶發性ナルヤ將タ特異ノ痘毒ニ因スルヤニ至テハ之レヲ確定スル

能ハサルナリ
 痘毒ハ瘡内ニアリテ未タ透明ニシテ黄色ヲ呈セサルノ期ヲ以テ最モ其毒性ノ有力ナル時
 トス既ニ黄色トナリ或ヒハ透明ナルモ乾燥ナルハ稍々其力ヲ減スルモノナリ
 病毒ハ特リ患者ノ身体ニ固着スルノミナラス周圍ノ空氣中ニ傳播シ甚タシキハ遠隔ノ
 地ニ達スルコトアリ
 空氣ノ流通ヲ促カシ又タ室内ノ廣濶ナルハ大ヒニ其毒性ヲ稀薄ナラシムヘシ之レニ
 反シテ密閉シタル病室内ニ多數ノ患者ヲノ群居セシムルハ毒性ヲシテ稠厚ナラシム
 ルヲ以テ感染ノ力モ亦タ益々猛烈ナルヘシ
 痘瘡ハ序熱期ヨリ落痂期ニ至ルマテ全經過中感傳ノ力ヲ有セサルコトナシト雖凡特ニ
 灌膿期ニアリテハ其毒性最モ猖獗ナリトス
 患者ノ身体若シクハ病毒ニ觸接シタル衣被及ヒ器具ニシテ其質粗糙ナルモノニアリテ
 ハ痘毒ヲ感染シ久シク其傳染力ヲ保有スルコトアリ故ニ其流行時ニ當テハ直チニ患者
 ヲヨリ其毒ヲ吸収スルモノアリ或ヒハ其衣被及ヒ病毒ヨリ來ルモノアリ或ヒハ病毒若シ
 クハ衣服ヨリ他人ノ衣被ニ感染シ終ニ之レヲ着クルノ人ヲ侵カスアリ
 痘瘡患者ノ屍體ニ於テ不タ腐敗分解ニ依テ其感染力ヲ滅セサルハ尚ホ痘毒ヲ感傳ス

ヘシ

痘毒ハ容易ニ其活機ヲ失スルコトナク寒熱若シクハ他ノ感動ニ遭フテ之レニ抗拒スルノ力モ亦タ頗フル強大ナリ故ニ空氣ノ暴觸ヲ防クキハ數月若シクハ數年間其活機ヲ保有スルモノ鮮ナカラス

痘瘡ノ傳播ハ豫防法ニ因テ制止スルヲ得ヘキモノニシテ殊ニ種痘術ヲ施コスルハ最モ其感傳ヲ豫防スルノ良策タリ然リト雖氏種痘術ハ永久體質ヲシテ免厄性ヲ有セシムルコト能ハス偶マ數年ノ後チ其免厄質ヲ脱却シテ再ヒ痘毒ニ感深スルコトアリ

是故ニ文明國ノ人民ニアリテハ二三年ヲ經フル毎ニ痘毒ニ感深シテ流行スルコトアルモノト見做シ其豫防法ヲ怠タルコトナシ

病理的解剖

最モ重要ナル變狀ハ膿疱ノ構生ニ因テ起ル所ノモノナリ

初起ニアリテハ乳頭ノ部ニ於テ真皮ノ變厚ヲ起コシ微細ナル充血点ヲ現出シ尋イテ腫脹スルヲ見ルヘシ殊ニ乳蕾細胞ノ外層ニ於テ著ルシク終ニ表皮ヲ壓排シテ乳頭疹ヲ發生スヘシ

乳蕾層ヨリ透明ナル滲出液ヲ生シテ細胞体ヲ壓排シ表皮ヲ舉揚シテ以テ水泡疹トナル細胞体ハ分離シテ處々ニ凝集シ滲出物ノ壓迫ニ因テ網狀トナリ其網目内ニ淋巴液ヲ含

有スヘシ

水疱ハ乳蕾及ヒ真皮ノ上層ニアル所ノ細胞ヨリナリ尿管ノ腫脹及ヒ漿液ノ滲出ニ因テ乳蕾体ノ膨大スルヲ常トス

水疱ハ終ニ膿疱トナリ中央ニ陷没面ヲ現出スヘシ或ル人ハ毛根或ヒハ汗腺ノ排泄管ヲ侵カス所ノ膿疱ニ於テ之レヲ生スルハ表皮ト毛根及ヒ汗腺ト連接スルカ爲メニ此部ハ特リ隆起スルコト能ハサルヲ以テ其周圍ニ於テ蓄積スルコト益々多ク終ニ中央ノ陷没ヲ致タスモノトナセリ

然リト雖氏毛根及ヒ汗腺ノ通過セサル膿疱ニアリテモ亦タ等シク陷没面ヲ現出スルカ故ニ吾人ハ敢テ其說ニ左祖スルコト能ハサルナリ今日ニ於テ世人カ最モ信任スル所ノモノハ「アンスビツ」及ヒ「バステ」ニ氏ノ解釋ナリ其說ニ曰ク膿疱ノ中央ニ陷没点ヲ生スルハ單ニ其周圍ノ腫脹スルコト急激ニ過クルカ爲メニ起ルモノニ外ナラス故ニ全然灌膿成熟ノ期ニ達スルルハ陷没面突隆シテ見ルコト能ハスト雖氏更ニ乾燥スルルハ中央ノ部ハ最初ニ吸收スルヲ以テ再ヒ陷没面ヲ現出スヘシ
密發痘瘡ニアリテハ近接シタル乳蕾体ニ炎症ヲ發シ之レカ爲メニ其部ノ變質ヲ采タシ終ニ巨大ナル組織ノ壞爛ヲ起スヘシ

出血性痘落ニアリテハ痘内ニ含有スル所ノモノ漿液ニアラスシテ血液ヲ見ルノ外他ニ特異ナル症狀ヲ呈スルヲナシ而シテ其出血ハ痘内ニ限局スルアリ或ヒハ近傍ノ乳叢体ニ溢出スルアリ最モ險惡ナルモノニアリテハ全身ノ皮膚及ヒ皮下組織共ニ血液ノ滲透ヲ現ハスコトアリ

粘膜ニ於テモ亦タ發疹シ終ニ加多兒性、格魯布性若シクハ腎扶埒利性ノ炎症ヲ發スヘシ外表ニ近接スルノミナラス屢々大氣ニ暴露スル所ノ粘膜ニアリテハ其侵襲ヲ被ムルコト多シ

鼻、舌、扁桃腺、口蓋、喉頭及ヒ歐斯多發、氏管ノ内面ニアリテハ多少膿汁ノ侵淫ヲ起コシ舌体ニ於テハ甚タシク其上皮ヲ失ヒ發疹ノ益々蔓延スルモノニ於テハ氣管ヲ降下シテ分歧部ニ達スルノミナラス食道ニ波及スルコトアリ

肝、脾、腎及ヒ心臟ニ於テ顆粒狀及ヒ脂肪變質ヲ起コシ出血性痘瘡ニアリテハ夥多ノ出血ヲ將來シ又タ漿膜粘膜及ヒ内臟ニ於テ溢血紫斑ヲ現出スヘシ

徵候

潜伏期(即病毒感染期)トハ痘毒ヲ体内ニ吸收シテ其病症ヲ發スルニ至ルノ時日ヲ云フ而シテ此期ハ患者ノ感受性ニ因テ毒物ノ作用ヲ起スニ當テ輕重ノ差アルヲ以テ一定スルヲ能ハサルモノトス

「カルステマン」氏ノ說ニ據レハ最モ普通ノ潜伏期ハ十日乃至十三日ノ間ニアリト云フ其他ノ著述家モ亦タ此說ニ左祖スルモノ多シ然レハ偶マ短キハ五日間ニシテ終ハリ長キハ十四日ニ達スルコトアリ

吾人ハ痘瘡ハ潜伏期ニ於テ其毒性ヲ増殖スルモノト想像スルヲアリト雖レ前徵期ニ至ルマテ病機増進ノ度ヲ微知スヘキ内外ノ感覺ヲ起スヲナシ

前徵期ニアリテハ微然強劇ナル寒戰ヲ起コシ殆ント間歇熱或ヒハ肺炎ノ前驅症ニ類シ或ヒハ偶マ數回若シクハ數時間ノ戰慄ヲ以テ起ルコトアリ

熱症ハ突然發作シテ直チニ華氏百三四度ニ達シ早晨ニ於テ少シク減退シ第一日ヲ過ルルハ百五度若シクハ百六度ニ達シ發疹期ニ至ルマテ依然トシテ退消スルヲナシ

脈搏強實ニシテ大人ニアリテハ一分時間百至若シクハ百四十至トナリ小兒ニアリテハ百六十至ニ達スヘシ

心臟ノ作用モ亦タ強劇ニシテ舉揚スルカ如ク呼吸稍々促進シ屢々非常ノ呼吸困難ヲ將來スルヲアリ頸動脈ノ搏動スルコト急劇トナリ顔面潮紅シテ眼球ニ充血ヲ起シ頭痛劇甚ナルノミナラス魔夢ニ襲ハル、ヲ以テ終宵眠ニ就クヲ能ハス

全然食思ヲ絶チ煩渴欲引シ又タ便秘ト共ニ惡心嘔吐ヲ將來スルモノ多シ

痘瘡患者ニアリテハ大抵背部ニ多少ノ疼痛ヲ感スヘシ然リト雖モ最モ多數ヲ以テ論スルキハ頗フル苦痛ヲ愬エ同時ニ鋭急ナル刺痛ヲ發シテ股部及ヒ脛部ヲ通過シテ脊椎ニ向テ放射スヘシ而シテ脊椎部ニアリテハ深部ニ壓スルカク如錐スルカ如キ疼痛ヲ感スルモノ多シ

強劇ナル背痛ト同時ニ頭痛ヲ發シ其症狀モ亦タ同一ナルアリ

輕症ノ患者ニ於テ日晡ニ際シ偶マ精神ノ錯亂スル如カキアリ又タ症ニヨリテハ強劇ナル譫語ヲ發スルアリ殊ニ平素酒ヲ嗜ムモノニ於テ之レヲ見ルル多シ

「シーデンハム」氏ノ說ニ據レハ前徵期ノ諸症候輕微ニシテ短少ナルキハ病症ノ輕易ヲトスルニ足ルモノトナセリ大家「トロシユ」氏ノ如キモ亦タ此說ヲ主張セリ

「ヂヤクコード」氏ノ說ニ曰ク第二日ノ終リ若シクハ第三日ノ初ニ於テ發疹スルキハ必ス密發痘瘡ト見做スヘシ又タ三四日若シクハ第五日ニ至マテ遷延スルキハ疎發痘瘡ヲ

現出スヘシシ

「シーデンハム」氏ノ說ハ稍々其理ナキニアラサルカ如シト雖モ決シテ確說ト見做スコト能ハサルノミナラス吾人ハ寧ロ「ヂヤクコード」氏ノ說ヲ讚成セサルヘカラス

序熱後第四日ニシテ發疹スルモノハ密發痘ニアラスシテ疎發痘タルヲ知ルヘシ

發疹ノ期日ニ因テ病症ノ輕重ヲ判斷スルコト能ハスト雖モ前徵期ニ於テ現ハル、所ノ症候ノ強劇ナルモノニ至テハ恐ラクハ病症モ亦タ危篤ナルモノト見做スモ敢テ不可ナル

コトナカルヘシ

前徵期ニ於テ普通ノ症候ヲ呈スルノミナラス偶マ重要ナル變症ヲ呈スルコトアリ假令

ヘハ摘掣、譫語及ヒ呼吸困難ヲ發シ或ヒハ前徵期ノ風疹ヲ現出スルコトアルカ如シ

「カルスチマン」氏ハ此風疹ヲ分チテ二種トス一ハ紅斑性風疹ニ一ハ出血性風疹ナリ

紅斑性風疹ハ多ク全身ニ發スルモノニシテ其症狀二種アリ麻疹ニ類スルモノ及ヒ程紅

熱ニ類スルモノ即チ是レナリ

出血性風疹ハ表皮ニ於テ現ハル、所ノ微細ナル血液滲漏ノ斑点ナリ而シテ數個ノ斑点

互ヒニ聚合スルキハ紫斑若シクハ紅斑ノ狀ヲ呈スヘシ

常ニ出血風疹ヲ發スルノ部位ハ腹腔ノ下部ニシテ陰部ヨリ延テ股部ニ達シ三角形ヲナ

スモノ多シ吾人ハ之レヲ「シモン」氏ノ三角ト稱セリ

腋下三角ハ軀幹ノ一側ニ沿フテ腋下及ヒ前膊ノ内面ニ至リ延テ胸筋ニ達スルモノナリ

紅斑性風疹ハ前ニ論スル如ク必ラス全身ノ表皮ニ蔓延スルモノナリ而レモ日常稀有ノ

症候ニシテ普通ノ流行性痘瘡ニアリテハ之レヲ見サルコト多シ予ハ「シンシンナツチ」地

九

方ニアリテ痘瘡ノ流行ニ際シ多數ノ患者ヲ治療セシカ此症ヲ發シタルモノ唯タ一人ヲ
 實見セシコトアルノミ以テ其稀有ノ變症タルヲ證スヘシ
 吾人カ報告書中ニ於テ偶マ此症ヲ見ルヲアルハ多ク程紅熱或ヒハ麻疹ト同時ニ痘瘡ノ
 流行スルカ如キ機會ニ於テ求ルモノ、如シ
 此症候ハ大抵病初第二日ニ於テ現ハル、モノ多シト雖氏第一日或ヒハ第三日ニ於テ發
 スルヲアリ而シテ其時期短少ナルモノニシテ紅斑性ニアリテハ十二時乃至二十四時ニ
 シテ終ハリ出血性ニアリテハ一二日間持續スルニ過キス
 痘瘡ノ前徵期ニ於テ出血素質ヲ現出スルキハ大ニ其時期ヲ遷延スルカ爲メニ普通ノ
 出血性風疹ト誤認スルコト鮮ナカラス之レヲ紫斑性、痘瘡ト稱ス
 紫斑性、痘瘡ハ通常強劇ナル寒戰、背痛及ヒ頭痛ヲ以テ起リ劇熱及ヒ衰弱ヲ將來スヘシ十
 八時間乃至三十六時間ニ於テ顔面ヲ除クノ外全身ノ諸部ニ劇烈ナル程紅熱狀ノ發疹ヲ
 現出スルノミナラス表皮ノ處々ニ紫斑及ヒ巨大ナル出血点ヲ生シ其面積ノ大ナルモノ
 ニ至テハ殆ント「インチ」我ハ分ニ釐余ニ達スルモノアリ而シテ四肢ニ於テ稀疎ナルモ腹
 ニアリテハ密發スルヲ見ルヘシ
 顔面腫脹シテ紅ヲ潮シ結膜ニ充血ヲ呈シ眼球陷没シテ眼瞼ニ血液ノ滲漏ヲ起シ之レカ

爲メニ眼球ノ周圍ニ於テ巨大ナル暗黒色ノ輪ヲ畫出スヘシ
 舌體腫脹シテ黄色ノ厚苔ヲ被ムリ咽頭、扁桃腺及ヒ口蓋ノ部ニ於テ膜狀ノ滲出物ヲ生
 シテ甚タシキ汚臭ヲ放ツヘシ
 咳嗽頻發シテ血痰ヲ咯出シ又タ惡心嘔吐ヲ發シ膽汁及ヒ血液ヲ吐出シ大便モ亦タ血色
 ヲ帶フルノミナラス惡臭ヲ放ツモノ多シ
 尿中ニ多量ノ蛋白質ヲ含有シ暫時ニシテ稠厚ナル血尿ヲ排泄スヘシ
 妊娠中痘瘡ニ罹ルキハ墮胎ヲ來タスヲアリ加之ノミナラス強劇ナル出血ヲ起コシ制止
 スルヲ能ハサルカ爲メニ斃ル、コトアリ
 譫語及ヒ昏睡ヲ將來スルヲアリト雖モ精神ニ於テハ異常ヲ呈スルヲナク偶マ發病後三
 日乃至六日ノ間ニ於テ不幸ニ陥ルコトアリ
 死後身體ヲ檢スルキハ最モ驚クヘキ變狀ヲ現ハスモノニシテ全身ノ表皮悉トク黒色ニ
 變シ且腫脹スルヲ見ルヘシ殊ニ顔面ニアリテハ數多ノ皸癩ヲ生スルノミナラス腫起ス
 ルコト最モ甚タシ斯ノ如キ症ニアリテハ未タ痘瘡ヲ發セサルノ時ニ於テ死ヲ致シ終ニ
 本症タルヲ認ムルヲ能ハサルモノ鮮ナカラス
 發疹期 判然タル發疹ヲ現出スルハ通常發熱後第三日ノ日晡若シクハ第四日ノ早晨

ニアリ

發疹ノ部位ハ當初前頭、眼球及ヒ口唇ノ周圍及ヒ顛項部ニ發シ延テ軀幹及ヒ四肢ニ蔓延スヘシ

發疹ノ形狀ハ初起ニアリテハ唯タ皮膚ニ赤色ノ斑点ヲ現ハシ指尖ヲ以テ壓排スレハ其色退消シ僅カニ隆起シテ硬結ヲ觸知スルノミナラス之レヲ轉移セシムレハ恰カモ皮下ニ粟粒ヲ生シタルカ如キ感覺アリ

發疹ノ粗密多寡ニ至テハ各人同一ナラス吾人ハ大略之レヲ四種ニ別テリ

第一疎發疹、瘡ハ各一ノ發疹分離シテ整然其區畫ヲ有スルモノナリ

第二凝聚疹、瘡ハ數個ノ發疹凝聚シテ巨大ナル斑点ヲ構成スルモノナリ

第三連續疹、瘡ハ各瘡凝結セサルモ互ヒニ連續シテ殆ント觸接セントスルモノナリ

第四密發疹、瘡ハ各瘡互ヒニ凝結シテ其境界ヲ消失シ區別スルヲ能ハサルモノナリ

普通ノ症ニアリテハ二十四時間乃至三十六時間ヲ過クルキハ發疹ノ機能悉トク終局シ

一モ新發ノモノヲ見ルヲナシ

發疹ハ殊ニ毛根ノ周圍、皮脂腺及ヒ汗腺ノ諸孔ニ近接シテ現ハル、モノ多シ

發疹後第二日即チ序熱後第五日ニ於テ赤色ノ斑点漸々増大シ隆起シテ乳頭疹ノ狀ヲ呈

シ發疹後第三日ニ達スルキハ乳頭疹ハ變シテ透明ナル漿液ヲ含ム所ノ水疱、疹トナリ一日若シクハ一日半ヲ過クルキハ大ヒニ其容積ヲ増加シ發疹後第五日即チ發疹後第八日ニ至ルキハ疱内ノ漿液稀濁シテ乳色トナリ直チニ化膿スヘシ

全然痘疤ノ發育ヲ起スルハ中央ニ陷没点ヲ生スヘシ而シテ其基底ニ於テ毛根或ヒ汗

腺若シクハ脂肪腺ノ排泄管ヲ見ルヲアリト雖モ毛根若シクハ排泄管ヲ有セサルモノニア

リテモ亦タ判然陷凹点ヲ現出スルカ故ニ前章ニ述ルカ如ク吾人ハ寧ロ「アンスビズ」氏

及ヒ「パスチ」氏ノ說ニ從ヒ周圍ノ部位ノ發育スルコト過急ナルニ因ルモノト見做サ、

ルヘカラス此際ニ際シ痘疤ノ尖頂ヲ穿刺スルキハ唯タ一滴ノ液ヲ漏ラスニ過キサルヘ

シ是レ即チ膿疱ノ造構蜂窩狀ヲナスニ依ルモノナリ

密發疹ヲ除クノ外諸般ノ痘瘡ニ於テ第八日ニ至ルマテ發疹ノ形狀ヲ見ルニ化膿ノ徵ヲ

呈セスト雖モ第七日ニ達スルキハ必ラス灌膿熱ヲ起スヘシ

密發疹及ヒ巨大ナル連續疹ニアリテハ發疹期ノ第六日ニ於テ灌膿熱ヲ發スルコトアリ

是故ニ發疹期ノ經過ノ如キモ甚タシキ長短ノ差アルモノトス

疎發疹ニ於イテ發疹期ニ達スルキハ患者ノ自覺症ニ於テ著ルシキ變狀ヲ呈スルモノナ

リ假令ヘハ強劇ナル頭痛及ヒ背痛共ニ減少シ或ヒハ全然退消シテ熱症モ亦タ降下シテ

殆ント健態ニ復シ惡心ノ症候モ亦タ忘ル、カ如ク願フル苦悶ニ耐エサリシモ僅カ二三時間ニシテ大ヒニ輕快ヲ覺ユヘシ斯ノ如ク俄然無熱トナルモノハ假痘及ヒ真痘共ニ其發疹極メテ少數ナルモノニ於テ偶マ之レヲ見ルヲアルノミ

重症ノ疎發痘或ヒハ連續痘アリテハ熱症ノ退消スルヲ速カナルモ全然健態ノ度ニ降下スルヲナク一二日間頃カニ亢進シテ殆ント間歇熱ニ類スルヲアリ

密發痘ニアリテハ俄カニ熱症ノ變狀ヲ呈スルヲナキヲ以テ熱度ノ減少ヲ檢出セサルコトアリ

脈搏ハ熱症ノ輕減スルニ從テ漸々其數ヲ減スヘシ

粘膜ニ於テモ亦タ皮膚ト同時ニ發疹スヘシ假令ヘハ結膜、咽喉、喉頭及ヒ氣管ヲ侵カシ之レカ爲メニ流涕、羞明、嚙下困難及ヒ咳嗽ノ如キ諸症候ヲ呈スヘシ

密發痘ニアリテハ發疹蔓延シテ氣管支、腸管、尿道及ヒ陰腔ニ波及スルヲ鮮ナカラス故ニ斯ノ如キ部位ヲ侵カスヤハ屢々危險ニ陥ルヲアリ其他ノ諸症ヲ舉ケレハ強劇ナル結膜炎、角膜潰瘍、葡萄腫及ヒ劇症ノ羞明、流涎、嚙下困難、嚙啞、格魯布狀ノ咳嗽又タハ窒息狀ノ發作ヲ起シ赤痢、尿管痛若シクハ陰腔及ヒ陰門全部ノ熱痛ヲ感スヘシ其外偶發ノ變症ヲ呈スルコトアリ

發疹期ニ於テ感覺閉止及ヒ譫語ヲ發スルハ危險ノ前徵ト見做スヘシ

平素亞爾個兒性飲料ヲ嗜ムモノニ於テ斯ノ如キ神經症ヲ發スルハ神經中樞機ノ萎縮若シクハ運動機ノ亢進ニ依テ來ルモノ及ヒ血液ノ成分ニ於テ變調ヲ起スモノニ比スレハ危險ナルヲ鮮ナシ

大家「ギヤツクコード」氏ノ說ニ曰ク癲狂狀ノ譫語ヲ發シ自盡セントスルモノニアリテハ大抵瀧膿期ノ初起ニ於テ斃ル、モノ多シ

瀧膿期 當初水泡ヲ發シ疔内ノ漿液中ニ膿球ヲ發生シ漸々其數ヲ増加シ第九日ニ達スルハ疔内ノ含有物ハ悉トク膿狀トナルヘシ既ニ此期ニ至ルハ各處其容積ヲ増大シテ殆ント半圓形トナリ其基底ハ廣クシテ暗赤色ヲ呈シ周圍ノ皮膚ハ腫脹スヘシ

痘疔ノ周圍ニ於テ廣キ赤色ノ輪線ヲ畫スヘシ吾人ハ之レヲ暈輪ト稱ス

膿疔ノ深部ニ達スルハ疔内ニ患部ノミナラス表皮ノ全面ニ腫脹ヲ起シ赤色ノ輪モ亦タ廣ク蔓延スヘシ斯ノ如キ症ニ罹ルハ頭部ノ腫脹スルヲ甚タシキノミナラス顔面ニ波及シテ平素ノ容貌ヲ失シ殆ント辨別スルヲ能ハサルニ至ル顔面中特ニ其變狀ヲ呈スルノ部位ハ眼球及ヒ口唇ノ周圍ニ於テ甚タシトス是レ即チ此部ニ於ケル結締組織ノ鬆粗ナルカ爲メニ浮腫ヲ起シ易キニ由ルモノナリ

全身中特ニ痘疹ヲ發スルコトナキ部位アリ所謂前微期ノ風疹ヲ發スルノ部位即チ「シモン」氏ノ三角部是レナリ
 當初顔面ニ發シ尋テ軀幹及ヒ四肢ニ達スヘシ故ニ灌膿ノ如キモ亦タ顔面ヨリ始メテ他部ニ波及スルヲ常トス
 痘疹内灌膿ノ機ヲ起スルハ必ラス先ツ熱症ヲ發スルヲ以テ微証スヘシ假令ハ一回若シクハ數回ノ寒戰ヲ起スモノハ發熱ノ証徴ナリ然レモ既ニ發疹ノ機ヲ終ハルルハ直チニ無熱トナリ或ヒハ輕減スルコト最モ急劇ナリ
 初起ヨリ熱症依然トシテ退消セサルルハ益々灌膿ノ機ヲ起スモノニシテ稍々其症狀ヲ變シテ間歇性トナリ毎日熱度ノ升降スルコト二度ノ差アリ
 灌膿機ノ輕重ニ因テ体温ノ升降脈搏ノ度數及ヒ熱症ノ爲メニ起ル所ノ諸般ノ症候ニ於テ大ヒニ其感動ヲ異ニスルモノナリ
 体温ハ大抵華氏百四度百五度若シクハ百六度ノ間ニアリ脈搏ハ百至百二十至若シクハ百四十至餘ヲ數フルコトアリ
 灌膿熱ノ發現ト共ニ序熱期ニ於テ發シタル諸症候ヲ再發スヘシ假令ハ頭痛及ヒ背痛共ニ再ヒ増劇シ全身ノ皮膚ニ於テ化膿性疼痛及刺衝ヲ起シ心神懊惱シテ不眠症ヲ發シ

高調ナル譫語ヲ放チ或ヒハ喃々濁語スヘシ
 屢々癡狂狀ノ譫語ヲ發シ患者自ツカラ精神ヲ制御スルコト能ハスシテ或ヒハ臥床ヨリ躍起シ或ヒハ窓牖ヨリ逃走シテ市街ニ彷徨スルモノアリ
 小兒ニアリテハ顔面ニ於テ熱灼及ヒ温暖ノ感覺劇甚ナルヲ以テ指端及ヒ爪甲ヲ以テ搔痒シ或ヒハ摩擦スルカ爲メニ出血シテ寢衣ヲ汚染スルノミナラス局處ニ於テ炎症ヲ起スル甚タシキモノアリ
 第十一、日ニ達スルルハ痘疹漸々乾燥スヘシ而シテ其期ヨリ早キモノ抄ナク多クハ遲延スルモノナリ
 結痂ノ順序ハ當初發疹ノ時期ニ依テ遲速ヲ異ニスルモノナリ
 結痂ハ未タ全ク灌膿熱ノ消退セサルニ當テ起ルモノナリ何ントナレハ顔面ノ發疹未タ其極度ニ達セサルノ時ニ於テ既ニ四肢ノ痘疹ニアリテハ灌膿スルカ如キ遲速ノ差アルヲ以テナリ
 既ニ結痂期ニ達スルルハ膿疱ノ表面ニ於テ蜂蜜狀ノ滲出物ヲ生シ漸々乾燥シテ凝着シタル外層ヲ構成シ尋イテ膿疱内ノ含有物モ亦タ乾燥シテ以テ痘痂ヲ結フヘシ
 軀幹ノ背面ニアル所ノ痘疹ニ於テ未タ結痂セサルニ當テ衣被及ヒ膝布ノ爲メニ壓迫ヲ

受ケ終ニ破壊シテ以テ惡具ヲ放ツコト多シ故ニ此徵候ニ因テ大ヒニ診斷ノ扶ケトナル
 鮮ナカラス
 手腕及ヒ足部ニ發シタル膿疱ハ表皮ノ硬固ナルヲ以テ其形狀モ亦タ特殊ナルノミナラ
 ス結痂スルヲ速カニシテ痂皮ノ剝脱スルヲ遲徐ナルモノトス
 既ニ膿疱ノ乾燥スルキハ表皮ノ赤色及ヒ腫脹共ニ退消シテ面貌モ亦タ自ツカラ健態ニ
 復スト雖ヒ表皮滑澤ノ性ヲ失シテ粗糙トナリ稍々赤色ヲ呈スルノミナラス幾分ノ醜形
 ヲ貽スモノ多シ
 全身ノ諸部悉トク痘痕ヲ貽スト雖ヒ特ニ顔面ニ於テ現著ナルモノトス
 真皮ヲ侵蝕シ且密發スルモノニアリテハ巨大ナル組織ノ損亡ヲ起シ易シ斯ノ如キ症狀
 ハ鼻翼ノ周圍ニ於テ見ルヲ鮮ナカラス
 膿疱侵蝕ノ機ヲ起シテ潰瘍トナリ角膜ニ進入スルキハ「レンス」狀體ノ壓出其他諸般ノ
 曇翳症ヲ將來スヘシ
 痘痕ノ部位ニ於テハ周圍ノ皮膚ニ比スレハ稍々白色ニシテ陥凹シタル放射狀ノ癢痕ヲ
 貽スヘシ
 痂皮剝脱スルキハ非常ノ痒癢ヲ感シ小兒ニアリテハ之レニ耐ユルヲ能ハサルヲ以テ妄

リニ播摩スルヲ強劇ナルキハ終ニ局部ニ炎症ヲ發シ巨害ヲ將來スルヲアリ
 表皮ノ炎症益々甚タシキモノニアリテハ羅斯又タハ痘瘡ヲ發スルモノアリ
 普通ノ症ニ於テハ毛髮脫落シ爪甲モ亦タ變換スヘシ

徵候

○ 密發痘 原 CONFLUENT VARIOLA.

前章ニ於テ記載シタルモノハ痘瘡一般ノ症狀ニシテ所謂疎發痘、凝聚痘、及
 ヒ連續痘ノ三種ニ應用スヘシ而シテ密發痘、出血痘、及ヒ變痘ノ三種ニ至テハ各々特殊ノ
 症狀ヲ現出スルヲ以テ更ニ其章ヲ分チテ詳記セサルヘカラス
 密發痘ノ侵襲ハ前徵期ノ症候他ノ痘瘡ニ比スレハ一層暴劇ナルノミナラス發疹ノ期モ
 亦タ迅速ナルモノトス
 既ニ發疹スルキハ忽チニシテ全身ニ蔓延スヘシ或ヒハ偶々顔面、軀幹及ヒ四肢共ニ同時
 ニ暴發スルコトアリ
 暫時ニシテ夥多ノ痘疹互ヒニ近接スルノミナラス終ニ密着シテ巨大ナル水疱狀トナリ
 内ニ漿液膿ヲ含有スヘシ
 顔面ニアリテハ數多ノ巨大ナル膿疱ヲ發シテ殆ント健態ノ容貌ヲ失スト雖ヒ他部ニア

リテハ普通ノ連續痘ト異ナルヲナシ
 粘膿面ニ於テモ亦タ暴劇ナル症候ヲ現ハシ膿疱互ヒニ密着シテ終ニ潰爛ヲ起シ口峽、咽
 頭、鼻竅及ヒ歐斯多幾氏管ニアリテハ腎扶埒利性ノ滲出物ヲ生スヘシ
 舌体ノ腫脹スルヲ甚タシキモノニアリテハ殆ント口腔内ニ充滿スルモノアリ
 喉頭ニ於テ痘疱ヲ發シ又タ喉頭諸軟骨ヲ侵カシ尋テ膿腫ヲ構生シ終ニ喉頭浮腫ヲ發ス
 ヘシ
 耳下腺及ヒ舌下腺ノ腫脹ヲ起スヲ甚タシク又タ角膜ニ潰瘍ヲ發シ終ニ葡萄腫トナルコ
 トアリ
 痘疹ノ密發スルコト劇甚ナル部位ニアリテハ丹毒腫瘍性炎及ヒ巨大ナル化膿点ヲ構成
 シ極メテ危篤ナルモノニアリテハ壞疽ヲ發スヘシ
 患者全身ノ症狀ハ專ハラ皮膚及ヒ粘膜ノ景況ニ準據スルモノト見做スヘシ
 前微期ニ於テ体温ノ昇隆スルヲ最モ甚タシク他ノ疾患ニアリテハ未タ嘗テ見サル所ノ
 高度ニ達シ依然トシテ退消スルヲナク發疹期ニ至ルモ尚ホ華氏百四度ヨリ百五度ノ間
 ニアリ
 胃ニ於テモ亦タ諸般ノ變調ヲ起シ偶マ停滯物アルハ絶ヘス嘔吐ヲ發スルヲアリ

尿液少量ニシテ蛋白質ヲ含有スルヲ頗フル多シ
 僥倖ニシテ前微期ノ熱發ヲ發キ尋テ發疹期及ヒ灌膿期ヲ經過スルハ結痂ニ際シ顔面
 眼球及ヒ眼瞼ノ皮膚ニ於テ巨大ナル組織ノ軟乏ヲ起シ又タ顛項部ノ如キハ毛髮悉トク
 脱落シテ禿頭トナルヘシ

○ 出血痘 名原 *HEMORRHAGIC VARIOLA.* ヒーモレーマツクワリオラ

徵候

出血痘トハ痘疱内ニ出血スルカ爲メニ起ル所ノ一症ヲ云フ而シテ天稟出
 血ノ素質アルモノニ於テ痘瘡ニ罹ルトキハ所謂痘瘡紫斑ト稱スルモノニシテ出血痘ト
 ハ白ツカラ特殊ナリトス
 又タ前微期ニ於テ現ハル、所ノ出血性發疹ハ單純ノ紫斑ニシテ他ノ種類ト區別セサル
 ヘカラス
 出血痘ニ於テ痘内ニ出血ヲ起スノミナラス偶マ近傍ノ組織ニ於テモ亦タ出血滲漏ヲ起
 コスヲアリ
 發疹ノ一部ニ於テ出血スルモノアリ或ヒハ全身ニ渉ルコトアリ
 痘瘡ノ初起ニアリテハ未タ痘疱ヲ發セスシテ乳蕾狀体ヲ現出スルノ時ニ於テ出血スル

アリ或ヒハ水疱ノ期ニ至ルマテ出血セサルアリ然レハ普通ノ症ニアリテハ痘疤ノ中央ニ陷没点ヲ生スルノ時ニ當テ出血ヲ將來スヘシ
 出血ハ通常下肢ノ痘疹ヨリ始メ漸次他部ニ波及スルモノナリ
 口腔及ヒ咽喉ノ諸粘膜ニアリテハ巨大ナル溢血ヲ現出シ扁桃腺、口蓋及ヒ咽喉ノ部位ニ於テ腎扶埤利性ノ滲出物ヲ見ルヘシ斯ノ如キ諸症候ト共ニ齒齦ノ海綿狀變質ヲ起シ又々靨血、齒齦出血、腎臟出血若シクハ子宮出血ヲ將來スヘシ
 妊娠時ニアリテハ子宮出血ヲ起シ尋テ墮胎スルモノ多シ
 全身ノ症候モ亦タ患部ノ變狀ニ從テ輕重ノ差アルノミナラス其發疹ノ部位ニ因テ異ナルモノトス
 全身血液ノ成分ニ於テ諸般ノ變調ヲ起スカ故ニ患者ノ生カモ亦タ從テ甚タシキ虚衰ヲ將來スヘシ
 然リト雖レ豫后ノ如何ニ至テハ甚タシキ差異アルモノニシテ出血点ノ廣狹ニ關スルモノナリ故ニ偶マ出血点ノ多カラサルモノニ於テ全身ノ症候モ亦タ甚タ危險ナラサルモノヲ見ルアリ

徵候

○ 變痘 又 假痘

ワリオコイド 名原 VARIOLOID.

變痘(即チ假痘)トハ一タヒ牛痘ヲ種痘シタルモノ又ハ從前痘瘡ニ罹リタルモノ或ヒハ患者ノ持異性ニ於テ痘毒ノ作用ニ感染セサルモノニ於テ發スル所ノ變性痘瘡ノ一種ナリ

然リト雖レ今日ニアリテハ大抵種痘術ノ感動ニ因テ天然痘ノ病勢ヲ輕減セシメタルモノト見做スモノ多キカ如シ

當初種痘ヲ施コシ或ヒハ真痘ニ罹リテ全然免危質トナリタルモノ時日ヲ經過スルニ從テ漸々其體質ヲ變シテ痘毒ヲ抗拒スルノ力ヲ失スルカ爲メニ再ヒ感染スルモノナリ然リト雖レ大數ノ比例ヲ以テ論スルハ生涯其抗拒力ヲ保有スヘシ

假痘ハ其經過中諸般ノ点ニ於テ真痘ノ模範ト異ナルヲ見ルヘシ左ニ其特殊ナル症候ヲ詳記スヘシ

前徵期ハ一二日ナルアリ或ヒハ三四日ニ跨カルコトアリ而シテ發疹期ニ達スルトキハ体温俄カニ減退シテ平温若シクハ其以下ニ降り依然トシテ昇降ナク灌膿期ニ達スルハ一二日間高度ノ熱ヲ發スヘシ

前微期ニ發スル所ノ紅斑性風疹ハ變痘ニ於テ現出スルモノニシテ真痘ニ發スルコトナク又タ痘疹ヲ發スルコト多キモノハ痘疹ノ數却テ少ナキヲ常トス
變痘ハ發育ノ景況及ヒ痘疹ノ症狀ニ於テ真痘ニ比スルニ著ルシキ差異ヲ有スルモノナリ其要點ヲ舉ケレハ初起ニ於テ顔面ニ發セスシテ胸腹及ヒ四肢ニ現出スヘシ而シテ全身ノ諸部ニ於テ同時ニ顯ハル、モノアリ或ヒハ顔フル緩慢ナル經過ヲ遂フテ徐發スルモノアリ

變痘ニ於テ現ハル、膿疱ノ造構ハ真痘ト異ナラサルカ如シト雖其發育ニ當テハ一様ナラサルモノトス假令ヘハ發疹ノ如キモ其外觀ニ於テハ同一ナルモ發育ノ景況同シカラサルノミナラス結痂スルコト諸部皆ナ一頓ニ來ラスシテ遲速ノ差甚タシトス又タ當初血斑ヲ生シテ漸々發育スルコトナク直チニ退消スルコトアリ或ヒハ水疱トナリ灌膿セスシテ乾燥スルコトアリ或ヒハ膿疱トナリ周圍ニ紅暈ヲ發スルコトアリ照レトモ周圍ノ皮膚ニアリテハ腫脹スルコトナク發疹後大抵第五日乃至第七日ノ間ニ於テ結痂スヘシ

漿液膿狀ノ液ヲ含有スル所ノ痘疹ハ排泄セスシテ漸々乾燥結痂シ治後暫時充血点ヲ現ハスト雖其癢疹ヲ貽スコトナシ

經過時期及轉歸

粘膜炎ヲ侵カス所ノ發疹ハ大抵輕症ニシテ苦惱ヲ發スルコト少ナシ

輕重ノ差アリト雖其經過ニ至テハ大同少異ナリ
諸種ノ痘疹中最モ恐ルヘキモノハ紫斑性痘疹ニシテ所謂出血素質ヲ賦有スルモノニ於テ痘疹ヲ發シタルモノ即チ是レナリ故ニ此症ニ罹ルニハ未タ判然痘疹ヲ現出セサルノ時若シクハ發疹時ニ於テ死ヲ致スモノ多クシテ發病後六日以上ノ時日ヲ經過スルモノ極メテ稀レナリ

密發痘ハ危險ナルモノ多シト雖其必ラスシモ不幸ニ陥ルモノニアラサルナリ而シテ其轉歸ハ通常肺炎、肋膜炎及ヒ心囊炎ナリ特ニ肋膜炎及ヒ心囊炎ノ二症ハ最モ多シ
快復ノ轉歸ヲ取ルトキハ全治スルコト頗フル緩慢ナルモノニシテ其經過中諸般ノ合併症ヲ發シ易ク皮膚ノ潰瘍ノ如キハ屢々見ル所ナリ故ニ膿血症ヲ繼發スルモノ極メテ多シ

出血痘疹ノ特徴ト見做スヘキモノハ強劇ナル腰痛ヲ發シ体温低度ニシテ始終昇隆セサルモノトス或ヒハ序熱期ニ於テ高度ニ達スルコトアリ
此症ハ紫斑性痘疹ニ比スレハ其時期遷延スルコト甚タシク多クハ不幸ニ陥ルモノナリ

痘疹中ニ出血滲漏ヲ起スモノ多數ナルハ死ヲ致スモノ亦タ多シトス
予ハ痘瘡ノ流行時ニ於テ出血性痘瘡ノ患者六名ヲ治療セシカ全治シタルモノ四人ニシ
テ多クハ顔面ノ痘疹ニ於テ出血セリ
痘瘡ノ經過ハ諸般ノ併發症ニ因テ變換セラル、モノナリ
偶々腦及ヒ脊髓ノ諸部ニ於テ夥多ノ炎電ヲ檢出スルコトアリ
前章ニ於テ既ニ記載シタルカ如ク眼球ヲ侵カス所ノ併發症ハ角膜潰瘍、眼炎及ヒ網膜出
血ノ諸症ナリ
慢性耳炎、骨瘍又ハ耳聾ヲ發シ喉頭ノ慢性炎ニ因テ發聲器ヲ侵カコトアリ
死亡ハ大ヒニ年齢ニ関スルモノニシテ中年ノ人ニ尠ナク老人及ヒ小兒ニ多ク殊ニ幼兒
ニアリテハ最も險惡ナリ
婦人ニアリテ妊娠時ニ於テ侵カサ、或ハ危險ニ陥ルコト多キヲ以テ男子ニ比スレハ死亡
ノ數モ亦タ多キヲ常トス
平素亞爾個兒性ノ飲料ヲ嗜ムモノハ危險ナリ總テ斯ノ如キ事實ハ患者ノ生力ヲ減殺ス
ルカ爲メニ疾患ニ遭フテ抗拒スルノ力モ亦タ微弱ナルニヨルモノナリ
發疹ノ部位廣大ナルハ病症モ亦タ順ツテ危篤ナルモノトス

特リ被患ノ表皮ニ據テ其症狀ヲトスルノミナラス粘膜面ニアリテモ亦タ發疹ノ多數ニ
因テ輕重アルモノトス
喉頭實扶埤利亞及ヒ喉頭炎モ亦タ危險ナル併發症ナリ
時期ハ痘瘡ノ種類、發疹ノ多寡及ヒ併發症ニ因テ同一ナラサルモノトス
通常發疹ノ時期ハ五六週日ニシテ其經過ヲ終ハルモノナリ

治則

豫防法ノ最第一タル種痘術ハ後章ニ於テ詳載スルヲ以テ爰ニ之レヲ論ス
ルノ必要ヲ見サルナリ
吾人ハ痘瘡ノ經過ヲ變換シ或ヒハ其時期ヲ短縮スル所ノ療法ヲ有セサルナリ是故ニ世
人カ特效藥トシテ稱讚スルモノ鮮ナカラスト雖モ一モ卓効ヲ奏スルモノナシ
治術ハ唯々對症療法ニ過キサルナリ
特效藥ノ作用若シクハ治術ノ奇法ニ依テ効驗ヲ現シタルカ如キ例証ヲ喋々スルモノア
リト雖モ其實際ニ就テ檢査スルハ全ク種痘術ノ爲メニ病毒ヲ驅逐シタルモノヲ見ル
コト鮮ナカラサルヲ以テ漫リニ其說ヲ維持スルコト能ハサルナリ
變痘ニアリテハ藥用ヲ要セサルモノ多シ
密發痘ニアリテハ療法ヲ施スモ其効驗ナキヲ以テ敢テ治術ニ注意セサルモ可ナリ

前徵期ニ於テ吾人カ最モ注目スヘキ症候ハ劇熱及ヒ腦症ナリ
 精神懊惱、譫語及ヒ熱症ヲ緩解スルニハ具素加里及ヒ格魯刺兒ヲ最良トス
 頭痛及ヒ背痛ノ強劇ナルモノニアリテハ莫爾比涅ヲ皮下ニ注射スヘシ
 或ル人ハ具素加里ヲ以テ痘瘡ノ發疹ヲ變換セシムルノカアルモノトナセリ
 第二ノ熱症(灌膿熱)ヲ發スルルハ幾尼涅(毎回五五)ヲ投シ腦ノ刺衝ヲ鎮靜スルニハ具
 素加里ノ右ニ出ルモノナシ
 譫語ヲ發スルヲ甚タシキモノニアリテハ殆ント癲狂症ニ類スルカ故ニ常ニ其看護ヲ怠
 ルコトナカルヘシ
 此期ニ於テ格魯刺兒ヲ内服セシムルルハ口峽ノ部ニ於テ刺衝ヲ起スヲ甚タシキヲ以テ
 妄リニ之レヲ用フヘカラス若シ止ムヲ得サルルハ直腸ヨリ注射スヘシ
 疼痛ノ感覺アルモノハ莫爾比涅或ヒハ阿片劑ヲ以テ恰當トス
 生力ノ抑壓甚タシキハ炭酸安謐尼亞及ヒ亞爾個性ノ衝動劑ヲ與ヒテ反動ヲ起コサシ
 ムルコト最モ緊要ナリ
 病初ヨリ適宜ノ榮養ヲ怠ルヲナカレ故ニ毎三時ニ牛乳、鶏卵、獸肉、牡蠣及ヒ牛肉蒸汁ヲ
 與フヘシ

氷片ハ意ニ適スルノミナラス多量ヲ與フルモ妨ケナシ
 口腔内ニ於テ數多ノ痘疹ヲ發スルモノニ於テ氷片ヲ含ムルハ惡心ヲ鎮靜スルノ効アリ
 嘔吐ヲ發スルコト頻數ナルモノニ於テ莫爾比涅ヲ皮下ニ注射スルルハ偉効ヲ奏スヘシ
 頭顱及ヒ脊椎部ニ氷囊ヲ胎スルトキハ疼痛ヲ緩解スヘシ
 顔面ノ發疹ニ於テ痘痕ヲ豫防スルカ爲メニ種々ノ療法ヲ稱用セリ
 佛人ハ大ヒニ水銀軟膏ヲ稱讚セリ又タ油布ノ如キモノヲ以テ顔面ヲ被包シ患部ヲシテ
 大氣ニ暴露セシメサルルハ良驗アリ
 予ハ一日數回澱粉ニ「ダリスリン」ヲ和シタル軟膏ヲ取り刷毛ヲ以テ塗布スルノ法ニ因
 テ屢偉効ヲ奏セリ
 當初乳頭狀ノ赤斑ヲ現出シ漸々増大シテ將サニ水疱ノ狀ニ變換セントスルニ際シ患部
 ノ全面ニ沃度丁癢ヲ塗布スルルハ好結果ヲ得ヘシ
 諸般ノ局處療法中特ニ歐アヘカラサルモノハ「カルスタマン」氏カ稱用セシ所ノ顔面及
 ヒ頭部ノ水治法ナリ其法タルヤ冷水ニ浸シタル「リント」若シクハ布片ヲ患部ニ貼シ常
 ニ冷漏セシムルニアリ此法ヲ施スルハ局處ノ温暖及ヒ熱灼ヲ減スルノミナラス皮膚ノ
 腫脹ヲ減スルコト最モ著ルシ

冷水ヲ用ヒテ不快ノ感覺アルキハ微温湯ヲ代用スヘシ
 口腔内ノ發疹ニハ格魯爾加里ノ含漱劑ヲ用ヒ若シ惡臭ヲ放ツキハ石炭酸溶液ヲ用ヒサ
 ルヘカサス
 諸種ノ殺菌藥假令ヘハ「ハイドラスチス」「イユカリプトル」及ヒ次硫酸鉄ノ如キモノモ
 亦タ欲クヘカサルモノトス
 既ニ落茄セントスルキハ温浴ヲ命シテ其腕ヲ促カシ熱テ痒癢ノ感覺ヲ癒スヘシ而シ
 テ浴後直チニ家猪脂、牛脂若シクハ「ワセリン」ノ塗劑法ヲ施コスヘシ
 患者ノ排泄物ハ石炭酸、硫酸鐵又タハ沃度ヲ以テ傳染力ヲ撲滅スヘシ
 病室内ニハ沃度或ヒハ亞硫酸ノ蒸氣ヲ發生シテ空氣中ノ傳染毒ヲ撲滅シ且病室ト廊廡
 ト常ニ空氣ノ流通ヲ促カスヘシ
 患者ノ身体ニ觸接シタル物品ハ皆ナ之ヲ燒却シ室内ノ裝飾モ亦タ之レヲ新規ニスヘシ

牛痘

○牛痘及種痘術 名原 ワクシニアエンドワクシナーレヨン
 VACCINIA AND VACCINATION.

牛痘トハ牛馬若クハ他ノ獸類ニ於テ發スル所ノ天然ノ疾患ナリ
 牛痘ハ一種ノ水疱疹ニシテ乳房及ヒ乳頭ノ部ニ限局スルモノナリ而シテ其流行ハ散在
 性トナリ或ヒハ皮膚ヲ侵カス所ノ寄生蟲トナリテ來ルモノ、如シ
 本症ハ特ニ授乳期ノ牝牛ニ發スルヲ多キヲ以テ牛乳ヲ搾出スルモノ、手指ニ感染シテ
 他人ニ觸接スルカ爲メニ傳染スルヲ多ナカラス
 牛痘ハ犍年ノ牝牛ヲ侵カスヲ多ク其經過ハ自發スルモノモ種接スルモノモ殆ント同一
 ナリ
 自發性ノモノニアリテハ潜伏期ハ通常三四日ナリト雖モ偶々五日乃至八日間持續スル
 コトアリ
 當初乳房腫脹シテ温煖トナリ且鈍痛ヲ覺エ乳頭及ヒ其基底ニ於テ豆大ノ硬固ナル乳頭
 疹ヲ現出スヘシ
 種接性ノモノニアリテハ皮膚ヲ截リテ種接シタルモノハ第五日ニシテ乳頭疹ヲ發シ皮
 膚ヲ截ラサルモノハ八九日ヲ經サレハ發セサルモノ多シ
 顯点後三四日ヲ經ルキハ乳頭疹漸々發育シテ判然タル水疱疹トナリ中央ニ陥没点ヲ現

出スヘシ

顯点後四日以上八日間ヲ過クルキハ痘疹ノ發育其極度ニ達スヘシ
 痘疹ノ數ハ一定スルヲナク二三顆ナルアリ多キハ二十顆餘ヲ發シ其面積ハ大抵一厘銅
 貨大ナリ而シテ其形狀ハ部位ニ因テ一様ナラサルカ如シ故ニ乳頭部ニアリテハ楕圓形
 ヲナシ基底ニアリテハ正圓ナリ又タ乳房ニアリテハ二様ノ痘疹ヲ發スルモノ多シ
 乳頭部ニ發スル所ノ痘疹ハ大抵密發痘若シクハ凝聚痘ナリ
 痘疹ノ色澤ハ一定セスト雖モ通常鮮明ニシテ光輝ヲ放チ中央ニ石盤色ノ斑点ヲ現出シ
 其周圍ニアリテハ狭少ナル帯紅色ノ硬結シタル帶狀輪ヲ爾知スヘシ
 痘疹及ヒ乳輪ノ色澤ハ皮膚ノ組織及ヒ色澤ニ依テ異ナルモノトス
 第十一日ノ終ニ於テ全然痘疹發育シテ極度ニ達スルキハ疱内ノ漿液充滿シテ中央ノ陷
 没点消滅シ殆ント半圓形ノ隆起ヲ現出スヘシ此時ニ當テ膿疱ヲ穿刺スルキハ橙黄色ノ
 淋巴液ヲ流泄スヘシ然レモ破壊セサルキハ漸々混濁シテ膿狀トナリ第十四日ニ達スル
 キハ帶褐黑色ノ痂皮ヲ生シ乳輪及ヒ帶狀ノ硬結モ亦タ漸々退消スヘシ
 痂皮ハ時ヲ經ルニ從テ萎縮シテ乾燥シ大凡ソ第二十三日ニシテ剝脫スルヲ常トス
 痂痕ハ痘疹ノ形狀ニ順テ圓形若シクハ楕圓形トナリ滑澤ニシテ帶白色ナリ

皮膚ヲ摩擦シ又タ乳汁ヲ搾出スルカ爲メ之レヲ破壊スルキハ處々ニ巨大ニシテ黒色ナ
 ル凝塊ヲ生シ或ヒハ出血点ヲ見ルヘシ
 膿疱ノ造構ヲ論スルキハ數多ノ障壁ヲ有シ其間隙ニ於テ漿液ヲ含蓄スルモノニシテ天
 然痘ニ於テ現ハル、所ノ膿疱ト異ナルコトナシ
 痘疹ヲ發生セシムルノ方法一様ナラス當初發疹シタル牝牛ヨリ痘漿ヲ取り種接スルア
 リ或ヒハ殆ント牛痘ト同性ヲ有スル所ノ馬痘ノ漿液ヲ用フルモノ可ナリ或ヒハ人体ニ種
 接シタル痘疹ノ痘液ヲ以テ再種スルモノ可ナリ或ヒハ天然痘患者ノ痘漿ヲ種接スルモノ
 ナリ
 天然痘ノ漿液ヲ取り牝牛ニ種接スルモ容易ニ發疹セサルヲ以テ古來其是非ヲ論スルモ
 ノ鮮ナカラスト雖モ屢々實驗スル所ノ成績ニ據レハ其性状ハ普通ノ牛痘ト異ナラサル
 ヲ以テ當初大家「ゼンネル」氏カ論シタル如ク牛痘ハ牝牛ノ體質ニ依テ感傳シタル一種
 ノ天然痘ト見做ス其當ヲ得タリト云フヘシ

種痘術

種痘術ハ近世ニアリテハ益々人命ヲ救済スルノ便法タルヲ知ラサルモノナシ故ニ爰ニ其効驗ヲ啾々スルノ要ナキニ似タリ

種痘術ハ「ゼンチル」氏ノ説ノ如ク人体ニ發シタル天然痘ノ漿液ヲ用フヘキヤ或ヒハ牛痘ヲ接種スベキヤノ疑問ニ至テハ素ヨリ牛痘ヲ撰マサルヘカラス故ニ今マ左ニ其是非ヲ詳明スヘシ

人体ノ痘苗ヲ撰擇シ之レヲ貯蓄スルノ法粗漏ナルモ若シクハ屢々接種スルモハ漸々痘漿ノ發生力ヲ減少スヘシ縱令ヒ發育ノ症狀ハ最初接種シタルキト異ナルヲナキモ抗拒力ハ益々減少スルヲ見ルヘシ

又タ人痘ヲ接種スルニ當テ其痘苗ヲ撰マサルモハ痘毒ト共ニ微毒ヲ感染セシムルノ恐れアリ是故ニ人痘接種ノ法ハ緝用スルヲ能ハサルノミナラス其痘毒ノ不潔ヨリ起ル所ノ災害ハ之レヲ避ノルヲ能ハサルモノト見做サ、ルヘカラス

牛痘ニ於テ吾人カ憾ム所ハ其發生確實ナラサルノミナラス縱令ヒ發生スルモ其作用ノ強劇ナルカ爲メニ屢々全身ノ變症ヲ誘起スルニアリ

痘苗ヲ貯蓄スルニハ蠟管或ヒハ象牙ノ管ヲ用ヒ速隔ノ地ニ輸送セントスルモハ硝子製ノ細管ニ入レ封蠟ヲ以テ前後ヲ密閉スヘシ

又タ數日若シクハ數月間貯蓄セント欲セハ痘漿ニ「グリスリン」ヲ加ヒテ硝子管内ニ密封スヘシ人痘ヲ接種セント欲セハ發疹後第七日或ヒハ第八日ニ達シタル痘疤ヨリ臍チニ健体ノ人ニ移植スヘシ

予ハ獨逸國ヨリ輸送シ来レル痘漿ヲ接種シテ屢々好結果ヲ得タリ

痘苗ヲ得ント欲セハ第七日若シクハ第八日ノ痘疹ニ於テ其外縁ヲ刺シテ痘内ノ中隔ヲ破壊シ注意シテ健康部ノ皮膚ヲ傷クルヲナカルヘシ而シテ其穿刺シタル創口ニ硝子細管ノ一端ヲ接スルモハ直チニ管内ニ注入スヘシ爾後之レニ「グリスリン」ニ分ト蒸餾水ニ分ヲ加ヒ細管ノ兩端ハ封蠟ヲ以テ閉鎖スヘシ

痘苗ヲ得ルニ當テ最モ細心注意スヘキモノハ痘病患兒ノ身體素質及ヒ痘漿ノ良否ヲ鑑定スルニアリ

種痘術ハ尖刀ヲ以テ表皮ヲ剝離シテ真皮ニ達シ將サニ出血セントスルノ時ヲ度トナシ駱駝毛筆ヲ以テ其剝離面ニ痘漿ヲ塗布スルニアリ

又タ一法アリ長サ四歩許ノ創面ヲ地平ニ作り又タ之レヲ横キリテ表皮ヲ截リ或ヒハ刀尖ニ痘漿ヲ塗リテ一頓ニ皮下ニ刺入スルモ可ナリ而シテ其截開及ヒ刺入共ニ出血セサルヲ度トスヘシ

種痘ノ數ハ上膊若シクハ大腿ニ於テ三四顆ヲ種接シ豫カシメ其距離ヲ測リテ各痘互ヒニ密接セサランコトヲ注意スヘシ

種接後第三日ニ至ルキハ乳頭狀ノ点ヲ現出シ第六日ニ達スルキハ帶青白色ノ水疱トナリ邊緣隆起シテ中央ニ陥没点ヲ生スヘシ第八日ニアリテハ發育其極度ニ達シ痘内ハ漿液ヲ以テ膨滿シ周圍ニ赤色ノ鞏輪ヲ現出シ殆ント二寸以上ニ達シ皮膚及ヒ皮下蜂窠織ノ硬結スルコト甚ダシキモノアリ

第十日ニ至ルキハ周圍ノ鞏輪漸々萎小シ痘内ノ含有物ハ混濁シテ黄色ヲ呈シ稠厚トナリ乾燥スヘシ既ニ第十四日ニ達スルキハ褐色ノ凝塊トナリ第二十三日ニ至ルマテ剝脫セス

茄皮ハ圓形ニシテ邊緣隆起シ中央陥没シテ全面悉ク帶褐黑色トナルヘシ既ニ茄皮剝脫スルキハ陥没シタル癩痕ヲ胎コシ其形放線狀ヲナスモノアリ或ヒハ圓形ヲナスモノアリテ周圍ノ表皮ニ比スレハ蒼白色若シクハ白色ヲ呈シ永遠治セサルモノアリ

種痘ヲ施スキハ多少運動神經系ニ於テ變調ヲ起シ痘疹發育ノ極度ニ達スルキハ熱症ヲ發シ夜間安眠ヲ妨クルコトアリ

偶マ蓄薇疹或ヒハ乳頭疹ヲ併發スルコトアリ

癩癩性ノ小兒ニアリテハ水疱ノ發育ニ因テ起ル所ノ刺戟ノ爲メニ濕疹ヲ發シ或ヒハ耳漏ヲ將來スルコトアリ

通常種痘スルモ濕疹若シクハ耳漏ヲ將來スルコト少ナシト雖モ輕微ノ創傷ヲ被ムルモ癩癩質ノモノニアリテハ誘發セラルコト多シ

種痘後患者ノ免厄質ヲ保有スルノ時期一樣ナラサルモノニノ多數ノモノニアリテハ生涯感深スルコトナシト雖モ偶マ二三年ニシテ其抗拒力ヲ脱失シテ痘毒ニ感深スルコトアルヲ以テ種接後數年ヲ經ルモノニアリテハ再三種接スルコト最モ緊要ナリ

現今ニアリハ歐洲諸邦ノ軍人ニ於テハ皆ナ悉ク再種ヲ施コシ大ヒニ天然痘ノ流行ヲ制止スルノ効驗アルコトヲ知ラサルモノナキニ至レリ

特ニ流行傳染ノ萌シアルキハ直チニ種痘術ヲ施コスヘシト雖モ一般ノ規則トシテ流行ノ有無ニ関セス再種法ハ第二生齒期後第五年ニシテ施コシ其後春機發動期ニ於テ更ニ又タ種接スルヲ以テ足レリトス故ニ其種痘時ニ於テ善ク感深スルキハ其他ノ時期ニ於テハ之レヲ要セサルモノト見做スシ

○水痘 又 風痘 名原 ヲリセラ
VARICELLA.

釋義

水痘ハ一種ノ熱性病ニシテ体温昇隆ノ初期ニ於テ水痘疹ヲ現出シ第三日乃至第五日ヲ經ルキハ乾燥シテ落痂シ同時ニ体温モ亦タ退消スルモノナリ
俗間ニアリテハ之レヲ風痘ト稱セリ

原因

近世學者社會ニ於テ一般信任スル所ノ學說ニ據レハ水痘ハ一種特異ノ傳染毒ニ因テ起ル所ノ一症ナリ

往古水痘ヲ以テ假痘ト同一ノ病機ニ因テ起ルモノト見做セシノミナラス今日ニアリテモ偶マ此說ヲ主張スルモノアリト雖モ未タ確証ヲ得ルヲ能ハサルナリ
本症ハ幼兒ヲ侵カスヲ多ク十年以上ノモノニ至テハ頗フル稀レナリ
水痘ハ散在性トナリ或ヒハ流行性トナリテ米ルヲアリト雖モ其傳染ノ方法審ラカナラス故ニ觸接傳染ノカヲ有スルモ極メテ微弱ナルモノトス

病理的解剖

發疹ノ症狀ハ疎發性及ヒ凝聚性ノ二様アリ而シテ其容積ハ帽針頭大ヨリ豆大ニ達シ偶マ一厘銅貨大ノモノヲ見ルヲアリ

發疹ノ數ハ十顆乃至二十顆ニ過キサレモノアリ而レモ大數ナルモノニ至テハ殆ント數千顆ニ達スヘシ

痘疹ハ透明ナル水泡ニシテ内ニ透明水様ニシテ稍々黃色ヲ帶フル所ノ液体ヲ含有シ弱亞爾加里性ノ反應ヲ呈スヘシ
初起ニアリテハ輕微ノ充血点ヲ現ハシ周圍ニ淡色ノ輪ヲ畫スルコトアリ而シテ二十四時間以内ニシテ發育ノ極度ニ達シ中央ノ部ヨリ漸々乾燥シテ微細ニシテ帶黃褐色ナル痂皮ヲ生シ二三日ニシテ剝脫スヘシ
痂皮剝脫ノ痕ハ桃花色ノ斑点トナリ二三日ニシテ消失シ偶マ天然痘ニ類スル癍痕ヲ貽コスヲアリ

徵候

本症ニアリテハ毫モ前驅症ヲ發スルヲナク又タ熱症ヲ呈セサルヲ以テ水痘疹ヲ現出スルニ當テ始メテ之レヲ認知スルヲ常トス

發疹ト同時ニ体温ノ昇隆スルヲ見ルヘシト雖モ其發熱ノ高度ニ達スルヲ少ナク大抵一二度ノ間ニアリテ三度以上ノ増進ヲ見ルコト極メテ稀レナリ

發疹ハ當初軀幹ニアリテ漸々四肢ニ波及スヘシ又タ顛頂部ニ於テモ之レヲ發スルコトアリ

初起ニアリテハ蕃薇疹ノ如キ斑点ヲ顯ハシ忽チニシテ水泡疹トナルヘシ第二日ニ達スルキハ水痘疹ノ間隙ニ於テ蕃薇疹若クハ他ノ痘疹ヲ現出スヘシ

顔面ニ於テモ亦タ小數ノ發疹ヲ見ルコトアリト雖モ多クハ前頭部ニ發スヘシ
第二日ニ於テ發疹ノ極度ニ達シ尋テ漸々快復シテ熱症退消シ痘疹モ亦タ乾燥シ終ニ落
茄スヘシ

口内及ヒ生殖器ノ粘膜ニ於テモ亦タ同一ノ痘疹ヲ發スヘシ

全身ノ症候ハ顔フル輕微ナルモノトス故ニ熱症ト同時ニ食思欲之便秘及ヒ渴思ノ如キ
項少ノ異常ヲ呈スルニ過キス

顛頂部ニアリテハ殊ニ搔痒ヲ起コシ之レカ爲メニ安眠ヲ妨タルコト鮮ナカラス

眼球ニ於テモ亦タ刺衝ヲ起コシ易ク偶マ結膜ニ於テ水疱ヲ發スルコトアリ然リト雖ト
モ眼球ニ障礙ヲ及ホスモノ、如キハ極メテ少ナシトス

治則

本症ニ於テハ一モ特異ノ療法ヲ要スルコトナシ故ニ宜シク對症治法ヲ施
コシ自然ノ良能ニ依テ回復スルヲ待ツヘシ

○ 麻 疹 名原 MEASLES, RUBEOLO.

釋 義

麻疹ハ自節性ノ發疹熱病ニシテ肺氣管支粘膜ニ於テ加多兒性炎症ノ徵候
ヲ現ハシ大略二週日ノ時期ヲ以テ終ハルモノナリ

麻疹ナル文字ハ發疹ノ狀殆ント麻實ニ類スルヲ以テ應用シタルモノナリ

原 因

大家「ロンバード」氏ノ說ニ據レハ麻疹ハ全地球中流行セサルノ地ナシ
ト雖モ熱帶地方及ヒ北極近接ノ諸邦ニアリテハ其力ヲ逞マシマスルコト能ハサルカ如シ
麻疹ハ一種ノ接觸傳染病ニシテ直チニ患者ニ接觸スルカ爲メニ感傳スルノミナラス其
毒質ハ患者ノ被衣若シクハ器具ニ感染シテ遠隔ノ地ニ達シ或ヒハ健康体ニ宿リテ他人
ヲ侵カスコトアリ

麻疹ハ種接法ニ因テ感染セシムルヲ得ヘシ而シテ其毒質ノ好シテ占襲スルノ部ハ鼻粘
膜ヲ以テ第一トス

本症ハ流行性トナリテ蔓延スルコト多シト雖モ偶マ散在性トナリテ來ルコトアリ

麻疹ノ感受性ハ各人皆ナニ様ナラサルモノニシテ殊ニ哺乳兒ノ如キハ感染スルコト最
モ多ナシ

男女ニ就テハ共ニ同一ノ比例ナリ

流行時ニアリテハ流行性ノ毒質ニ暴露スルモ皆ナ悉トク侵カサル、モノニアラサルナ
 リ
 一般ノ規則トシテ論スルキハ一タヒ本症ヲ患ヒタルモノハ生涯免厄質トナルヘシ然リ
 ト雖氏間マ破格ノ例証ヲ見ルコト鮮ナカラサルナリ
 本症ハ特ニ小兒ヲ侵カス所ノ疾患ナリ然リト雖氏哺乳兒ニ至テハ之レニ罹ルコト少ナク
 殊ニ初生兒ニアリテハ極メテ稀ナリトス
 大氣ノ景況ニ於テ氣管支ノ疾患ヲ誘起シ易キ時候ニアリテハ麻疹ノ流行ヲ促カシ易キ
 モノナリ故ニ春冬ノ二季ニ於テ最モ多數ナルノミナラス其病勢モ亦タ猛烈ナリ
 本症ノ經過中最モ毒質ノ有力ナル時期ハ發疹ノ極期ニアリ然リト雖氏病初ヨリ末期ニ
 至ルマテ多少傳染ノ原質ヲ存スルモノナリ

病理的解剖

發疹ノ初起ニアリテハ暗赤色ナリ偶マ蔷薇紅色ナルモノアリテ
 帽針頭大ヨリ其三倍ナルモノアリ試ミニ之レヲ指壓スレハ其色退消シ其壓ヲ除ケハ再
 ヒ現出スヘシ
 發疹ノ斑点ハ圓形ニシテ通常疎發性ナルモノ多ク判然健康部トノ境界ヲ存スヘシ又タ
 偶マ凝集性トナリテ米ルキハ巨大ナル面積ヲ有シテ全面悉トク赤色ヲ呈スヘシ

斑点ハ健康部ノ表皮ニ比スレハ稍々隆起シ偶マ斑点ノ周圍ニ於テ微細ナル乳蕈ヲ現出
 スルコトアリ
 麻疹ヲ發スルキハ乳蕈ノ有無ニ関セス表皮ヲシテ粗糙ナラシムヘシ
 全身中斑点ヲ現ハサ、ルノ部ナシト雖氏四肢ニ比スレハ顔面及ヒ軀幹ニ於テ最モ著ル
 シキモノナリ而シテ顔面ニアリテハ其數頗フル多クシテ凝集シ易ク其色稍々透明ナリ
 發疹ノ順序ヲ舉ケレハ當初顔面ニ發シ尋テ頸部、咽喉、胸廓ノ上部ニ現出シ終ニ腹股ニ
 波及スヘシ
 顔面ニ於イテハ其發育充分ノ度ニ達シ他部ニ比スレハ一二日間前ニ現出スレ氏退消ス
 ルハ同時ニアリ
 發育ノ極度ニ達スルノ期ハ半日若シクハ一日ヨリ多カラス此期ニ於テ内攻ヲ起コス
 アルキハ日晡若シクハ夜間ニアルモノ多ク俄然消失シテ二十四時間ヲ經フルキハ皮膚
 蒼白色ヲ呈スヘシ
 麻疹ノ内攻ヲ起スルハ諸症候共ニ増劇シテ再ヒ斑点ヲ現出シ殆ント最初ノ容積ニ達ス
 ヘシ然レ氏斯ノ如キ變症ハ例外ニ屬スヘシ故ニ多クハ二三時間ニシテ漸々萎縮スルヲ
 常トス

發疹ノ部位ニアリテハ治後數日間褐色若シクハ帶黃色ノ斑点ヲ貽スヘシ
發疹ノ極期ニ於テ出血滲漏ヲ起スモノニアリテハ出血紫斑ヲ現出シテ通常ノ血斑ト異
ナルコトナシ

苔癬ニ類似スル所ノ麻疹ニアリテハ多少表皮ノ剝脱ヲ起スト雖モ發疹ノ部位ヲ限局シ
テ他ノ部ニ波及スルコトナシ又タ程紅熱ニ於ケルカ如キ巨大ナル斑点ヲ生スルコトナシ
特リ表皮ノミナラス粘膜炎ヲ侵カスコトアリト雖モ通常粘膜炎ニ發スルコト鮮シ鼻竇、咽
頭、口蓋、喉頭及ヒ結膜ニ於テハ病初強劇ナル充血ヲ起スヘシ加之ノミナラス發疹期ニ
アリテハ暗赤色ノ斑点ヲ現出スヘシ暫時ニシテ乳癌體ノ發育ヲ起シ殆ント赤色ノ斑点
ト密接スルヲ見ルヘシ

粘膜炎ノ發疹ニ於テ内攻ヲ起スルハ表皮ニ比スレハ少シク早期ニ來ルヲ常トス

南北戰爭ノ際麻疹ノ流行ヲ來タセシカ當時患者ノ腸管ニ於テ變狀ヲ檢出セシモノ渺ナ
カラス而シテ其症狀タルヤ「ソリタリー」腺(即チ孤腺)増大シテ「ペール」氏腺モ亦タ多少肥
厚スルノミナラス腸間膜腺ノ如キハ腫脹スルコト甚タシキモノナリ

脾臟ノ腫大スルハ專ハラ實質ノ肥大スルニ因ルモノナリ而シテ腎臟ニアリテハ激烈ナ
ル充血ヲ起シ尿中ニ蛋白質ヲ含有スヘシ

血液ノ性状稀薄トナリ纖維素ノ量少ナキヲ以テ凝結ノ力弱ク赤血球モ亦タ其數ヲ減ス
ルト雖モ特リ白血球ノ過剩スルヲ見ルヘシ

徵候

前徵期

初起ニアリテハ全身違和、筋肉倦怠、頭痛及ヒ背痛ノ感覺ヲ

起コシ尋テ不整ナル寒戰ノ症候續發シ体温昇隆シテ華氏百度若シクハ百一度ニ達スヘ
シ斯ノ如キ症候ハ感深期(即チ潜伏期)ニ尋テ現ハル、所ノモノニシテ是レヲ以テ前徵
期ノ初徵ト見做スヘシ

最モ精密ナル諸家ノ實驗ニ據レハ病毒ニ感深シテヨリ發疹スルノ間ハ十四日ヲ費ヤス
ヘシ而シテ其日數中前徵期ハ四日間ニシテ感深期ハ十日間ナリ或ヒハ九日乃至十一日
ノ間ニアリ

感深期ニアリテハ毫モ健態ト異ナル所ノ症候ヲ呈スルコトナク俄然前徵期ノ諸症候ヲ現
出スヘシ故ニ初起ニ於テ現ハル、所ノ諸症ト共ニ強劇ナル鼻竇、咽頭及ヒ喉頭ノ加多兒
症ヲ發シ多クハ第一日ヨリシテ第二日ノ間ニ來ルモノナリ

体温ハ百二度ニ達シ一二日間稽留スヘシ而シテ其熱症ノ多少ニ據テ本病ノ輕重ヲトス
ルニ足ルモノナリ

第二三日ニ達スルルハ諸症共ニ輕減シ体温モ亦タ降下シテ殆ント健態ニ異ナラス

第三日ノ日晡若シクハ第四日ノ早晨ニ於テ再ヒ熱症ヲ發シテ初起ノ度ニ至リ忽チニ減退シ全身ノ症狀大ヒニ恢復シ頭痛モ亦タ緩解シテ特リ加多兒症ノミ依然トシテ退消スルヲナク鼻粘膜腫脹シテ鼻竅ヨリ呼吸スルヲ困難トナリ屢々噴嚏ノ發作ヲ將來シ直チニ粘膜面ヨリ多量ノ分泌液ヲ流泄スヘシ

眼球腫脹シテ結膜ニ充血ヲ起シ眼瞼浮腫ヲ發シ熱淚ヲ流カシテ兩頬ヲ潤フスヘシ此期ニ際シ屢々靨血ヲ將來スルモノニシテ殊ニ小兒アリテハ鮮ナカラサルモノトス

第三日ニアリテハ加多兒症増進シテ喉頭ニ波及シ之レカ爲メニ聲音啞嘶シ粗厲ナル反響性ノ咳嗽ヲ發シ或ヒハ鑼性音ヲ發スルヲアリ

初起ニ於テハ毫モ咳嗽ヲ發スルヲナク唯タ吹笛音ヲ聽取シ多少心臓部ニ抑壓及ヒ苦悶ヲ感スヘシ

發疹期 判然麻疹ノ正徵ヲ現出スルハ第四日ニアリト雖モ偶々第五日ニ遷延スルコトアリ

輕症ニアリテハ第四日ノ早晨ニ於テ發疹シ重症ニアリテハ同日ノ午後ニ現出スヘシ而シテ當初顔面、前頭、頤部及ヒ頰部ニ發シ漸々蔓延シ或ヒハ一時間歇シテ軀幹及ヒ四肢ニ發現スヘシ

熱症ハ發疹ノ現出スルル或ヒハ第五日ニ於テ極度ニ達シ或ヒハ第四日ノ日晡ニ於テ極度ニ達シ第五日ノ早晨ニ至リ輕減スルヲアリ

体温ノ最高度ニ達スルルハ發疹ノ色澤モ亦タ最モ濃厚ナリ

粘膜ニ於テモ亦タ同一ノ症狀ヲ呈スヘシ然レハ粘液ノ分泌過剰ナルカ爲メニ咳嗽ハ頗カニ輕減スルヲ常トス而シテ粘液ハ變性シテ忽チ粘液膿狀ヲ呈スヘシ

此期ニ於テ諸般ノ併發症ヲ將來スヘシ而シテ其疾患ハ強劇ナル氣管支炎又ハ下痢ニシテ尿中ニ蛋白ヲ含有スヘシ

上記ノ諸症候ハ常ニ單陣麻疹ニ於テ見ル所ノモノアリ

大凡ソ第七日乃至第九日ニ達スルルハ顔面ノ發疹漸々蒼白色トナリ面貌自カラ腫脹シテ赤色ヲ呈シタルモノモ亦タ從テ退消スルヲ見ルヘシ

發疹ノ内攻ト共ニ体温ノ減少ヲ起シ一二日ニシテ健態ノ度ニ達スヘシ

恢復ハ一様ナラス俄然治癒ニ趣クモノニアリテハ他ニ障礙ヲ起スヲナク二十四時間ニシテ健態ニ復スルヲアリ或ヒハ頗フル緩慢ニシテ日ヲ逐フテ漸々回復スルモノアリ或ヒハ屢々弛張アリテ其病機ヲ變換スルモノアリ

輕微ノ表皮剝脫ヲ起スモノニアリテハ忽チニニシテ全治スヘシ

經過合併症及變症

麻疹ノ經過及ヒ治癒ハ流行ノ感動患者ノ感受力及ヒ攝生

法ノ如何ニ因テ大ヒニ其轉歸ヲ異ニスルモノナリ

軍陣ニ於テ流行スルキハ其病勢頗フル猛烈ニシテ殆ント腸埜扶斯ニ匹敵スヘシ

散在性ノ麻疹ニアリテハ諸症候共ニ佳良ナルヲ以テ敢テ緊要ナラサルモノ多シ

流行性ノ麻疹ニアリテモ亦々輕症ナルモノ尠ナカラス故ニ毫モ加多兒症ヲ發セサルモ

ノアリ或ヒハ加多兒症及ヒ他ノ徵候ヲ呈スルモ發疹ヲ現出セサルモノアルカ如シ之レ

ニ反シテ流行性ノ麻疹ヲシテ危篤ナラシムルモノニアリテハ天稟血友病ノ素質ヲ有ス

ルモノヲ以テ最モ甚タシトス故ニ發疹ノ機ニ先タチ若シクハ發疹後ニ於テ全身諸部ノ

粘膜面及ヒ諸臓器ノ「ハ―レシマ」質ニ於テ出血ヲ將來スヘシ

此時ニアリテハ虚脱ヲ致スヲ甚タシク脈搏微弱ニシテ巨大ナル氣管支肺炎ヲ起シテ呼

吸不利シ肚腹膨滿シテ利尿便通共ニ意識ヲ以テ制止スルヲ能ハス舌体乾燥シテ齒牙ニ

汚物ヲ沈着シ終ニ低聲獨語シテ覺ル、モノ多シ

出血性ノ麻疹ニ於テハ通常不幸ノ轉歸ヲ取ルモノ多シト雖本症ニ罹ルキハ必ラスシ

モ皆十患トク死ヲ致スモノト斷定スルヲ能ハサルナリ

偶マ輕易ノ症ニアリテハ發疹ヲ見サルヲアリ又頗フル不整ノ經過ヲ取ルモノニ於テハ
當初顔面ニ發セスシテ軀幹ニ現出シ忽チニシテ退消シ或ヒハ却テ遷延スルヲアリ
前徵期ニ於テ劇熱ヲ發シ或ヒハ虚脱ヲ起スヲ甚タシキモノハ重症タルヲ証スヘシ
体温ハ病機ノ強弱ヲト知スルニ於テ最モ緊要ナル標準トナルモノナリ
偶マ病機再發シテ皮疹ヲ現出シ熱症モ亦々再ヒ増劇スルノミナラス諸般ノ症候ヲ及後
スルコトアリ

症ニヨリテハ通常麻疹ト共ニ諸種ノ皮疹ヲ發スルヲアリ假令ヘハ粟粒疹、合膿疹、大水
瘡及ヒ尋麻疹ヲ現出スルヲアルカ如キモノ即チ是レナリ

眼球ニアリテハ結膜炎、角膜炎若シクハ虹彩炎ノ如キ危篤ナル疾患ヲ併發スルヲアル
ヲ以テ最モ注意セサルヘカラス

喉頭ニ於テハ潰爛及ヒ侵淫ヲ起スコトアリ

耳部ニアリテハ中耳ノ炎症ヲ起シ尋テ慢性耳漏ヲ將來スルヲアリ

吾人カ日常最モ多ク見ル所ノ併發症ハ毛細氣管支炎、格魯布性肺炎及ヒ加多兒肺炎ノ諸
症ナリ殊ニ流行性ノ麻疹ニアリテハ斯ノ如キ諸症ヲ誘發スルヲ多シトス然リト雖モ全
身ノ症狀及ヒ衛生上ノ注意ヲ怠タラサルキハ豫防スルヲ得ヘシ

毛細氣管支炎及ヒ肺炎ハ發疹期又タハ發疹後ニ米ルモノナリ
 癩瘰癧ノ患者ニ於テ加多兒性肺炎ヲ併發スルキハ乾酪樣變性ヲ起シ易シ是レ即チ吾人
 ハ日常麻疹後ニ米ル所ノ肺勞患者ヲ見ルコト多キ所以ナリ
 予カ親驗スル所ヲ以テスレハ麻疹ニ固有スル諸般ノ病的變狀ヲ呈スルノミナラス必ラ
 ス腸粘膜ノ滲囊及ヒ「ペール」氏腺ノ膨大スルヲ檢出セリ故ニ予ハ此症候ヲ以テ本病ニ
 於テ最モ緊要ナル証徴トナセリ
 本病ノ經過中早晚頑固ナル下利及ヒ迴結腸炎ヲ誘發スルコトアリ殊ニ發疹ノ内攻シタル
 時ニ起ルキハ屢々危險ニ陥ルコトアリ故ニ斯ノ如キ疾患ヲ併發スルキハ不幸ノ轉歸ヲ取
 ルモノ鮮ナカラズ偶マ全治スルコトアルモ頗フル緩慢ナリ
 單純ノ麻疹ニシテ毫モ併發症ヲ有セサルモノニアリテハ危險ニ陥ルコト少ナシトス
 危篤ノ徵證ト見做スヘキモノハ前徵期ニ於テ劇熱ヲ發スルモノ、全身ノ症狀險惡ナル
 ノミナラス發疹ノ疎稀ニシテ不明ナルモノ、出血素質ニシテ密發スルモノ、發疹ノ發育
 不整ニシテ他ノ諸症候モ亦タ不良ナルモノ又タハ毛様氣管支炎、氣管支肺炎ヲ併發スル
 モノ、腸管ノ變調ヲ起シ劇症ノ迴結腸炎若シクハ腦症ヲ併發スルモノ、如キ皆ナ恐ルヘ
 キモノトス

治則

輕症ニアリテハ戶外ニ出ツルヲ禁シ或ヒハ病室ニ就カシメ食物ノ節制ヲ
 守ラシメ咳嗽ニ困ルシムキハ少量ノ阿片加竜腦丁幾ヲ投シテ鎮靜スヘシ
 初期ニ於テ高度ノ熱ヲ發シ咳嗽頻發スルキハ雙鸚鵡根丁幾一芍(四、〇〇)吐根流動越幾
 斯二芍(八、〇〇)無具阿片丁幾三芍(一、二、〇〇)ヲ混和シ每一時若シクハ二時ニ於テ六
 滴宛内服セシムルヲ良トス
 雙鸚鵡ヲ以テ体温ヲ減退スルコト能ハサルキハ寶菱多利斯浸一茶匙(四、〇〇)乃至一食匙
(一、五、〇〇)ヲ取り毎日三四回雙鸚鵡ニ伍用スヘシ
 發疹期ニ於テ体温ノ昇隆スルコト甚タシキキハ家猪脂「ワセリン」或ハ「カ、オ」酪ヲ以
 テ毎四時間ニ塗擦スヘシ然レハ熱症ノ強劇ナラサルキハ一日三回ヲ以テ足レリトス
 腸管ノ通利ナキキハ塩類下劑ヲ投スヘシ又タ腎臟ノ排穢泄ヲ催進スルニハ寒冷ナル飲
 料ヲ以テスヘシ
 病室内ノ溫度ハ常ニ華氏七十度ヲ以テ適當トス又タ室内空氣ノ交換法充分ナルヲ要ス
 ト雖レ直チニ外氣ノ流通ニ暴觸セシムヘカラス
 俗間ニ於テ麻疹患者ヲシテ室内ニ閉居セシメ「ブランケット」ヲ以テ身體ヲ被包スルカ
 如キハ最モ有害ナリト雖レ其反對ノ極点ニ趨リ寒冷ナル外氣ニ暴露セシムルモ亦タ均

シク危険ナリ

以上記スル所ノモノハ單純ナル麻疹ニ對スル普通ノ療法ナリ

前微期ニ於テ高度ノ熱症ヲ發シテ持續スルキハ温巻法ヲ以テ最良ノ驅熱法トス而シテ其處置ヲ行ハントスルキハ初メ先ツ護膜製ノ布片ノ巨大ナルモノヲ以テ牀幕ヲ被包シ其上ニ温湯ニ醃シタル「フランネル」ヲ敷キ九十五度ノ微温湯ニ醃シタル「シート」ヲ以テ患者ノ身体ヲ蓋ヒ漸々冷却シテ八十度ニ至ルヲ待ツヘシ

毎半時間ニ此法ヲ反復シテ体温ノ減スルヲ見ルキハ後用ヲ止ムヘシ

温巻法ハ体温ヲ減殺スルノ効アルノミナラス發疹ノ發育ヲ催進スルモノナリ又々毛細氣管支炎及ヒ肺炎ノ經過中ニアリテハ最モ良驗アリ故ニ呼吸機病ノ爲メニ劇熱ヲ發ルキハ特ニ飲クヘカラサルモノナリ

体温ノ高低ニ関セサルモ麻疹ノ治法ニ於テハ局處ノ温巻法ヲ以テ最モ有要ナリトス水蒸氣ヲ通スルキハ鼻竇内ノ填塞及ヒ噴嚏ヲ鎮靜スヘシ又々眼球ニアリテハ微温湯ヲ以テ洗淨スルキハ結膜炎ノ刺衝ヲ緩解スヘシ

扁桃腺炎及ヒ喉頭炎ヲ起スキハ頸圍ニ於テ温巻法ヲ施コシ屢々交換スルヲ良トス

胸腔及ヒ腹腔ノ諸臓器ニ於テ炎症ノ狀ヲ有スルキハ必ラス温巻法及ヒ壓定巾ヲ用ヒサ

ルヘカラス

体温ヲ輕減セシムルカ爲メニ浴法ヲ行フ能ハサルキハ幾尼涅ヲ投セサルヘカラス幾尼涅ノ解熱作用ヲ起サシムルキハ大量ヲ用ヒサルヘカラス大抵毎四時ニ五氏(〇、三〇)ガラム(〇、二五)乃至二十氏(一、二五)ガラムヲ反復シ効驗ヲ得ルニ至ルヘシ

胃ニ變調ナキキハ幾尼涅ニ替テ多利斯ヲ伍用シテ偉効ヲ奏スルヲアリ

出血性ノ麻疹ニアリテハ鐵酸格魯爾鐵丁幾及ヒ「テレピン」油ヲ以テ特效藥トス

日常多ク見ル所ノ併發症ハ毛細氣管支炎ニシテ肺臟索嚢不全症及ヒ氣管支肺炎ヲ誘起スルヲアルヲ以テ最モ其治法ニ注意セサルヘカラス此時ニ於テ稱用スル所ノ藥劑ハ安諾尼亞鹽類中特ニ炭酸鹽及ヒ沃度塩ヲ以テ飲クヘカラサルモノトス又々此塩類ハ滲出物ノ粘膠性及ヒ新生機ヲ減少セシムルノカアルカ故ニ氣胞内ニ空氣ノ流通スルコト自在ナラシムヘシ

氣管支ノ壅塞ヲ開通セシムルニハ水蒸氣ノ吸入ヲ以テ緊要ナリトス

揮發性ノ祛痰藥ハ血中ニ入り肺臟ニ達シ終ニ患部ニ至リ其作用ヲ起スカ故ニ飲クヘカラサルモノナリ最モ有効ノモノハ「イユカリプトル」及ヒ「テレピン」油ナリ殊ニ毛細管内ノ循環微弱ニシテ發疹蒼白色トナリ全身ノ皮膚稍々青色ヲ帶フルカ如キ症候ヲ呈ス

ルキハ其右ニ出ルモノナシ
上記ノ諸法ヲ用フルモ尚ホ毛細氣管支ノ壅塞ヲ開通スルヲ能ハサルキハ吐瀉ヲ投スル
ヲ最モ緊要ナリ而シテ其藥品ハ次硫化汞、明礬及ヒ硫酸亞鉛ナリ若シ効驗ナキハ反復
セサルヘカラス

吐瀉石ハ屢々稱用スルモノアリト雖モ甚タシク抑壓ヲ求タスノ恐レアルヲ以テ危險ナ
リ或ヒハ「アボモルヒ子」ヲ投スルヲアルモ心臓ニ災害ヲ起スルヲアルカ故ニ亦タ之レ
ヲ嫌忌スルモノ多シ

腸管ノ變症ヲ併發スルモノニアリテハ予ハ「ホーレル」氏水二滴ニ無其阿片丁幾五滴乃
至十滴ヲ加ヒ毎四時ニ内服セシメ傍ハラ一日三回硫酸銅二十分ノ一(〇.〇〇三)ガラム(〇.〇〇三)乃至
十分ノ一(〇.〇〇六)ニ硫酸莫爾比涅十六分ノ一(〇.〇〇四)ガラム(〇.〇〇四)乃至八分ノ一(〇.〇〇五)
ガラム(〇.〇〇五)ヲ伍用シテ屢々俾効ヲ奏セリ

病初ヨリ榮養ニ注意シ尿中ニ蛋白質ノ痕跡ヲ見ルキハ殊ニ牛乳ヲ專ハラトスヘシ

釋義

○輕症「麻疹」(又曰耳曼麻疹)

名原 ROSEOLA

輕症麻疹ハ一種ノ自節性發疹病ニシテ麻疹ト同一ノ經過ヲ取ルモノナリ
近來獨逸國ノ著述家ハ麻疹ナル文字ヲ以テ此症ニ應用スト雖モ英米諸國ノ著述家ハ全
ク特殊ナルモノトナセリ是レ即チ曰耳曼麻疹ノ異名アル所以ナリ

原因

本症ハ小兒ヲ侵カスト多ク男女共ニ同一ノ感受性ヲ有スルノミナラス傳
染ノカヲ有スルモノナリ

一タヒ本症ニ罹ルキハ免厄質トナルモノ多シト雖モ必ラス再感セサルモノト斷定スル
コト能ハサルナリ

輕症麻疹ハ特異ノ病毒傳染毒若シクハ微菌ノ發生ニ基因スルカ如シト雖モ未タ之レ
ヲ檢出スルヲ能ハサルナリ

徵候

發疹ハ蔷薇色ノ斑点ニシテ其面積ハ帽針頭大ヨリ其三倍ニ達シ判然區畫
ヲ有シ表皮上ニ突出シ數多ノ發疹互ヒニ近接スルキハ表皮面ノ粗糙トナルヲ常トス
皮膚ノ乳狀体及ヒ近傍ノ真皮細胞ニ於テ充血ヲ起シテ赤色トナリ且ツ突隆スルヲ以テ
指觸スレハ粗糙トナルヲ知ルヘシ

斑点ハ圓形若シクハ橢圓形ヲナシ指壓スレハ其色退消シ其壓ヲ去レハ再ヒ現出ス

斑点ノ大小一様ナラス偶マ密發性ノモノ及ヒ凝聚性ノモノヲ見ルコトアリ
 顔面ハ全身中最モ多數ノ發疹ヲ現出スト雖モ互ヒニ密着スルコト尠ナシ其他頸部、胸部
 及ヒ腹部ニ於テモ亦タ簇生スヘシ
 顛頂部ノ發疹極メテ多キモノハ延テ四肢ニ波及スルコトアリ
 發疹ノ發育其極度ニ達スルノ期ハ大凡半日間ナリ而レモ發疹ノ現存スル時期ハ二日乃
 至四日間ナリ
 發疹ノ部ニ於テハ一二日ヲ經ルキハ唯々表皮ニ瑣少ノ變色ヲ貽コシ既ニ落茄スルキハ
 全然退消スヘシ
 病初ヨリ發疹ヲ現出スルニ至ルノ期ハ十日ヨリ十四日ノ間ニアリ
 發疹ヲ現出スルニ至ルマテ毫モ變症ヲ呈スルコトナシ故ニ殆ント前徵期即チ侵襲期ヲ有
 セサルモノ、如シ又タ患者ノ大數ニ於テハ熱症ヲ發スルコトナシ
 發疹ハ當初顔面ヲ侵カシ尋テ顛頂部、腰幹及ヒ四肢ニ達シ通常ノ麻疹ト異ナルコトナシ
 發疹ト同時ニ加多兒狀ノ症候ヲ呈シ鼻竅赤色ニシテ乾燥シ且噴嚏ヲ發シ結膜炎及ヒ羞
 明ノ如キ症候ヲ將來スト雖モ眞性ノ麻疹ニ比スレハ輕微ナルモノトス
 口峽、喉頭及ヒ喉頭ノ諸粘膜ニ於テモ亦タ多少斑点ヲ現出スヘシ

腸管又タハ腎臟ニアリテハ變調ヲ起スコトナシ
 一般ノ症狀ハ輕微ナルヲ以テ患兒ヲシテ一室内ニ閉居セシメ或ヒハ節制ヲ命スルモ之
 レヲ遵守セサルモノ多シ
 偶マ熱症ヲ發スルコトアリト雖モ強劇ナルコトナク而テシ併發症ノ如キモ亦タ恐ル、ニ
 足ルコトナシ
 豫后ハ極メテ佳良ナリ
 治則ハ戶外ニ出ルヲ禁シ節制ヲ守ラシムノ外敢テ特異ノ療法ヲ要セサルモノトス

釋義

○程紅熱

名原 スカルラチナ SCARLATINA.

程紅熱ハ自折性ノ急性傳染病ニシテ一種特異ノ發疹ヲ現出シ殊ニ咽喉ヲ侵カスヲ甚タシク尿中ニ蛋白質ヲ含ミ遂ニ表皮剝脱ニ因テ終ルモノナリ

原因

程紅熱ハ他ノ發疹諸病ノ如ク特異ノ毒物ニ因テ繁殖スルモノナリ而シテ其毒質ハ好シテ衣服ニ密着シテ他處ニ運搬スヘシ其他ノ特異性ニ據テ吾人ハ試験スル所ヲ以テスレハ固形ノ毒質ヨリ成ルモノ、如シ

本症ハ患者ニ觸接スルカ爲メニ傳染シ或ヒハ毒質ヲ以テ汚染シタル諸般ノ物体ニ因テ間接ニ傳搬スヘシ

本症ハ散在性及ヒ流行性ヲ以テ来ルト雖モ未タ嘗テ特發スルモノヲ見サルナリ程紅熱ノ感受性ハ各人皆ナ悉ク賦有スルモノニアラス故ニ痘瘡及ヒ麻疹ニ比スレハ微弱ナリ

當初病毒ニ感染シテヨリ實性ノ症候ヲ現出スルニ至ルノ期ハ長短一様ナラス是故ニ數多ノ著述家ハ皆ナ各々異説ヲ唱フルモノ、如シ

大家「トロシユウ」氏ノ記載シタル一患者ノ如キハ最短小ニシテ感染後二十四時間ニシテ本症ヲ發セリト云フ又々其時期ノ最も長キ極點ハ十二日乃至十四日ナリ

日常最も多ク見ル所ノモノハ四日ヨリ七日ノ間ニアリ

病毒ニ感觸スルコト最も輕微ナルモノト雖モ本症ヲ傳染セシムヘシ

病毒ハ健康ナル人ノ身体若シクハ衣服ニ附着シテ遠隔ノ地ニ達シ更ニ他人ニ感觸シテ發生スルヲ鮮ナカラス

病毒ハ亦タ食物或ヒハ飲料中ニ溶解シテ他人ヲ侵カスヲアリ假令ハ牛乳ヲ配付スルノ際病毒ヲ混シ之レヲ飲用シタルモノニ於テ流行シタルカ如キ例証ハ吾人カ屢々英人ノ報告ニ於テ証知スル所ナリ

程紅熱ノ病毒ハ恐ラクハ皮膚及ヒ皮膚ノ分泌其他上皮細胞ニ含有スルノミナラス呼吸中喉頭ヨリ呼出氣ト共ニ来ルモノ、如シ

毒質ノ作用最も活潑ナルハ病機増進ノ極期ニアリ然リト雖モ病初ヨリ末期ニ至ルマテ其毒質ヲ失スルヲナシ

本症ノ感受性ハ同一ノ血族ト雖モ各々特異ナルモノトス故ニ一家族中一名其侵襲ヲ被ムルモ他ハ皆ナ健全ナルカ如キ例証ヲ見ルヲ鮮ナカラサルナリ

生力ヲ抑壓スル所ノ諸般ノ原因ハ亦タ其感受性ヲ増加セシムヘシ故ニ衛生上ニ適セサル生活ヲナスモノハ殊ニ侵カサ、ルヲ多シ

同一ノ人ト雖其年齡ヲ異ニスルモハ感受力モ亦タ變換スルモノナリ假令ハ生後六ヶ月以内ノ幼兒ニアリテハ最モ渺ナク二歳ヨリ五歳ノ間ニ於テハ最モ罹リ易ク更ニ進シテ十歳ニ至ルマテ漸々減少シ十歳以上ニアリテハ極メテ鮮ナキカ如シ然リト雖氏偶マ老人ヲ侵カスヲアリ

予カ治療ヲ施コセシ一患者ノ如キハ六十歳ノ貴人ニシテ自己ノ子女ニ於テ程紅熱ヲ發シ之レヲ看護スルノ際終ニ傳染セシモノナリ

男女及ヒ人種ノ如何ニ因テ其感染ノ差ナキニ似タリ夫ノ黑色人種ノ如キハ白種人ニ比スレハ感受力稍々微弱ナルカ如シト雖氏予カ見ヲ以テスレハ黑色人種ニアリテハ未ダ本症ヲ檢出スルヲ精密ナラサルニ依ルモノナラン

偶マ同一ノ人ニシテ二回本症ニ罹ルヲアリ殊ニ母親若シクハ子女ニ於テ本症ニ罹リ其看護ノ爲メ常ニ病容ヲ離レサルモノニアリテハ再感シ易キモノナリ此時ニ於テハ他ノ症候ヲ呈スルヲナク咽喉痛ヲ惣フルモノ多シ

再發性ノ程紅熱ハ素ヨリ稀有ノ症ナリト雖氏予カ實驗セシモノハ二名ニシテ當初ノ諸症候退消スルノ後一週日若シクハ三週日ノ間ニ再感シ更ニ同一ノ症候ヲ反復シテ表皮剝脫ノ如キモ亦タ第一回ト異ナルヲナシ

病理的解剖

發疹ノ狀一様ナラス疎發性ノモノニアリテハ判然區畫ヲナシ斑点ノ

周圍ニ於テハ健態ヲ失ハス又タ密發性ノモノニアリテハ皮膚全面悉トク深紅色ヲ呈シ處々ニ濃紅色ノ斑点ヲ現出スヘシ

發疹ハ當初強劇ナル充血ヲ起コシテ斑点ノ部ヲ限局スト雖氏數多ノ斑点互ヒニ密接スルモハ全面悉トク赤色ヲ呈スヘシ

發疹ノ初起ニアリテハ其色甚シカラスト雖氏全然發育スルモハ深赤色トナルヲ常トス斑点ハ最初頸部及ヒ胸廓ノ前面ニ發シ尋テ顔面ニ波及スルモハ其發育モ亦タ極期ニ達スヘシ

發疹ハ大低圓形ヲナシ健康部ノ皮膚ヨリ突出セサルヲ以テ指觸スルモ粗糙トナルヲナク又タ其面積ニ於テモ大小ノ差アルヲナク疎發性ノモノニアリテハ判然分界ヲ有スルモノ多シ

密發性ノモノニアリテハ表皮全面悉トク深赤色ニシテ光輝ヲ有シ之レヲ精密ニ監視スルモハ一層濃厚ナル微細ノ斑点ヲ檢出スヘシ

發疹ノ極期ハ大抵半日ヨリ一日ノ間ニアリテ爾後漸々輕減スヘシ

當初顔面ニ於テ發疹スルモノニ於テハ顛顛部、前頭部及ヒ頰部共ニ赤色ヲ呈スト雖トモ

持リ唇縁ニアリテハ却テ蒼白色トナルヲ見ルモノ多シ
 發疹ハ毎常必ラスシモ全身ヲ侵カスヲナク偶マ一部分ヲ限リ或ヒハ二三ノ部位ニ多ク
 シテ其他ハ健全ナルヲ見ルヲアリ故ニ顔面若シクハ軀幹ニノミ現出スルアリ或ヒハ四
 肢ヲ限局シ殊ニ關節ノ周圍ニ發スルモノ多シ
 局發性ノ程紅疹ハ普通ノモノニ比スレハ巨大ニシテ殆ント二倍若シクハ三倍ノ面積ヲ
 有スルヲアリ
 微細ナル水泡ヨリ成ル所ノ粟粒狀ノ發疹ハ皮膚ノ分泌作用ヲ妨ケサルコトアリ或ヒハ
 全身ノ諸部ニ於テ顔アル微細ナル乳頭疹ヲ現出スルヲアリ殊ニ前頭部ニ於テ最モ著ル
 シキモノトス
 症ニヨリテハ出血ノ爲メニ表皮ノ外觀ヲ變シテ紫斑及ヒ小血斑ヲ現出スルヲアリ
 持リ程紅熱ヲ發スルノミナラス同時ニ他ノ發疹ヲ併發スルヲアリ假令ハハ泡疹、蕁麻疹
 及ヒ天瘡其他ノ水泡及ヒ膿狀性ノ諸症ヲ將來スルヲ鮮ナカラサルカ如シ
 程紅熱ノ退消後ニ當テ腫瘍ヲ檢出スルヲアリ又タ軀幹ノ下部ニ於テ壓迫ヲ被ムルカ爲
 メニ壞疽狀ノ壞爛ヲ起スヲアリ
 發疹後二三日ニシテ直チニ表皮剝脫ヲ起スヲアリ或ヒハ偶マ退消後數週日ニシテ始メ

テ剝脫スルコトアリ
 劇症ニアリテハ表皮ノ剝脫スルコト數回ニシテ多クハ全身悉トク其症候ヲ呈セサルコ
 トナシ然リト雖ヒ表皮剝脫ノ多少ニ因テ發疹ノ輕重ヲ判斷スルヲ能ハサルナリ
 剝脫シタル表皮ハ糠狀ノ微細ナル剝片及ヒ小板狀ノ稍々巨大ナル凝塊ヨリ成ルモノ
 多シ而シテ手足ノ厚硬ナル表皮ノ如キハ巨大ナル剝皮ヲ生スルヲアリ故ニ手指若シク
 ハ足趾ノ模型ヲ構成シ恰カモ手套^{ナゲル}又タハ足套^{タビ}ノ如キ剝皮ヲ見ルヲアリ又タ爪甲、毛髮及
 ヒ手指ニ生シタル疣贅ノ如キモノモ共ニ剝脫スルヲ鮮ナカラス
 表皮剝脫シタル痕跡ハ赤色ヲ呈シ知覺モ亦タ鋭敏ナリト雖ヒ暫時ニシテ平常ノ健態ニ
 復スヘシ
 口峽及ヒ咽喉ノ部ニアリテハ他ノ諸部ニ比スレハ最モ明亮ナルモノトス故ニ口峽ノ粘
 膜ノ如キハ強劇ナル充血ヲ起シ其色深紅ニシテ圓錐形ノ突隆面ヲ現ハシ瀰囊腫脹スル
 ノミナラス化膿シテ排泄ヲ將來スルヲアリ
 劇症ニアリテハ深紅色ヲ呈シ且ツ稍々暗紫色ヲ帯ヒ持リ口峽ヲ侵カスノミナラス口腔
 全面ヨリ延ヒテ唇縁、咽喉及ヒ鼻竅ニ波及スヘシ
 被患ノ部位ニ於テ變色ヲ来タスノ外分泌液ノ量ヲ増加シ粘膜面ノ浮腫ヲ起スヲアリ殊

二軟口蓋ノ部ニ於テ最モ著ルシキモノナリ
扁桃腺モ亦タ深部ニ至ルマテ發炎焮腫シ頰フル多量ノ膿汁ヲ蓄積シ實ニ駭クヘキモノ
ヲ見ルヲアリ
喉頭ノ部ニアリテハ尚ホ甚タシキ症候ヲ現ハスヲアリ假令ヘハ上記ノ變狀ヲ將來スル
ノミナラス喉頭浮腫ヲ起コシ之レニ加フルニ深在扁桃腺炎、舌下腺炎、腭下腺炎、耳下腺
炎及ヒ頸部蜂窠織ノ浮腫ヲ併發スヘシ故ニ頸圍ノ全部ニ於テ巨大ナル硬結ヲ生シ頰面
ヨリ頸部ニ至ルノ部ハ悉トク腫脹シテ恰カモ硬結ニ因テ成リタル廣帯ヲ以テ捲縛シタ
ルカ如キ狀ヲ呈スヘシ
咽頭後部結締織及ヒ喉頭ノ浮腫及ヒ炎症ヲ將來スルハ益々病症ヲシテ危篤ナラシム
ヘシ又タ同時ニ扁桃腺ノ化膿及ヒ潰爛ヲ起スノミナラス此部ヨリ化膿及ヒ壞疽性ノ病
織ヲ發シ周圍ノ諸部ニ蔓延シテ頸部ニ於テ巨大ナル潰瘍ヲ構成シ終ニ甚タシキ腐爛ニ
因テ組織ノ損亡ヲ來タスヘシ
又タ口峽ニ於テ實扶埒利性ノ病織ヲ發スルヲアリ加之ノミナラス日常此變症ヲ併發ス
ルヲ能ハサルヲ以テ或ル學士輩ハ程紅熱ト口峽實扶埒利亞トハ親密ナル關係ヲ有スル
モノト想定セリ

舌体ニ於テハ一種特異ナル症候ヲ現出スヘシ其症狀タルヤ尖端及ヒ邊緣ヲ除クノ外全
面悉トク織白若シクハ帶黃白色ノ厚苔ヲ被マリ基底ニ進ムニ從テ益々肥厚スヘシ而シ
テ悉トク此苔ヲ貫キ乳嚙體ノ肥大スルヲ見ルヘシ
大約第三日ニ達スルハ舌苔ト共ニ上皮ノ剝脫ヲ起シ其痕跡ハ鮮紅色トナリ滲囊ノ腫
脹スル爲メニ處々ニ突隆面ヲ現ハシ恰カモ成熟シタル覆盆子^{ニチ}ノ狀ヲ呈スヘシ故ニ吾人
ハ之レヲ程紅熱ノ覆盆子狀舌体ト稱セリ
咽喉ノ諸症ト共ニ耳部ノ疾患ヲ將來スルヲアリ假令ヘハ中耳部炎症、又ハ鼓膜ノ穿孔ヲ
起シ劇症ニアリテハ鱗狀部、巖狀部及ヒ乳頭部ノ骨膜炎ヲ發シ尋テ骨瘍ニ轉化スルヲア
ルカ如シ又タ重症ニアリテハ耳部ノ周圍ニ於ケル組織ノ炎症ヲ起シ外方ニ向テ腫脹シ
筋鞘ノ間ヲ通過シテ頸部ニ膿塊ヲ起スヲアリ
重症ノ程紅熱ニ罹リ其經過中續發スル所ノ呼吸器ニ関スル諸患ハ喉頭炎、全身水腫ノ時
ニ米ル喉頭浮腫其他氣管支炎及ヒ肺炎ナリ
劇症ニ於テ屢々併發スル所ノ疾患ハ單純若シクハ潰瘍性ノ心囊炎及ヒ心内膜炎ニシテ
同時ニ關節ヲ侵カスモノアリ或ヒハ舌ラサルモノアリ
消化器腺及ヒ脾ニ於テハ一定ノ疾患ヲ發スルヲナシ

皮膚及ヒ喉頭ニ尋テ常ニ最モ多ク見ル所ノ解剖的變狀ハ腎臟ニアリ

腎臟ニ於テハ細尿管ノ上皮ハ表皮面ノ如ク剝離スルヲ以テ一時尿道ヲ閉塞シ尿液ノ排泄ニ際シテ流出スヘシ是レ即チ剝脫性腎臟炎又ハ細尿管炎ト稱スル所以ナリ其他腎臟ノ實質炎ヲ將來スルハ第二週乃至第三週日ノ間ニアリ

既ニ腎臟ノ疾患ヲ併發スルキハ全身水腫又タハ尿血症ニ基因スル所ノ症候ヲ現出スルコトアルハ亦タ怪シムニ足ラサルナリ

漿液膜及ヒ諸關節ノ滑液膜ニ炎症ヲ發スルキハ縱令ヒ腎臟病ヲ發セサルモ殆ント血液ニ於テ同一ノ變狀ヲ起スヘシ

漿液膜ノ炎症トハ腦膜炎、肋膜炎及ヒ腹膜炎ノ類ヲ云ヒ滑液膜炎トハ滑液膜ヲ侵カス所ノ急性癱瘓質斯ノ如キモノヲ云フナリ

關節ヲ侵カス所ノ症狀一樣ナラス輕症ニアリテハ唯タ微痛ヲ覺エ硬強ヲ感スルニ過ギスト雖ヒ重症ニアリテハ強劇ナル癱瘓質斯ノ發作ヲ將來シ主要ノ諸關節ハ順次ニ侵カサル、ノミナラス心臟ノ内外膜炎ヲ發スルコトアリ

徵候

往昔ノ著述家ハ程紅熱ヲ分チテ三種トナセリ第一單、純、程紅熱（喉頭ノ諸症ヲ發セサルモノ）第二咽、喉、程紅熱（口峽及ヒ近傍ノ淋巴腺ヲ侵カスモノ）第三惡、性

程紅熱（最モ劇症ニシテ化膿甚タシク殆ント壞疽狀ニ陥ルモノ）是レナリ

此名稱ハ強ヒテ其異狀ヲ以テ説明セントシタルモノナリ故ニ往々之レヲ以テ區別スルヲ能ハサルモノヲ見ルコトアリ予ハ爰ニ先ツ日常最モ多ク見ル所ノ判然タル症候ヲ載セ然ル後諸種ノ變症ヲ論スヘシ

前徵期ハ卒然ニ來リ且暴劇ナルモノトス

大人ニ於テ病初ノ症候ハ強劇ナル寒戰ヲ以テ起リ小兒ニアリテハ一回若シクハ數回強劇ナル搐掣ヲ發シ或ヒハ頑固ノ嘔吐ヲ來タシテ虛脱スルヲ甚タシ

頭痛劇甚ニシテ全身ノ諸筋ニ於テ疼痛ヲ起シ震戰ノ症候ニ尋テ高度ノ熱症ヲ發シ暫時ニシテ華氏百四五度以上ニ達シ皮膚溫暖トナリ喉頭熱灼スヘシ口腔ヲ檢スルキハ口蓋扁桃腺及ヒ咽頭ノ諸部ハ赤色ヲ呈シ多少腫脹スルノミナラス舌体ニハ帶黄色ノ厚苔ヲ以テ被包スヘシ

熱症ハ殆ント持續シテ麻疹ノ如ク著ルシキ間歇時若シクハ弛期ヲ有スルヲナシ發疹ハ通常第一回ノ熱症増進ノ末即チ第一日ノ日晡若シクハ第二日ノ早晨ニ於テ現出スルモノナリ

當初頸部及ヒ胸膈ノ上部ニ發シ尋テ頰面及ヒ前頭部ニ蔓延シ其色蒼薇紅色ニシテ忽チ

透明トナルヘシ故ニ初起ニアリテハ唇縁蒼白色ヲ現ハシ正シク患部ト反對ノ狀ヲ呈スルモノナリ

發疹ノ瀰蔓スルノ願フル急劇ニシテ數時間ヲ經サルニ全身悉トク現出スヘシ故ニ普通ノ症ニ於テ其時期半日ヲ費ヤスモノハ極メテ稀レナリ

劇症ニアリテハ發疹ノ機活潑ナラス故ニ屢々第三日若シクハ第四日ニ至ラサレハ悉トク發セサルモノ多シ

發疹ノ機迅速ニシテ終ハルルハ各自ノ斑点腫脹シテ尖塔狀トナリ判然健康部ト區畫ヲナスヘシ而レテ其極期ニ達スルノ後徐ナルルハ密發性トナリ互ヒニ接近スルノミナラス周圍ニ瀰蔓シテ全身ノ表皮悉トク劇症ノ程紅疹トナルヘシ

舌体ニハ厚苔ヲ被ムリ第四日ニ達スルルハ上皮ト共ニ剝離シテ鮮紅色トナリ處々ニ滲囊ノ腫脹シタルモノヲ突出スヘシ是レ即チ前章ニ述フル所ノ覆盆子様舌体ノ名アル所以ナリ

既ニ此機ニ達スルルハ嘔吐ヲ發セスト雖モ食思尚ホ振ハスシテ便秘或ヒハ下痢ヲ發スルコトアリ

一層重症ナルルハ夜間譫語ヲ發シ日間精神恍惚トナリ或ヒハ昏迷ヲ起スヘシ

尿液ヲ檢スルルハ尿量減少シテ其色混濁シ多少血液及ヒ蛋白質ヲ含有スヘシ

發疹ノ機ハ當初現出シタル部ニ於テ退消セントスルノ時ニ至テ終ハルモノナリ而シテ其極度ニ達スルノ時期ハ半日乃至一日ヨリ長カラサルモノトス

發疹退消ノ機ハ二三日若シクハ四日間ヲ要スヘシ故ニ發疹ノ爲メニ費ヤス所ノ時日ヲ合算スレハ三日乃至七日ノ間ニアリ

發疹ノ機ヲ終ハルルハ剝脫ノ機ヲ起スヘシ而シテ剝脫ノ初ニアリテハ微細ナル糠粒狀ノ痂皮ヲ生シ尋テ巨大ナル剝皮ヲ離脫スルモノ多シ

發疹ノ退消機ハ熱症ノ輕減及ヒ全身症候ノ整復トニ準スルモノナリ

熱症ハ時ヲ經ルニ從テ弛期漸々長ク張期ハ短縮シ終ニ消散ニ因テ輕減スルモノナリ脈搏モ亦タ熱症ト共ニ減少シ譫語ヲ發セス皮膚濕潤シテ汗疹ヲ發シ喉頭ノ症候漸々輕快シ腠下ノ作用自在トナリ膜狀ノ滲出物ヲ脫出シ扁桃腺モ亦タ健態ニ復シ舌体濕潤シテ上皮ヲ再生シ食思増進シ尿液ノ量ヲ增加スルノミナラス中ニ脂化シタル上皮ヲ含ミ蛋白質ヲ有スルノナシ是故ニ病初ヨリ大約十日或ヒハ十二日ニシテ治癒ニ趨クモノナリ然リト雖モ斯ノ如ク輕易ナル經過ヲ取ルモノ極メテ鮮ナシトス

程紅熱ニ於テ其毒質ノ影響ニ因テ起ル所ノ特種ノ勢力ハ強弱アリテ各人一様ナラス

是故ニ頸腺ノ如キハ其症候甚タシキ輕重ノ差アルモノナリ假令ヘハ輕症ニアリテハ近傍ノ淋巴腺ニ於テ輕微ノ腫脹ヲ起スニ過キスト雖モ最モ劇烈ナルモノニアリテハ頤部ヨリ胸部ニ達スルノ全面ニ波及シ巨大ナル化膿ヲ起シテ潰爛スルヲ甚タシク或ヒハ多少瘰癧狀ニ變スルヲアリ是レ即チ輕重ノ極點ヲ記シタルモノナリ故ニ其中間ニアリテハ諸種ノ變狀及ヒ階級ヲ呈スヘシ

症ニヨリテハ喉頭ノ症候ノミ頗フル強劇ニシテ發疹ニ至テハ輕微ナルヲアリ或ヒハ之レニ反對シタル症狀ヲ呈スルコトアリ

偶マ喉頭ノ症候退消シ頸腺モ亦タ從テ健態ニ復スルノ後更ニ又タ變症ヲ發シ頸腺ノ腫脹スルヲ甚タシク非常ノ容積ニ達シ熱症ヲ再發シテ大ヒニ治愈ノ期ヲ遷延スルヲアリ予カ實驗セシ一患者ハ腎臟ノ變症増劇スルノ後頸腺ニ於テ再ヒ腫脹ヲ起セリ

腎臟ノ變症ヲ併發スルモノニアリテモ亦タ輕重ノ差一様ナラス

尿液ニ於テ腎臟病ノ証徴ヲ呈セサルモノト雖モ必ラス腎臟ノ健全ナルモノト認定スルコト能ハサルモノナリ故ニ偶マ尿中ニ蛋白質ノ痕跡ヲニ檢出スルヲ能ハサルモノヲ見ルコトアリ

腎臟ニ充血ヲ起スルハ尿量減少シテ酸性ノ反應ヲ呈スルノミナラス變性シタル血球ヲ

現出スルカ爲メニ混濁スルヲ見ルヘシ

尿液ヲ取り冷却セシムルハ多量ノ尿酸塩類、剝脫シタル上皮及ヒ管狀上皮ヲ含ム所ノ圓嚙ヲ沈澱スヘシ

尿中ニ上皮及ヒ圓嚙ヲ檢出スルノ期ハ皮膚ニ發シタル猩紅疹ノ剝脫ヲ始ムルノ時ニアルモノ多シ

蛋白質ハ初起ニアリテハ其量最モ渺ナシトス熱症輕減シテ漸々快復ニ趨キ表皮剝脫ヲ起スルハ尿液ノ排泄量ヲ増加スルヲ頗フル多ク殆ント清水ノ如クニシテ異重最モ低シ此時ニアリテハ蛋白質ヲ含ムヲナク暫時尿性健態ニ復スヘシ

第三週若シクハ第二週日ニ於テ剝脫ノ嚙ヲ起シ同時ニ腎臟實質炎ハイレシシマトリスヲ發スルヲアリ既ニ此嚙ニ達スルハ尿中ニ尿酸塩類、血球、顆粒体及ヒ圓嚙ヲ含有スルカ爲メ尿性混濁シテ濃稠トナリ且其量ヲ減シ多量ノ蛋白質ヲ排泄スヘシ

本症ノ經過中腎臟病ヲ發スルモ判然其症候ヲ現出スルノ期ニ至テハ一定ノ規則アルヲナシ爰ニ第三週若シクハ第二週日ト記シタルハ日常最モ多ク見ル所ノ平均シタル時期ニ過キサルモノトス

腎臟ノ變狀ヲ起スルハ他ノ症候ヲ徵知スルノ便利トナルヲアリ故ニ頸腺ノ腫脹スルヲ

甚タシク食思振ハス惡心、嘔吐及ヒ便秘ヲ起シ或ヒハ偶マ強劇ナル下痢ヲ伴フアリ
劇烈ナル頭痛、視力變常、精神錯亂、若シクハ失神ヲ起シ又タ筋搦肉潤及ヒ眼花閃發ヲ感
スルコトアリ

小兒ニアリテハ急激ナル搐掣ヲ發シ且數日間知覺ヲ失シテ數回搐掣ノ發作ヲ反復スル
モノアリ

眼瞼腫脹シ脛部ヲ手壓スレハ陷沒スルヲ見ルヘシ加之ノミナラス尿液減少シテ殆ント
閉止スヘシ

体温ノ昇隆スルヲ高ク脈搏遲徐トナリ五六十度若シクハ其以下トナリ或ヒハ全ク反對
ノ症狀ヲ呈シ体温減少シテ平温ノ度ヲ降り特リ脈搏ノミ細數微弱トナルコトアリ

諸症候共ニ佳良ナルハ尿ノ非泄頗フル多量トナリ偶マ二三日間圓壻及ヒ上皮ヲ混ス
ルヲアルノミ又タ蛋白質ハ諸症候退消スルノ後數週日ヲ經ルモ尚ホ現出スルコトアリ

經過時期及轉歸

程紅熱ノ最モ輕症ナルモノニアリテハ唯タ口峽ニ於テ充血ヲ

起シ睥下腺モ亦少シク腫脹シ二三日間輕微ノ熱症ヲ發スルニ過キス故ニ三四日ニシテ
全ク其經過ヲ終ハルモノナリ

症ニヨリテハ判然タル皮疹ヲ發スルモ喉頭ヲ侵スルヲナク又タ腎臟ノ症候ヲ併發セス

二三日間輕微ノ熱ヲ發シ剝脫ノ機ニ達スルキハ全ク糠粒狀ノ剝皮ヲ見ルヘシ然リト雖
氏斯ノ如キ輕症ノ治後偶マ蛋白尿及ヒ全身水腫又タハ急性痲痺質斯ノ如キ疾患ヲ繼發
スルコトアリ

症ニヨリテハ病初最モ輕微ノ諸徵ヲ呈シ時ヲ經ルニ從テ益々増惡シ危篤ナル血毒症ノ
諸症候ヲ現ハスコトアリ

病初ヨリ血毒症ノ狀ヲ呈スルモノアリ此時ニアリテハ俄然頭痛、譫語、搐掣、昏睡、強直性
ノ痲痺及ヒ四肢ノ強硬、頑固ナル嘔吐又ハ劇症ノ呼吸困難ヲ以テ起リ脈搏細數微弱ナル
カ如キハ血毒ノ劇症タルヲ知ルヘシ故ニ此症ニ罹ルキハ未タ發疹セサルニ當テ生力沈
衰ノ爲メニ斃ル、コトアリ

流行性ノ程紅熱ニ於テ初起ノ症候輕微ニシテ明亮ナラサルモノ突然程紅熱ノ毒質最モ
猛惡トナリ終ニ二十四時間以内ニシテ鬼籍ニ登ルコトアリ

死体剖檢ニ於テハ毫モ重要ナル變狀ヲ呈スルヲナシ是レ即チ其毒質專ハラ血中ニアリ
テ他ノ諸組織ヲ侵サ、ニ因ルモノナリ

本症ノ最モ普通ナル症狀ヲ呈スルモノニ於テ偶マ危險ニ陥ルヲアリ其症狀タルヤ俄カ
ニ生力ノ虛脱スルヲ甚タシク脈搏頽フル幽微ニシテ發疹モ亦タ萎縮シ皮膚厥冷シ僅カ

二三時間ニシテ斃ル、コトアリ
 病初ヨリ落痲期ニ至ルマテ善良ナル経過ヲ取り更ニ腎臟ノ疾患ヲ併發スルカ爲メ再ヒ
 危篤トナルモノ鮮ナカラス
 流行性ノモノニアリテハ其流行ノ感動如何ニ依テ腎臟病ヲ發スルモノト否ラサルモノ
 トノ差アルカ如シ
 腎臟病ヲ併發スルルハ全身ニ浮腫ヲ起シ且腹膜ノ如キ巨大ナル漿膜腔ニ於テ水液ノ蓄
 積ヲ来シ易シ是レ即チ繼發腹水ナリ
 尿液減少シテ血液ヲ混シ異量高ク多量ノ蛋白質ヲ含有スヘシ
 屢々嘔吐及ヒ下瀉ヲ發シ漿膜腔内ニ水液ノ蓄積スルニ從テ呼吸困難トナリ精神恍惚ト
 シテ頭痛甚クシク種々ノ熱症ヲ發シ時々緩解ノ狀ヲ呈シ脈搏徐長ニシテ且不整ナルモ
 ノ多シ斯ノ如キ水腫ノ症狀ヲ現出スルルハ大抵不幸ニ陥ルモノナリ是レ即チ直接ニ
 腎臟ノ疾患ニ歸セスシテ呼吸機及ヒ腸管ノ併發症ヨリ間接ノ害ヲ被ムルニ依ル
 症ニヨリテハ尿液ノ異重頗フル低ク其量モ亦タ減少スルノミナラス數日間閉止スルコ
 トアリ斯ノ如キ變症ヲ起スルハ最モ恐ルヘキ尿毒症ノ徵候ヲ將來スヘシ假令ヘハ視力
 眩之(弱視症、失明、蛋白尿ニ基因スル網膜炎)昏睡、摘掣(口筋又タハ四肢諸筋ノ摘掣、牙関

緊急又ハ全身ノ摘掣)ノ如キ諸症候ヲ現出スルカ如シ
 斯ノ如キ發作時ニ於テ腦症ヲ併發シ或ヒハ肺臟ノ浮腫ヲ起シ或ヒハ虚脱ニ因テ斃ル、
 コト鮮ナカラス然リ而シテ其症狀ヲ視ルルハ豫后ノ險惡ナルハ素ヨリ論ナシト雖モ
 外ノ好結果ヲ見ルカ如キ例証モ亦タ流行時ニ於テ屢々吾人カ聞知スル所ナリ
 既ニ恢復ノ機ニ趨クルハ感覺閉止シタルモノ稍ヤ敏捷トナリ摘掣モ亦タ鎮靜シ胃症整
 復シテ食思振起シ且尿液ノ排泄量ヲ増加スヘシ
 本症ハ最モ再發セントスルノ感動ヲ有スルヲ強盛ナリ而シテ其経過中増惡セシムルノ
 誘因トナルモノ屢々固形ノ不消化物ヲ食スルニアリ
 頗フル佳良ノ轉歸ニ進マントスルモノト雖モ其外觀ニ於テハ既ニ回復ノ狀ヲ呈スルノ
 後ニ至ルマテ尿中ニ少量ノ蛋白質ヲ含有スルヲ見ルヲアリ故ニ全然健態ニ復スルノ前
 二月若シクハ三月間持續スルモノ多シ
 偶々高度ノ熱ヲ持長シテ喉頭ヲ侵淫スルヲ益々甚クシク腸管ヲ害シテ下瀉ヲ起コシ尿
 血症ヲ發スルヲナキモ程紅熱ノ血毒ニ因テ腦症ヲ發スルコトアリ斯ノ如キ患者ニアリ
 テハ其死因一様ナラス体温ノ昇隆ニ基因スルモノハ華氏百六度百七八度若シクハ百九
 度ニ達シ脈搏ノ如キハ二百至ヲ以テ數フヘシ又タ喉頭ノ症狀ニ依テ呼吸ヲ阻塞スルモ

ノアリ又々膿血、症、腦、出血、頭、水、若シクハ、摘、製、ニ、依、テ、斃、ル、モ、ノ、アリ、又、々、咽、喉、部、ノ、化、膿、益、々、甚、タ、シ、ク、終、ニ、壞、疽、狀、ニ、陥、リ、之、レ、カ、爲、メ、ニ、虚、脱、ニ、因、テ、死、ス、ル、モ、ノ、アリ、
 上記ノ諸症ヲ併發スルモノニアリテハ其時期モ亦タ一定スルヲナク二三日乃至一週日ニ達シ或ヒハ尚ホ遷延シテ數週日ニ渉ルアリ
 再歸程紅熱ハ當初普通ノ症狀ヲ發シ全然恢復スルノ後更ニ再ヒ同一ノ症狀ヲ反復シテ落痂期ニ至ルマテ二回ノ病機ヲ現出スルモノナリ然リト雖モ第二回ノ症候ハ初回ニ比スレハ輕易ナルノミナラス其時期モ亦タ短少ナルモノトス
 出血程紅熱ハ日常鮮ナカラサルモノニシテ頗フル不整ノ症候ヲ呈スル所ノ一症ナリ加之ノミナラス最モ恐ルヘク最モ危險ナルモノナリ此症ニアリテハ發疹ノ成育不全ニシテ其色暗黒トナリ喉頭ノ腫脹スルヲ甚タシク腎扶埵利性ノ滲出物ヲ生シ尋テ壞疽狀ニ轉化シ終ニ粘膜面若シクハ腎臟ヨリ出血ヲ起シ内部ノ諸機關ニ浸淫シ或ヒハ子宮出血ヲ將來スヘシ
 此二症ハ共ニ豫后ノ險惡ナルモノニシテ第一週日內ニ斃ル、モノ多シ
 程紅熱ハ他ノ疾患ニ比スレハ其經過及ヒ轉歸共ニ頗フル不整ナルヲ以テ實際上豫后ノ如何ヲ判斷スルヲ最モ困難ナリ

初期ノ症候劇烈ナラサルハ治効ヲ奏スルアリ此時ニアリテハ發疹ノ期遷延スルヲナク第二三日ニ至ルハ極期ニ達シ喉頭ヲ侵カスモ強激ナラス体温ノ如キハ華氏百四度以上ニ昇ルヲナク脈搏モ亦タ百四十至ヲ超ユルヲナシ腦症ヲ發スルモ極期ニ於テ輕微ノ譫語ヲ發スルニ過キス剝脫期ニ近ツクニ順テ平等ニ体温ノ減退ヲ現シ他ニ著ルシキ症候ヲ呈スルヲナシ
 合併症ニ依テ危篤ニ迫ルハ死ヲ致スモノ鮮ナカラズ然リト雖モ輕易ノ併發症ヲ將來スルモノニアリテハ腎臟ヲ侵カスモ劇烈ナラス又々僅カニ關節ノ症狀ヲ呈スルニ過キサルアリ
 本症ノ豫后ハ流行ノ感動ニ因テ大ヒニ其安危ヲ異ニスルモノナリ故ニ流行ノ勢力如何ニ依テ死亡ノ數モ亦タ一様ナラサルモノトス而シテ其死亡ノ比例ハ大抵百分ノ十ヨリ百分ノ四十ノ間ニアリ
 又々特リ流行ノ勢力ニ関スルノミナラス衛生ニ背戾セル生活ノ景況如何ニ據ルモノナリ又々年齢ニ至テハ若年ノモノ及ヒ成年ノモノニ比スレハ幼孩ハ不幸ニ陥ルヲ多シ

治則

程紅熱ハ一種ノ自節病ニシテ吾人ハ之レニ對スル所ノ特效藥ヲ有セサルカ故ニ專ハラ對症療法ニ依頼セサルヘカラス

本症ニ於テ現ハル、所ノ症候ニ據テ治法ヲ撰ムノミナラス酸酵ヲ制止スルノ効力アル
 藥劑ヲ投スルキハ大ヒニ利ヲ得ルヲアリ
 流行時ニ際シテハ屢々輕症ノ患者ヲ見ルヲアリト雖モ必ラス食物ノ節制ヲ守ラシメ安
 リニ戸外ニ出ルヲナク管理法ヲ嚴ニセサルキハ危篤ナル併發症ヲ將來スルヲアリ
 序熱期ニ當テハ雙驚癇根丁幾ヲ取り患者ノ年齢ニ順カヒ每一時ニ八十滴乃至一一滴ヲ與
 ヒ又タ實多利斯丁幾每二時ニ一一滴乃至十滴若シクハ浸瀾トナシ五滴乃至六十滴ヲ投
 スルカ如キハ最モ緊要ノ療法タリ然リト雖モ胃ノ刺衝甚ダシクシテ此藥劑ニ耐エサル
 キハ沃度丁幾二芍(ハ、〇〇)ニ石炭酸一芍(四、〇〇)ヲ混和シ每二時若シクハ每四時ニ
 半滴乃至一二滴ヲ水ニ和シテ内服セシムヘシ
 初期ニ於テ便秘ヲ起コシ同時ニ嘔吐ヲ發スルカ如キハ屢々見ル所ノ症候ニシテ之レヲ
 緩解スル所ノ特效藥ハ甘汞ナリ其用法ハ甘汞六分ノ一(〇、〇一)乃至一(〇、〇六)ヲ
 取り白糖ヲ加テ研和シ舌体ノ上ニ散布スヘシ
 發疹期ニ於テ蒼身症ヲ發シ血液ノ循環幽微ニシテ發育ノ成疹遲徐ナルキハ莖莖丁幾二
 滴乃至十滴ヲ取り每二時ニ與フヘシ若シ莖莖ノ効驗ナキキハ「テレピン」油ヲ與フヘシ
 此期ニ於テ体温ノ昇騰スルヲ甚ダシク譫語ヲ發スルキハ腎臟ノ機能ヲ催進シ温巻法ヲ

施スヲ以テ良法トス若シ之レヲ行フ能ハサルキハ冷水ニ浸シタル海綿ヲ以テ皮膚ヲ
 摩擦シ尋テ家猪脂、單臘膏若シクハ「カ、オ」酪ヲ塗布スヘシ
 發疹ノ數頗フル多ク且成育充分ナルキハ全身ノ諸部ニ區畫ヲ定メ每四時ニ順次交換シ
 テ脂肪ヲ塗擦スヘシ
 塗擦法ヲ行フキハ不快ナル温暖熱灼ノ感覺ヲ鎮靜スルノミナラス体温ヲ輕減セシムル
 ノ効驗アルモノトス
 前徵期ニ於テ現ハル、所ノ嘔吐依然トシテ鎮靜スルヲナク此期ニ至ルキハ尚ホ鎮靜ノ
 法ヲ持長シ且下瀉ヲ併發スルキハ次磷酸蒼鉛一芍乃至二芍(四、〇〇)ヨリ(八、〇〇)ニ至ル(二)石炭酸二
 芍乃至八芍(〇、〇五)ニ至ル(二)ニ至ル(三、〇〇)ヲ加ヒ混和シテ每二時若
 シクハ每四時ニ一茶匙(四、〇〇)宛ヲ與フヘシ
 喉頭ヲ侵カスヲ強劇ナルキハ頸圍ニ温巻法若シクハ寒巻法ヲ施コシ更ニ數條ノ布片ヲ
 以テ捲縛スヘシ
 患者ノ年齢ニ於テ既ニ含漱スルヲ得ルモノニアリテハ温牛乳ニ水ヲ加ヒ屢々含漱セシ
 ムヘシ或ヒハ氷片ヲ口内ニ含ミ漸々冷水トナルニ從テ患部ニ灌カシメ温暖トナルキハ
 吐出セシメ屢々變換セシムルモ可ナリ

縦令ヒ喉頭ヲ侵カスモ尋常ノ症候ヲ呈スルニ過キサレバハ妄リニ腐蝕法ヲ用フル勿レ
 患部ノ潰爛ヲ起シ壞疽狀ニ陥ルルキハ硝酸銀ノ強溶液、鑛酸、若シクハ石炭酸、過錳酸
 加里又タハ格魯爾刺篤亞斯ノ溶液ヲ塗布スヘシ若シ惡臭放ヲツキ甚タシキハ稀亞硫
 酸沃度及ヒ石炭酸ノ合劑溶液ヲ取り口圍及ヒ其他化膿ヲ起シ潰爛シタル部ニ用フルキ
 ハ大ヒニ効力ヲ現ハスヘシ

發疹期ニ於テ瘡性ノ譫語ヲ發シ心臓ノ作用ニ障礙ナキハ具素加里、格魯刺兒及ヒ莫爾
 比涅ヲ用フヘシ腦ニ貧血ノ症狀アルキハ發尼涅ヲ伍用スヘシ

落痂期ニ達スルキハ又脂肪ノ塗擦法ヲ持續スヘシ

此期ニ於テ眼炎又ハ耳炎ヲ發スルヲアルヲ以テ豫シメ戒心セサルヘカラス

腎臟ノ疾患ヲ併發スルモノニアリテハ現出スル所ノ症候ニ從テ適宜ノ法ヲ處スヘシ

尿量減少シテ血液ヲ混シ異重高ク又タ背部ニ疼痛ヲ起シ脈搏強實ナルキハ腰部ニ水蛭
 或ヒハ吸角ヲ貼スヘシ

冷水及ヒ牛乳ヲ多量ニ與ヒ若シ胃ニ刺衝アルキハ牛乳ニ石灰水ヲ加ヒテ多服セシムヘ
 シ其他酒石英「レモナーデ」又タハ腎莖多利斯漫ヲ飲マシメ腰部ニ腎莖多利斯及ヒ「ビ
 ロカルピン」ノ外用法ヲ施コスカ如キハ皆テ飲クヘカラサル所ナリ

腎臟病ヲ併發スルモノニ於テ其療法ヲ詳知セント欲セハ腎臟病ノ條下ヲ參觀スヘシ

血液ノ變調ヲ起ス「甚タシキモノニアリテハ石炭酸、水揚酸、安息香酸、曹達及ヒ「チーモ
 ル」ノ如キ酸酵ヲ制止スル所ノ藥品ヲ撰用スルノ外アル「ナシ
 予カ實驗上最モ必要ト認ムル所ノモノハ前ニ記シタル石炭酸及ヒ沃度ノ合劑ナリ
 或ル人ハ炭酸「アシモニヤ」ニ依テ偉効ヲ奏セリト云ヒ或ヒハ酸酵母ノ如キモ亦タ同一
 ノ効驗アリト云フ

○痘瘡、水痘、麻疹、輕症、麻疹及
猩紅熱之診斷法

爰ニ掲載シタル諸症ハ動セスレハ誤認スルヲ多キモノナリ是故ニ各病ノ條下ニ於テ同
一ノ症候ヲ反復スルヲ止メ且讀者ヲシテ了解ニ便ナラシメンカ爲メ特ラニ診斷法ノ章
ヲ設ケテ之レヲ詳説スヘシ
各症ヲ比較シテ其異同ヲ判斷スルニハ前徵期、發疹期及ヒ落痂期ノ三期ニ分テ辨解セ
サルヘカラス
前徵期　天然痘ニアリテハ三日間ニ涉リ第三日ニ至ルマテ増進スルヲ見ル麻疹ニ
アリテハ四日以上ニ達シ猩紅熱ハ一二日ニ過キサルナリ
麻疹ニアリテハ第二日ノ終リ或ヒハ第三日ノ始ニ於テ判然タル弛期ヲ現スト雖モ天然
痘ニ於テハ毫モ弛期ヲ有スルヲナシ
麻疹ニアリテハ發疹期ニ達スルモ体温ノ減退スルヲナシト雖モ天然痘ニ於テハ發疹ノ
現出スルト共ニ熱症ノ輕減スルヲ著ルシク或ヒハ殆ント無熱トナルヘシ
天然痘ニアリテハ前徵期ニ於テ皮膚ヲ發シ易ク毫モ鼻涙膜炎ヲ發スルヲナシト雖モ麻

疹ニアリテハ鼻涙膜炎ヲ發シ毫モ前徵期ノ皮膚ヲ見ルヲナシ
猩紅熱ノ前徵期ハ其時期ニ於テモ天然痘ト異ナルノミナラス初起ノ皮膚ヲ現出スル
ナク高度ノ熱症ヲ發シ咽喉痛及淋巴腺腫脹ノ如キ特徵アルヲ以テ鑑別ニ因ムヲナシ
發疹期　天然痘ノ發疹ハ當初赤色ノ斑点ヲ現ハシ尋テ乳狀狀トナリ又水疱トナリ
終ニ膿疱トナル而シテ發疹ノ部位ハ始メ顔面、前頭及ヒ頭蓋ニアリ
麻疹ノ發疹ハ帶赤色ニノ尖塔形ヲナシ皮表上ニ稍々突隆スルヲ以テ指觸スレハ粗糙ノ
感アリ
水痘ノ發疹ハ當初ヨリ水疱ヲナシ末期ニ至ルモ灌膿スルヲナシ
輕症麻疹ノ發疹ハ麻疹ノ如ク帶赤色ニシテ薔薇花ニ類スト雖モ表皮上ニ突出セス
猩紅熱ノ發疹ハ光輝アル赤色ノ斑点ヲ現ハシ患部全面赤色トナル而レモ發疹ノ本據ハ
其色稍々濃稠ナルヲ見ルヘシ
痲疹ニ於テハ天然痘ノ發疹ハ硬結シテ恰カモ細粒ノ彈丸ヲ觸ル、カ如シ又麻疹ハ患部
ノ表皮悉トク粗糙トナルヘシ而シテ水痘ハ表皮上ニ突起シタル水疱ヲ觸知スヘシ特リ
猩紅疹ハ毫モ粗糙面ヲ有スルヲナク唯々鮮紅色ノ斑点ヲ現出スルニ過キス試ミニ其部
ヲ指壓スレハ其色退消シ其壓ヲ除ケハ再ヒ現出スヘシ

發疹ノ成育ニ於テハ天然痘ハ數日ヲ要シ灌膿ノ機ニ當テハ必ラス先ツ判然タル熱症ヲ發スヘシ又麻疹、輕症麻疹、水痘及猩紅熱ハ一二日ニシテ發育ノ極度ニ達スヘシ麻疹ノ發疹期ニアリハ鼻涕膿炎ヲ繼發シテ涙液ノ排泄多量トナリ粗糙ナル氣管支咬ヲ發スヘシト雖程熱ノ此期ニ達スルトキハ咽喉痛ヲ起シ腭下腺、舌下腺及ヒ頸腺ノ腫脹スルヲ常トス

落茄ノ期ニ達スルキハ麻疹ニアリテハ頗フル微細ナル點棘狀ノ剝皮ヲ現出シテ容易ニ目撃スルヲ能ハサルカ如シト雖程猩紅疹ニアリテハ巨大ナル痂皮ヲ生スルカ故ニ之レヲ徵知スルヲ容易ナリトス

天然痘ノ膿胞ハ判然タル痂ヲ結ヒ剝脫スルキハ所謂痘痕ヲ貽スヘシト雖程水痘ノ疤痕ハ漸々乾燥シテ痕跡ヲ留メサルナリ

麻疹ハ輕症麻疹ニ比スレハ其色濃厚ナルノミナラス熱症及ヒ鼻涕膿炎ヲ發スルヲ以テ容易ニ鑑別スルヲ得ヘシ

落茄期 麻疹及ヒ猩紅熱共ニ剝脫スト雖程其症狀ノ異ナルハ前章ニ述フルカ如シ此期ニ於テ併發スル疾患ハ猩紅熱ニアリテハ腎臟病、水腫及ヒ尿血症、ホレ症、麻疹ニアリテハ肺炎、毛細氣管支炎及ヒ迴盲腸炎ナリ天然痘ハ結痂ノ後ニ非スレハ剝脫セス

○ 丹毒 又 羅斯 原 エリスペラス 名 ERYSPÉLAS.

釋義

丹毒ハ自節性ノ熱病ニシテ皮膚ノ一局處ニ炎症ヲ發シ轉化シテ落茄シ且全身ノ症候及ヒ血毒ニ於テ現ハル、所ノ普通ノ症狀ヲ呈スルモノナリ

原因

大家「トロシユウ」氏ノ說ニ據レハ本症ハ一種特異ノ病毒アリテ創傷面ニ侵入スルキハ感染シテ以テ丹毒ノ症狀ヲ現出スヘシト云フ

本症ヲ感傳セシムル所ノ作用ハ觸接傳染ナリ故ニ病院若シクハ軍人ノ隊伍ニ於テ流行スルヲ最モ多シ

然リト雖程傷マ毫モ創傷ノ原因ヲ有セサルモノニシテ丹毒ニ罹ルモノヲ見ルヲ鮮ナラサルヲ以テ吾人ハ本症ノ原因ニ二種アルモノト見做シ一ヲ創傷性丹毒ト稱シ一ヲ特發性丹毒ト稱セリ

婦人ハ男子ニ比スレハ感受シ易キカ如シト雖程近代ノ實驗ニ據レハ必ラスシモ此說ヲ以テ正當ナリト斷定スルヲ能ハサルナリ

本症ハ老幼共ニ發セサルナシト雖程二十歳ヨリ四十五歳ニ至ルノ間ニ於テ之ヲ見ルコト多キカ如シ

時候ニ於テモ亦々四季ヲ問ハサルカ如シト雖程冬季及ヒ春季ノ變換シ易キ時ニアリテ

ハ流行スルコト職サカシナリトス
予ハ丹毒ト瘰癧ト同時ニ流行シタルコトヲ實見セリ而シテ同一ノ患者ニ於テ二症ヲ發
スルコトナシ是故ニ其一ヲ取ルキハ他ノ一症ヲ免カル、モノナリ

病理的解剖

皮膚ノ深層ニ至ルマテ侵蝕スルノミナラス甚タシキハ炎症蔓延
シテ皮下結締織ニ達スヘシ

上皮表面ノ細胞及乳管共ニ剝脱シテ真皮ヲ露出スヘシ而シテ汗腺及ヒ脂腺ト共ニ結
締織ノ部ハ浮腫ヲ起コシ其間隙ニ夥多ノ白血球ヲ以テ浸淫スヘシ
細胞体ノ蓄積スルニ從テ乳頭部ニ膿腫ヲ發生スヘシ
皮膚ノ赤色退消スルキハ直チニ皮下組織ニ侵入シタル細胞体ハ顆粒狀トナリ分裂スル
ヲ以テ其類廢セル組織ノ分解シタルモノハ淋巴管内ニ侵入シ殘餘ノモノハ吸收シテ以
テ健態ニ復スヘシ

内臓ニ於テモ亦タ種々ノ變狀ヲ誘起スルコトアリト云フ然リト雖ヒ吾人カ確信スル所ノ
モノハ唯タ心臟及ヒ尿管、肝臓、腎臓及ヒ脾臓ニ於テ顆粒狀變質ヲ發スルコトアルノミ其
ノ他ノ變徵ニ至テハ未タ詳ラカナラサルモノ多シ
血液ノ成分ニ於テモ亦タ變調ヲ起スカ如シト雖ヒ未タ一定ノ症狀ヲ認知セサルナリ

大家「バスターン」氏ノ說ニ據レハ顔面羅斯ニ罹リタル患者ニ於テ偶々腦内毛細管ノ血
栓ヲ見ルコトアリト云フ

徵候

丹毒ハ他ノ發疹熱諸病ノ如ク侵襲期ヲ以テ起ルモノナリ

前期徵ノ症候ハ一回ノ戰慄ヲ以テ現ハル、ト雖ヒ通常強激ナラサルモノトス
屢々熱症ト共ニ劇烈ナル頭痛ヲ發シ且惡心及ヒ嘔吐ヲ起シ全然食思ヲ失フヘシ
診斷上緊要ナル徵候ハ發疹ニ先チテ頸腺ノ腫脹ヲ起スモノハ頭顱羅斯タルヲ知ルヘク
又タ脛下腺ノ腫脹スルハ顔面羅斯ノ前徵ナリ殊ニ前徵期ノ時間半日餘ニ渉ルキハ此証
候ヲ以テ最モ緊要リトス

當初發炎症セントスル所ノ皮膚ニ於テ温暖及ヒ緊張ノ感覺アリテ赤色ノ斑点ヲ現ハシ漸
々其數ヲ増加シ蔓延シテ互ヒニ連接スヘシ

赤色ノ斑点ハ指尖ヲ以テ壓スレハ退消シ其壓ヲ除ケハ忽チニシテ現出スヘシ然レモ赤
色ノ退消シタル跡ハ蒼白色ヲ呈セスシテ稍々黃色ヲ帶フルカ如シ
發炎シタル皮膚ハ浮腫狀ヲ呈シ且緊張シテ光輝ヲ有スベシ

赤色ノ斑点ハ顔面或ヒハ頤部ニ於テ發起スルコトアリト雖ヒ通常皮膚ノ外傷若シクハ濕
疹又タハ小膿疱ノ如キ病的ノ部ヨリ發スルモノ多シ而レヒ斯ノ如キ原因ヲ有セサルモ

ノニアリテハ口腔、鼻竇、或ヒハ外聽道ノ如ク外部ニ開口スル所ノ腔洞ノ部若シクハ其近傍ヨリ起ルヲ鮮ナカラス

晩今醫士「トツド」氏ノ説ヲ以テスレハ丹毒ハ當初口峽ノ部ニ發シ尋テ唇縁及ヒ他部ニ蔓延スルモノ願フル多シト云フ

發疹ヲ現出スルキハ溫暖、灼熱及ヒ緊張ノ感アリ又タ偶マ患部ニ於テ鈍痛ヲ發スルコトアリ然リト雖モ患部弛緩シテ滲出物ノ停滞スヘキ間隙ヲ有スルキハ疼痛甚タシカラス故ニ腫脹ト疼痛トハ互ヒニ反對スルモノナリ

發疹ノ緊張スルヲ甚タシク多數ノ滲出物ヲ生スルキハ皮膚ノ景況ニ從ヒ種々ノ水疱ヲ現出スヘシ而シテ腔内ニ含有スル所ノ液ハ透明ノ漿液ニシテ偶マ血液ヲ混シテ赤色ヲ呈シ或ヒハ膿球ノ爲メニ黄色ヲ帶フルコトアリ加之ノミナラス多數ノ「バクテリア」ヲ含蓄スヘシ

蜂窠織内ニ浸淫スルキハ腫脹スルヲ甚タシク顔面及ヒ頭顱共ニ水泡ヲ起シテ平素ノ面貌ヲ失シ殆ント其人ヲ辨列スルヲ能ハサルモノアリ假令ヘハ眼球ヲ開ク能ハス鼻竇モ亦タ閉鎖シテ容易ニ呼吸スルヲ能ハス口唇ノ如キハ腫脹シテ口ヲ開クヲ能ハサルノミナラス飲食ヲ妨クルニ至ルモノアルカ如シ

第二日若シクハ第三日ニ於テ炎症ノ極期ニ達シ爾後漸マ退消シ第五日或ヒハ第六日ヲ經ルキハ赤色ヲ失シテ黄色ニ變シ腫脹モ亦タ益々減少スヘシ

既ニ此期ニ達スルキハ水泡ノ液体漸マ乾燥シテ黄色ノ凝塊若シクハ鱗屑狀トナルヘシ又タ偶マ炎症ノ末期ニ於テ處々ニ化膿点ヲ現出スルヲアリト雖モ大抵重症ニ陥ルヲナクシテ吸収スヘシ

發炎シタル部ハ皆ナ悉トク痂皮剝脱ヲ起シ毛髮ノ如キハ脱落スルモ暫時ニシテ再ヒ發生スヘシ

炎症ノ極期ニアリテハ頭頂部ニ於テ觸覺過敏トナリ且鈍痛ヲ起シ又頭顱ニアリテハ枕子若シクハ他ノ物体ニ觸接スル部ニ於テ劇痛ヲ感スヘシ

丹毒ノ特異性ハ當初發疹シタル部ヲ限局セスシテ遠隔シタル部ニ轉移スルノ一徵ヲ有スルニアリ

赤色ノ斑点ヲ現出スルモ其邊緣健康部ト判然タル區畫ヲナサス且腫脹モ亦タ不整ナル突隆面ヲ構成スヘシ

炎症ノ蔓延スルハ專ハラ組織ノ造構ニヨリ最モ抵抗ノ微弱ナル部位ヲ擇フモノナリ故ニ纖維束体ノ連接ニ因テ鞏固トナル所ノ部位ニ達スレハ底止スルコト鮮ナカラス

大家「トツド」氏ノ説ニ據レハ丹毒ハ口峽ノ炎症ヨリ發起スルモノトナセリ加之ノミナ
 ラス「トロシユー」氏及ヒ其他ノ著述家モ亦タ往々此説ニ左祖セリ
 偶マ羅斯ノ下方ニ侵淫スルモノニアリテハ終ニ喉頭ニ達スルコトアリ或ヒハ當初表皮
 ニ於テ炎症ヲ起シ漸々蔓延シテ粘膜面ニ繼發スルコトアリ
 舌体ニ於テハ白色若シクハ帶黃白色ノ厚苔ヲ被ムリ漸々黒色ニ變シ終ニ巨大ナル剝片
 トナリテ脱落スヘシ
 普通ノ症ニアリテハ甚タシキ惡心ヲ起シ從テ頑固ナル嘔吐ヲ將來シ全然食思ヲ絶チ煩
 渴欲引スヘシ
 腸管ノ排泄機能ハ一様ナラス或ヒハ毫モ健態ヲ失ハサルモノアリ或ヒハ下痢ヲ起ス
 アリ或セハ黒色ニシテ頗フル惡臭ヲ放ツ所ノ糞尿ヲ排泄スルコトアルカ如シ
 十二指腸ニ於テ潰瘍ヲ發シ尋テ腸出血ヲ將來スルカ如キモ亦タ鮮ナカラサルナリ
 尿中ニ蛋白及ヒ圓嚙ヲ含有スルコトアリ殊ニ少量ノ蛋白質ヲ含有スルカ如キハ殆ント
 必發ノ一徵ト見做スヘシ故ニ尿血症ハ丹毒ノ徵候學上ニ於テ必發ノ一題トナスヘシ
 劇症ノ丹毒ニ罹リ毫モ輕症ノ諸語ヲ發スルコトナク病機増進ノ極期ニ至リ強劇ナル諸語
 ヲ發スルコトアリ

何人タルヲ問ハス諸語ヲ發起スルニハ必ラス三種ノ原因アリテ其一ヲ取ラサルヘカラ
 ス苟モ其原因ヲ有セサルハ決シテ諸語ヲ發スルコトナシ爰ニ其三大原因ヲ列舉スヘシ
 第一腦ノ乏血(是レ即チ皮膚ノ炎症ニ基因スル反射作用ナリ)
 第二亞爾個兒性飲料ノ過度
 第三毛細管或ヒハ竇内ノ血塞症
 腦ノ乏血症及ヒ亞爾個兒中毒ハ最も重要ナル原因トナルコトアリト雖モ或ヒハ重症ニ陷
 ラスシテ治スルアリ然レモ毛細管或ヒハ竇内ノ血塞症ハ每常必ラス危篤ナルモノ多ク
 幸ヒニシテ恢復ニ趨クモノハ殆ント鮮ナシ
 顏面羅斯ニ罹リ尋テ毛細管ノ血塞ヲ發起スルコトヲ認定シタルモノハ「バスタヤン」氏ヲ
 以テ嚆矢トナス
 解剖的ノ造構ヲ研究スルハ眼窠翼神經叢及ヒ硬腦膜靜脈竇ト顏面靜脈トハ互ヒニ密
 接スルコトヲ詳知スヘシ
 諸語ハ又タ高度ノ熱症持續スルノ時ニ起ルコトアリト雖モ多クハ劇熱ヲ發スルノミナラ
 ス平素亞爾個兒ノ過用ニ因テ腦ノ乏血症ヲ併發スルモノニ於テ之レヲ見ルヘシ
 炎症ノ初起ニ於テハ体温昇隆シテ華氏百四五度ニ達スルコトアリ而シテ熱症ハ弛張性ニ

シテ大抵第四日ヨリ第六日ノ間ニ於テ退消スヘシ
熱症ノ退消スルハ皮膚ヲ侵カス所ノ炎症ノ鎮靜ニ歸因スルモノナリ故ニ發疹ノ繼續
シテ止マサルハ皮膚ノ症狀モ亦タ變換スルヲ以テ体温ニ於テモ均シク浮沈アルモノ
ナリ

經過時期及轉歸

丹毒ハ他ノ發疹諸病ノ如ク若干ノ時期ヲ經フルハ自然ニシ

テ治癒ニ趣クモノ、如シト雖モ皮膚ノ症狀ニ於テ諸般ノ變症ヲ誘起スルカ故ニ其經過
モ亦タ從テ變換セラル、モノ多シ

通常ノ時期ハ一週日ヨリ三週日ノ間ニアリト雖モ表皮ヲ侵カス巨大ナルモノニアリ
テハ屢々遷延スルヲ甚タシキモノアリ

摸範病ノ如キ整然タル經過ヲ取ルモノニ於テ五六日ヲ經テ殆ント其病穢ノ退消シタル
カ如キ狀ヲ呈シ体温モ亦タ微カニ減退スルノ後ニ至リ更ニ危險ナル排泄ヲ起スアリ
假令ヘハ脱汗多量ニシテ流ル、カ如キモノアリ或ヒハ顔フル惡臭ヲ放ツ所ノ腸管ノ排
泄甚タシクシテ制止スルヲ難ク或ヒハ尿ノ排泄多量トナルカ如シ然リト雖モ斯ノ如キ
危險ナル變症ハ每常必ラス來ルモノニアラサルナリ

特發性ノ丹毒ニアリテハ患者ノ面貌ヲ變スルヲ甚タシク又タ強劇ナル諸語ヲ發シテ實
ニ驚クヘキ症狀ヲ呈スルモノト雖モ大抵回復ノ轉歸ヲ取ルモノナリ

豫后ノ佳良ナルモノト雖モ生力ヲ減殺スルコト最モ甚タシキヲ以テ治癒ニ趨クコト願
フル緩慢ナリ

特發性丹毒ニ於テ繼發スル所ノ危險症ハ日常最モ少ナシト雖モ爰ニ其緊要ナルモノヲ
舉クレハ毛細管或ヒハ竇内ノ血塞、十二指腸ノ潰瘍、炎症蔓延シテ口峽ニ達スルモノ及
ヒ微然体温ノ消退ト共ニ生力ノ仰壓セラル、モノ即チ是レナリ

創傷性丹毒ハ特リ毒丹ノ炎症ヲ有スルノミナラス創傷ニ基因スル所ノ症候ヲ併發スル
ヲ以テ一層危篤ナルモノトス之レニ加フルニ被傷者ノ近傍ニ於テ衛生ノ法ニ注意セサ
ルハ益々重症ニ陥ラシムルコト少ナカス

腸挫扶肺炎心臟病又タハ尿管ノ好キ危篤ノ疾患ニ罹リ其回復繼ニ臨ンテ丹毒ヲ發ス
ルトキハ頗フル危險ナルモノ多シ又タ是レニ反シテ普通ノ丹毒ヲ發シ其經過中重要ナ
ル疾患ヲ併發スルヲアリ故ニ丹毒ノ蔓延ニ因テ肺炎、肋膜炎、腹膜炎又タハ腦膜炎ヲ誘
發スルヲアルカ如シ

是レニ依テ之レヲ顧レハ体外ニ現ハル、所ノ疾患ト内臟ヲ侵カスモノトハ互ヒニ密接

ノ關係ヲ有スルカ如シト雖モ吾人ハ未タ其理ヲ討究スルコト能ハサルナリ
丹毒ノ末期ニ於テ膿血症ノ轉歸ヲ取ルコトアリ

診 断

丹毒ハ紅斑^{エリセヤ}、^{アルチカリヤ}、疹、麻疹及ヒ腫瘍性丹毒ト誤認スルコト鮮ナカラス

紅斑ハ皮膚ノ淺部ニ赤色ヲ呈シテ炎症ヲ有スルコト又熱灼腫脹スルコトナシ之加ナラ
ス表皮剝脱ヲ起スコトナシ

疹、麻疹ハ皮膚ニ突隆面ヲ生シ恰カモ鞭打シタル痕跡ノ如クニシテ甚タシク痒癢ヲ感シ
數時間ニシテ退消スヘシ

腫瘍性丹毒ハ炎症深部ニ達シテ化膿ヲ起シ結締織ニ沿フテ蔓延スヘシ又タ創傷面ヨリ

筋間中隔ニ依テ浸淫スト雖モ普通ノ丹毒ノ如ク表皮ニ沿フテ瀰蔓セサルモノトス丹毒

ハ其外觀及ヒ治愈ノ方法共ニ特殊ナルヲ以テ他ノ諸症ト誤認スルコト極メテ少シ

前章ニ記シタル如ク頭蓋丹毒ハ頭腺ノ腫脹後ニ米リ顔面丹毒ハ腭下腺ノ腫脹後ニ發ス

ルヲ以テ醫家診斷ノ際其前徵ヲ等閑ニ看過スヘカラス

治 則

往昔ニアリテハ顔フル役雜ナル治法ヲ施シタリト雖モ近世ニ至テハ殆ン
ト廢滅ニ屬シタルモノ、如シ

輕症ニアリテハ唯タ綏下劑ヲ與ヒ滋養易化ノ食品ヲ撰ミ局處ノ熱灼ヲ減スル爲メニ

「ワスリン」^(甘油)ヲ塗布スヘシ

重症ニアリテハ幾尼涅ノ効驗アルト素ヨリ疑ヲ容レサルナリ殊ニ莨菪ヲ伍用スルヲ良
トス

予ハ單純ノ羅斯ト雖モ併發症ヲ豫防スルカ爲メニ亞篤魯比涅^(水壹汚中壹氏)ヲ取り毎

四時ニ壹滴宛ヲ投セリ若シ蓄積作用ヲ起スノ恐アルキハ服用ノ時間ヲ延引スヘシ

劇症ニアリテハ必ラス幾尼涅ヲ投セサルヘカラス而シテ驅熱ノ量ニアラスシテ平量ノ

極量ナリ其處方ハ硫酸幾尼涅四十^(二、五)グラム^(莨菪越幾斯三氏)ヲ加ヒ混和シ

テ十九トナシ毎四時ニ壹粒ヲ與フヘシ

平素酒類ヲ嗜ムモノニ於テ現ハル、所ノ腦乏血ニ基因スル諸語ヲ發スルキハ莫爾比涅

及ヒ莨菪ニ伍スルニ亞兒個爾性ノ衝動劑ヲ以テスルキハ大ヒニ鎮靜スヘシ

全身ノ榮養ヲ保持スルニハ牛乳及ヒ牛肉蒸汁ヲ專用スヘシ其他藥劑ニ於テハ英人ハ多

ク格魯爾鉄丁幾ヲ取り毎四時ニ半^(二、〇〇)グラム^(宛内服セシム)

創傷丹性毒ニ於テハ「ヒギンボサム」氏ノ法ニ依リ硝酸亞的兒中ニ硝酸銀ヲ溶解シテ外

用スルヲ以テ良法トナセリ

表皮ハ勉メテ清潔ニ洗淨シ帯ニ乾燥セシムルヲ要ス

然リト雖此毒質ハ單ニ動物体ノ分解シタルモノ糞尿若シクハ汚物ヨリ發生スルモノニアラサルナリ故ニ其分解物ハ唯タ腸垣扶斯ノ細菌ヲ現出スヘキ毒質ノ發育ヲ補クルニ過キサルカ如シ

此毒質ハ固ヨリ自生繁殖スルノ理ナシト雖一種ノ物質アリテ新生機ヲ養成スルモノト見做サ、ルヘカラス

本症ノ毒物ハ糞尿中ニ含有スルハ毫モ疑ナシ然レ其毒質ノ作用ヲシテ猛烈ナラシムルニハ又タ變敗ヲ要スルモノナリ故ニ糞尿ノ排泄後時日ヲ經サルモノニアリテハ感傳ノカヲ遅マシウスルコト能ハサルモノトス

腸垣扶斯患者ノ排泄物ヲシテ潛水若シクハ汚水管其他地中ニ渚溜スルニ當テ始メテ其毒質ノ作用ヲ活潑ナラシムルモノトス故ニ一患者ノ排泄物ト雖其汚穢物中ニ浸淫スルハ其毒質ヲ増息シテ以テ多數ノ人民ヲ襲撃スルニ足ルヘシ

腸垣扶斯ノ毒質ハ活潑ヲ有スルヲ最モ強盛ナルヲ以テ久シク其作用ヲ保持スルモノナリ故ニ當初一地方ニ於テ發生シ既ニ消滅スルノ後久シキヲ經テ他ニ新患者ノ輸入スルヲナキモ再ヒ流行スルコトアリ

本症ハ未タ判然其徵候ヲ現出セサルノ前既ニ体内ニ侵入シテ若干ノ時日ヲ費ヤサ、ル

ヘカラス

潜伏期ハ平均三週日ナリト雖短キハ一週日ニ過キス長キハ四週日余ニ渉ルヲアリ
病毒細菌ノ人躰ニ達スルニ當テ其傳染ノ媒分トナルモノハ大ニ飲水及ヒ食物ナリ
汚水管或ヒハ廻圍ヨリ發スル所ノ蒸發氣ト共ニ病毒ヲ傳播シテ以テ人間ノ吸氣ニ因テ侵入シ或ヒハ飲水若シクハ牛乳中ニ溶解シテ胃中ニ輸送セラル、ヲアリ或ヒハ又食物ニ混シテ嚥下セラル、コトアリ

本症ノ病毒ハ多數ノ人民ヲ襲フヲ尠ナキノ理ハ未タ審ラカナラスト雖其恐ラクハ之レニ暴露スルモ感受性ヲ有スルモノニアラサレハ傳染セサルニ因ルモノナラン毒質ノ感深ハ諸般ノ原因ニ依テ其カヲ増加スヘシ左ニ其重要ナルモノヲ列擧スヘシ

時、候ハ本症ノ流行ヲシテ増減セシムルノ感動ヲ有スルモノナリ故ニ吾カ北米合衆國ニアリテハ秋冬ノ二季ヲ以テ流行ノ勢力最モ強盛ナルノ期トナセリ新約兒克府ノ大家ナル「ルーミス」氏ノ如キハ殊ニ秋季ハ其流行最モ熾カンナルヲ以テ秋季熱ト稱セリ
飲用水ノ供給モ亦タ重要ノ一原因タリ故ニ高處ノ水ヲ飲ムハ患者ノ數ヲ減シ之レニ反シテ卑濕ナルハ増加スルモノナリ

年齡ハ其素質ヲ變スルコト甚タシトス而シテ十五歳ヨリ三十歳ノ間ニ於テ最モ多シト

ス故二一年以下ノ小兒及ヒ極老ノ人ニアリテハ殆ント發セサルカ如シ
 男女ノ性ニ就テハ婦人ニ比スレハ男子ヲ侵カスヲ多ク又タ體格強健ナルモノヲ襲ヒ易
 ク慢性病ニ罹ルモノ、如キハ却テ其厄ヲ免カル、モノトス
 一タヒ本症ニ罹ルキハ後來免厄質トナルカ如シト雖モ其例ニ背クモノヲ見ルコト
 尠ナカラス

再歸塚扶斯ナルモノハ再歸程紅熱ノ如ク日常多ク見サル所ノ一症ナリ

病理的解剖

腸塚扶斯ニ於テ見ル所ノ病的變狀ハ最モ明亮ナルモノトス

一殺ノ規則トシテ患部ノ廣狹ニ據テ本症ノ劇易ヲ異ニスルカ如シト雖モ每常必ラスシ
 モ然リトセス偶マ被患ノ部位狹少ナルモ驚ロクヘキ危篤ノ症候ヲ呈スルヲアリ
 病毒ハ當初腸管ニ侵入シテ爰ニ創メテ其暴威ヲ逞マシウスルカ如シ故ニ本病ノ剖驗ヲ
 記載スルニ當テ必ラス先ツ腸管ノ病的變狀ヨリ始ムルヲ以テ最モ便ナリトス
 佛國ノ大家「プレトシテウ」氏ハ本症ニ於テ現ル、所ノ病的變狀ノ最モ重要ナル点ヲ明
 示スルカ爲メニ之レヲ「DOTHIENENTERIE」^{ドゼーチエンテリ}「ペール」氏腺及「ブランシル」氏腺ノ炎症及
 ヒ潰爛ノ幾ナリト稱セリ
 獨逸國ノ大家「リーベルメーステル」氏及ヒ佛國ノ大家「トロシユ」氏ノ記載スル所ニ

從カヒ時日ヲ以テ區別スルキハ一週日毎ニ多少變遷スルモノナリ

第一週ニアリテハ迴腸下部ノ粘膜殊ニ「ペール」氏腺ノ近傍ニ於テ多少充血ヲ起シ且腫
 脹スルヲ見ル又同時ニ若干ノ「ペール」氏腺及ヒ孤腺モ亦タ其侵淫ニ因テ腫脹スヘシ殊
 ニ迴盲腸辨ノ周圍ニ於テ著ルシク第一週ノ終ニ達スルキハ患部ノ全面ニ波及スヘシ
 充血ハ特リ粘膜面ニ限局セス屢々膜膜ニ至ルマテ強劇ナル溢血ヲ起スヲアリ又「ヒラ
 デルヒヤ」府ノ大家「ライヨンス」氏ノ說ニ據レハ腸間膜及脾臟ニ波及スルヲアリト云
 第二週ニ達スルキハ「ペール」氏腺ノ滲出ヲ起シ溢血ヲ減スヘシ
 吾人カ想像スル所ヲ以テスレハ腸塚扶斯ノ毒質ニ依テ刺衝セラル、カ爲メニ「ペール」
 氏腺及ヒ孤腺共ニ其細胞元質ニ於テ急劇ナル繁殖機能ヲ起シ其核質ノ如キハ増殖スル
 ニ從テ分裂スヘシ故ニ腺内ノ含蓄物ノ増息スルニ從テ腺ノ全面腫脹シテ以テ腸管ノ裏
 面ニ突出シ且暗赤色ヲ呈スヘシ
 孤腺モ亦タ大ヒニ其容積ヲ變シ直徑十六分ノ一乃至八分ノ一「インチ」トナリ外形殆ン
 ト豌豆ニ類シ甚タシキハ蠶豆大ニ達スルヲアリ
 新生細胞ハ特リ腸腺ニノミ限局セス漸々増殖スルニ從テ流出シテ近接シクル粘膜ニ
 滲入シ又タハ筋肉中ヲ通過シテ以テ漿膜下層ニ侵入スヘシ

廻盲腸辨若シクハ其近傍ニ於テ數多ノ斑点互ヒニ密着シテ橢圓形ノ潰瘍トナリ或ヒハ
 辨膜ノ周圍ニ蔓延シテ輪狀ヲ呈スルヲアリ或ヒハ又タ腸管ノ長軸ニ沿フテ浸淫シ非常
 ノ縦徑ヲ有スルヲアリ
 腺体ノ浸淫セラル、ニ當テ每常其數ヲ同フスルモノニアラス故ニ多少ノ差アリト雖ヒ
 皆ナ悉トク侵カサル、ヲアリ或ヒハ三四個ニ過キサルヲアルカ如シ又タ孤腺ニアリテ
 ハ一様ナラサルモノナリ
 腸腺及ヒ孤腺共ニ細胞体ノ新生機頗フル旺盛ニシテ急劇トナリ外觀軟脆ニシテ海綿狀
 ヲ呈シ忍テニシテ壞疽狀ノ軟化及ヒ崩潰ヲ起スヘシ然リト雖ヒ重症ニアリテハ海綿狀
 ヲ呈セスシテ直チニ死壞スヘシ
 死壞シタル部位ハ通常膽汁色素ヲ含有スルカ爲メニ帶黃綠色ヲ呈シ或ヒハ腸ノ分泌液
 ニ因テ褐色ニ變スルヲアリ
 痂皮ハ第二週日ノ間ニ剝脱スルモノ多ク其痕ハ醜形ノ陥没面ヲ生シテ筋層ニ達シ甚タ
 シキハ漿膜ニ波及スルヲアリ而シテ其潰瘍面ハ當初發現シタル斑点ノ形狀ニ類スルモ
 ノナリ故ニ大抵橢圓形ニシテ其長軸ハ腸管ノ直徑ト平行シテ邊緣ハ肥厚シテ銳角ヲナ
 スモノ多シ

偶マ數個ノ潰瘍互ヒニ凝集シテ腸辨ノ近傍若シクハ周圍ニ於テ巨大ナル一大潰瘍ヲ起
 スコトアリ而シテ其間隙ニ於テ處々ニ粘膜ノ小片ヲ檢出スヘシ
 症ニヨリテハ潰爛及ヒ死壞ノ機ヲ起スノ頗フル遷延スルヲ見ヘシ故ニ「ライオン」氏カ
 實檢セシモノニアリテハ腸埵扶斯ノ滲出ヲ起スノ數月ニ渉ルモ潰爛ヲ將來セサリシト
 云フ然リト雖ヒ斯ノ如キ例証ハ殆ント破格ニ屬スルモノナリ
 豫后ノ佳良ナルモノニ於テ既ニ滲漏ヲ起スルハ漸々快復ニ趣クモノ尠ナカラス
 潰瘍ノ基底面ハ顆粒狀体ヲ以テ被包シ逐次収縮ヲ起シ終ニ潰爛部ヲ閉鎖シテ癥痕組織
 ヲ構成スヘシ
 腸腺及ヒ濾囊共ニ大抵健態ニ復シ潰爛スルヲ鮮ナシ故ニ新生シタル細胞ハ分裂シテ終
 ニ消滅スヘシ又タ充血ノ如キモ減退シテ平素ノ狀態ト異ナラサルニ至ル是レ即チ最モ
 輕症ナルモノニ於テ見ル所ノ變狀ナリ
 普通ノ症ニアリテハ同時ニ二般ノ病機ヲ將來スルモノ多シ假令ヘハ多少組織ノ軟化及
 ヒ破壊ヲ起スト雖ヒ間マ潰爛セサル所ノ腺体及ヒ濾囊ヲ見ルヲアルカ如シ而シテ其新
 生シタル元質ハ變質シテ吸収セラル、ヲ常トス
 腸管ヲ侵ス所ノ疾患ノ輕重ニ依テ本症ノ轉歸ニ於テ影響ヲ及ホスモノナリ故ニ下部ニ

アリテハ潰爛及ヒ軟化ヲ起シ上部ニアリテハ退却變化ニ依テ變質及ヒ吸収ヲ起スヘシ
 同時ニ崩壊ト補給ト全ク反對ナル作用ヲ現出スルヲアリ此時ニ於テハ既ニ癒合ノ機ヲ
 起シ傍ハラ穿孔ヲ將來スヘシ
 初起ニアリテハ腸間膜及ヒ腸管共ニ充血ヲ起スノミナラス腸腺ハ腫脹シテ赤色トナリ
 且濕潤スヘシ而シテ腺内ノ含有物益々蓄積シテ豆大胡桃大若シクハ鳩卵大ニ達スル
 コトアリ暫時ニシテ軟化及ヒ崩壊ヲ起シ囊内ニ浸潤スヘシ
 既ニ退却變化ヲ起スルハ軟化シタル物質ハ吸収シ充血モ亦タ消失シ腺体ハ漸々萎縮シ
 テ健態ニ復スヘシ偶マ一部分ニ於テ膿状体ノ凝結ヲ起シ逐次乾酪狀變質ヲ將來スルヲ
 アリ
 腹膜後部及ヒ氣管支腺ノ如キ他部ノ腺体ニ波及スルヲ尠ナカラスト雖ヒ腸間膜腺ニア
 リテハ直チニ腸管ノ患部ヨリ來ルニ非ラサレハ侵サル、ヲナシ
 腸管ニ於テ充血ヲ起スルハ脾臟膨大シテ第一週ノ終ニ於テハ腹壁ヨリ接觸シテ探知ス
 ルヲ得ヘシ既ニ極期ニ達スルハ其容積平素ニ二三倍スルヲ見ルヘシ
 脾臟ニ於テ現ハル、所ノ變狀ハ蜂窠織元質ノ増殖ニ因テ其質緻密トナリ指觸スレハ頗
 フル柔軟ナルノミナラス殆ント自家ノ重量ノ爲メニ破壊セントスルモノナリ

脾臟ニ於テモ亦タ退却變化ヲ起スルハ新生シタル元質ノ脂變及ヒ消失ヲ來タシ囊体収
 縮シテ纖維織ハ緻密トナルヘシ
 以上記スル所ハ特ニ腸垣扶斯ニ於テ見ル所ノ變狀ナリ
 吾人ハ爰ニ体温高度ニ達シ容易ニ減退セサルハ如何ナル變狀ニ基因スルカヲ説明スヘ
 シ今マ其要ヲ摘説スレハ肝臟腎臟ノ如キ機関ノ實質其他心臟ノ筋纖維、神經系及ヒ全身
 ノ諸筋ニ於テ變質ヲ起スカ爲メニ來ルモノト見做サ、ルヘカラス
 肝臟及ヒ腎臟ノ「ハーレンシマ」質ニ於ケル變質ハ固有ノ腺質ヲ侵カシテ顆粒若シクハ
 脂肪變質ヲ起サシムルニアリ
 肝臟ニアリテハ細胞内ニ脂肪顆粒ヲ發生シテ混濁セシメ之レカ爲メニ核質ノ消滅ヲ起
 スヘシ既ニ病機増進シタルモノニアリテハ皆ナ悉トク破碎シテ顆粒狀ノ細片トナル此
 時ニ達スルモノハ肝臟固有ノ緻密質及ヒ彈力ヲ失シ其色灰白若シクハ帶黃赤色トナリ
 微細ナル脈管内ニ含有スル所ノ血液モ亦タ減少スヘシ
 變質ノ多少ハ体温ノ度數ニ因テ大ヒニ異ナルモノトス故ニ其輕重ノ差ニ至テハ甚タシ
 キ懸隔ヲ生スルヲアリ通常肝ノ左葉ニ比スレハ右葉ニ於テ著ルシキモノナリ
 腎臟ニ於テハ細尿管ノ上皮顆粒變質ヲ起スヘシ當初皮質ヲ侵カシ尋テ圓錐体ニ波及ス

ルキハ其邊縁不明トナリ核質消滅シテ終ニ顆粗狀ノ細片トナルヘシ既ニ斯ノ如キ疾患ヲ將來スルキハ腎臟實質ノ緻密ヲ減スルノミナラス其色澤ヲ變スヘシ腎臟ニアリテモ亦タ肝臟ノ如ク變質ニ多少ノ差アリテ專ハラ体温ノ高低ニ依ルモノナリ故ニ其變質ノ部位廣大ナルキハ蛋白尿ヲ將來スヘシ心臟ノ筋纖維ニ於テ重要ナル變狀ヲ呈スルモノナリ假令ヒハ數多ノ顆粒狀體ヲ發生シテ纖維ニ浴フテ蔓延シ心臟ノ纖維内ニ侵入シ終ニ毛樣體ノ形狀ヲ消失スヘシ斯ノ如キ症狀ノ結果ニ於テハ巨害ヲ來タスモノ多シ

心臟ノ組織頗フル脆軟トナリ容易ニ破裂スヘシ殊ニ病機増進シタルモノニアリテハ死後体外ニ摘出シテ机上ニ置クキハ固有ノ形狀ヲ保有スルヲ能ハスシテ恰カモ泥土ノ如ク机上ニ凝着スヘシ

全身ノ諸筋ニ於テハ顆粒變質及ヒ蠟樣變質ノ二種アリ

腦ニ於テハ實質ノ變化ニ基因スル所ノ變狀ヲ檢出スルヲ能ハスト雖モ肉眼ヲ以テ見ルキハ其變狀明亮ナリ其主要ノ点ハ貧血ヲ起コシ腦、蜘蛛膜下腔、尿管周圍ノ淋巴腔及ヒ腦室ニ於テ浮腫ヲ起シ多量ノ液体ヲ含有スヘシ

偶々腦ノ一部ニ於テ健態ニ比スレハ唯タ少シク緻密ノ質ヲ減シ且萎縮症ヲ發シ廻轉ハ

扁平トナリ腦室ハ膨大スヘシ或ハ又タ斯ノ如キ變狀ヲ呈スルノミナラス稀レニハ急性腦膜炎ノ症候ヲ見ルヲアリ

呼吸機ニアリテハ諸般ノ症候ヲ呈スト雖モ必發特有ノ變狀ト見做スヲ能ハサルナリ屢々喉頭ノ潰瘍ヲ發スルヲアリト雖モ確微トナスヘキモノハ氣管支粘膜炎ノ加多兒症ニシテ焮腫スルヲ甚タシク稠膠ナル粘液ヲ以テ被包スルヲ見ルヘシ

部位ニヨリテハ氣胞内ニ空氣ノ通過スルヲ遮斷シテ處脫セシメ終ニ索條不全症ヲ將來スヘシ而シテ患側ノ肺臟ニ於テ下垂充血ヲ起シ同時ニ浮腫ヲ發スルヲアリ或ヒハ偶々肺小葉炎(加多兒性炎)或ヒハ肺大葉炎(格魯布性炎)ヲ誘發スルヲアリ

徵候

一般ノ規則トシテ論スルキハ前徵期ヲ有スルモノナリ

當初一週日乃至十日間精神氣力ノ虛衰ヲ覺エ諸般ノ操作ヲ營ムニ當テ容易ニ疲勞ヲ起シ易キヲ悟ルヘシ

或ヒハ又タ頭痛、嘔血、耳鳴、食思欲乏及ヒ輕微ノ下痢ヲ將來スルヲアリ

精神朦朧トシテ知力ノ作用ヲ試ムルモ忽チ倦怠シテ忍耐ニ乏シク夜間屢々魔夢ニ因テ安眠スルヲ能ハス暫時ニシテ數時若シクハ數日間寒戰ヲ覺エ尋テ熱症ヲ發スヘシ既ニ此期ニ達スルキハ生力虛脱シテ病勢ヲ離ル、コト能ハサルニ至ル

症ニヨリテハ前徵期ニ於テ急性胃加多兒ノ症狀ヲ呈シ全然食思ヲ絶チ惡心頻發シテ舌上厚苔ヲ被ムリ發歇性ノ嘔吐ヲ起スキハ稍々輕快ヲ覺ユヘシト雖モ忽チニシテ諸症候再發シ復タ嘔吐ヲ將來スルノミナラス下瀉ヲ併發スルキハ衰弱スルヲ益々甚シク頭痛ヲ感シ精神遲鈍トナリ夜間安眠スルヲナクシテ漸々熱症ヲ發スヘシ又タ症ニヨリテハ泥沼地方ニ於テ發スルヲ頗フル多ク其症狀殆ント間歇熱ニ類シ或ヒハ判然タル發作時ヲ有スルヲアリ然レモ暫時ニシテ弛張性ノ熱症トナリ漸々腸垣扶斯ノ現症ヲ呈スルニ至ル

偶マ前驅症ナクシテ頓發スルヲアリ此時ニアリテハ患者ノ外觀頗フル強健ナルカ如キモノ俄然戰慄ヲ起シ尋テ熱症衰弱及ヒ頭痛ノ如キ諸徵ヲ現ハシ翌日ニ達スルトキハ戰慄モ亦タ一層強劇トナリ熱症甚タシク精神朦朧トナリ總テ本症ニ於テ必發ノ徵候ヲ將來スヘシ

本症ノ病機ヲ論スルニ當テハ最初戰慄ヲ起シタルノ時即チ始メテ体温ノ昇騰ヲ現ハスノ日ヨリ起算シテ種々ノ時期ヲ區別シテ明亮ナラシメサルヘカラス既ニ熱症ヲ發シテ本症ノ襲撃ニ過フヲ知ルキハ其減退及ヒ消散ノ機ハ快復ニ趨クノ徵証タルヲ悟ルヘシ

第一週 此期ニアリテハ前徵期ノ諸症候共ニ増劇シテ頭痛甚タシク心神昏迷及ヒ知力衰耗ノ感アリ其他耳鳴シテ鼓膜スルヲ覺エ靛血ヲ發スルモ大量ナルヲナク眼球ニアリテハ羞明ヲ起スヘシ既ニ此期ニ達スルモ患者病辱ヲ當ル、ヲ得ヘシ然レモ強ヒテ直立セントスルキハ四肢震戦ヲ起シ且眩暈ノ發作ヲ將來スヘシ食思ヲ失スルノミナテス食事ヲ談スルモ忽チ厭惡ノ念ヲ起スヘシ又タ常ニ口内ニ味覺ヲ失シ煩渴欲引スルモノ多シ

舌体ハ當初腫大シテ蒼白色ヲ呈シ邊緣ニアリテハ齒牙ノ壓痕ヲ印スヘシ既ニ第五日ニ達スルキハ乾燥シテ収縮スヘシ而シテ舌苔ハ上皮ト共ニ痂皮トナリテ脫出シ其痕跡ハ鮮紅色ニシテ乾燥シ且粗糙トナルヲ見ル或ヒハ又タ震戦ノ狀ヲ呈スルヲアリ

前徵期ニ於テ偶マ下瀉ヲ發スルヲアリ爾後第一週日ノ間ハ屢々便秘ヲ起シ易シ而レモ此時ニ於テ微弱ナル緩下劑ヲ投スルモ忽チ暴瀉ヲ來スノ恐レアリ

第一週ノ間ニアリテハ多少ノ下瀉ヲ將來スルモノ多シ而シテ當初惡臭ヲ放ツ所ノ稀薄ナル褐色ノ糞尿ヲ漏ラスト雖モ第二週日ニ近ツタニ從テ上圖ノ度數ヲ増加シテ其性狀ヲ變シ帶黃褐色ノ豌豆羹汁ニ類スヘシ今マ其大便ヲ取り靜置スレハ上下ノ二層ヲナスヘシ上層ハ液体ニシテ中ニ塩類其他膽汁、上皮、磷酸アンモニヤ加滿俺及ヒ乳化シタル

脂肪小球ヨリ成ル所ノ遊蕩斯分ヲ含孕スヘシ又タ下層ハ稍々凝結ノ性ヲ有シ其含有物ハ殆ント上層ニアル所ノモノト異ナラスト雖「ゲヤクコード」氏ノ説ニ據レハ尚ホ脂肪、蛋白質、色素及ヒ磷酸塩類ヨリ成ル所ノ黄色ニシテ柔軟ナル凝塊ヲ含有スト云フ

今日ニアリテハ人皆十糞尿中ニ腸塚扶斯ノ毒物ヲ現存スルモノト想定シタルカ如シ故ニ顯微鏡ヲ以テ糞尿ヲ照檢スルノ最モ緊要タリ吾人ハ毛狀寄生族ニ屬スル所ノ帶褐黄色ノ小動物ヲ含有スルノ夥多ナルヲ發見シタリト雖其成績ハ未タ充分ナラサルナリ獨逸人「クレブ」氏ノ試驗シタル所ヲ見レハ病理學上ノ規則ニ於テ本症ヲ發生スヘカラサル所ノ液体中ニ此動物ヲ檢出スルノ夥ナカラスト云フ

此期ニ於テ現ハル、所ノ諸症候中右側ノ廻盲腸部ニ於テ含漱スルカ如キ音響ヲ聽取スヘシト雖下瀾ヲ併發スルモノニアリテハ常ニ同一ノ音響ヲ聽取スルカ故ニ特リ此一徵ニノミ依頼スルノ能ハサルモノトス

同時ニ含漱音ト疼痛トヲ併發シ第一週ノ終リニ於テ肚腹鼓脹スルキハ殊ニ明亮ナル症候ト見做スヘシ既ニ此期ニ達スルキハ判然脾臟濁音面ノ増大スルヲ徵知スルノミナラス屢々脾臟ノ膨大シタルヲ觸知スヘシ

扁桃腺、咽頭ノ滲囊及ヒ舌体ノ基底ニアル所ノ巨大ナル滲囊共ニ増大シ同時ニ腸腺ノ

發育スルヲ見ルヘシ

此期ニ於テ氣管支加多兒ニ基因スル濕性音ヲ聽取シ且被患ノ肺部ニ於テモ亦タ濕性音及ヒ乾性音ヲ發スヘシ然レ其輕重ノ度ハ流行ノ劇易ト各人ノ體質トニ依テ同一ナラサルモノトス

第一週ノ終リ或ヒハ第二週ノ初ニ達スルキハ判然神經系ノ變調ヲ現出スヘシ故ニ全身違和、背部及ヒ四肢ノ疼痛共ニ鎮靜シ之レニ代ルニ情欲ノ念慮ヲ失シ是非ヲ判斷スルノ知力ナク殆ント人事ヲ省ミサルカ如キ症狀ヲ呈スヘシ

患者精神恍惚トシテ昏迷シタルカ如キモ容易ニ醒覺シ夜間ニアリテ安眠スルヲナシ判斷ノ力ニ乏シク容貌自ツカラ痴呆ノ如キハ聽官ノ鈍麻ニ基因スルモノナリ故ニ談話ニ際シテハ高聲ヲ發セサレハ聽取スルノ能ハサルヘシ

患者醒覺スルキハ應答正確ニシテ自ツカラ健全ナルモノト想定スルモノ多シ既ニ第七日ヨリ第十日ノ間ニ達スルキハ精神ノ錯誤スルヲ檢出スヘシ而シテ其症候ハ日晡ニ現ハル、アリアリ或ヒハ夜間ニノミ來リ或ヒハ醒覺シタル時ニ發スルモノニシテ通常低聲ニ耳語スルカ如シ吾人ハ之レヲ喃々獨語ト云フ

偶々高調ナル譫語ヲ發シ殆ント粗暴ニシテ制止スルノ能ハサルヲアリ故ニ靜卧セシメ

ントスルモ臥床ヨリ躍起シ飲食ヲ勸ムルハ却テ之レニ抵抗シ飲料若シクハ藥劑ヲ與
 フルハ直チニ看護人ノ顔ニ向テ吐出スルアリ或ヒハ尋衣ヲ脱シ或ヒハ多言シテ歇ム
 ルヲナク或ヒハ病聲ヲ起チ甚タシキハ窓牖ヨリ脱出シテ戶外ニ徒歩スルヲアリ
 斯ノ如ク強劇ナル譫語ト共ニ体温ノ昇騰スルヲ甚タシク脈搏疾數ニシテ重症ノ諸徵ヲ
 呈スヘシト雖氏日常多ク見サル所ノモノナリ

普通ノ症ニアリテハ不定ノ低聲獨語ヲ發シ振振摸床及ヒ筋惕肉跳ヲ將來スヘシ
 筋肉ノ震戰ヲ發スルハ前膊筋腿ノ擡動ニ依テ現ハル、ノミナラス舌筋ヲ壓出セシムル
 トキハ判然其症候ヲ呈スヘシ

感覺閉止スルヲ甚タシカラサルモノニアリテハ患者ヲシテ強ヒテ舌体ヲ壓出セシムル
 ヲ得ヘシト雖氏其作用頗フル緩徐ニシテ震戰スルヲ甚タシキノミナラス再ヒ他ヨリ促
 カスニアラサレハ依然トシテ舌体ヲ口外ニ垂レテ口内ニ復歸セシムルヲ忘ルヘシ
 尿液ヲ檢スレハ酸性反應ヲ呈シ尿素尿酸及ヒ越幾斯分ニ富ミ格魯爾鹽類ニ乏シ又々屢
 ヲ尿性藍黛「リウシン」(尿及唾液)「チーロシン」(同上)ヲ含有シ或ヒハ蛋白質ヲ見ル
 一抄ナカラス

第一週ノ終リ或ヒハ第二週ノ初二達スルハ胸腔ノ下部及ヒ腹部ニ於テ微細ニシテ散

在セル豆形ノ蕃薇疹ヲ現出シ其面積帽針頭大ニシテ壓指スレハ退色シ其壓ヲ去レハ再
 ヒ現ハルヘシ而シテ其數五個乃至二十個ノ間ニアリ

症ニヨリテハ其數頗フル多ク百ヲ以テ算スルノミナラス殆ト全身ノ諸部ニ布蔓スヘシ
 偶マ發疹ヲ視サルヲアリ殊ニ輕症ノ珥扶斯ニアリテハ毫モ其痕跡ヲ見サルヲ多シ

普通ノ蕃薇疹ヲ發スルノ前若シクハ是レト同時ニ色素ヲ含ム所ノ暗黒色ニシテ巨大ナ
 ル一個ノ發疹ヲ現出スルヲアリ然レハ此巨大ナル發疹ハ特異ノ主徵ト見做スヲ能ハサ
 ルモノトス

發汗多量ナルモノニアリテハ頭部胸部及ヒ其他ノ部位ニ於テ夥多ノ粟粒狀水泡疹ヲ發
 スルヲアリ所謂汗疹是レナリ

第二週ノ終或ヒハ第三週ノ初日ニ達スルハ腸珥扶斯ノ諸症候益々増劇スヘシ
 感覺閉止スルヲ益々甚タシク患者呼喚スルモ容易ニ醒覺スルヲナク自己ノ身上ニ閉ス
 ルヲアルモ之レヲ顧ミサルニ至ル

口腔内ニ液体ヲ注入スルハ徐々ニ之レヲ嚥下スヘシ其症狀ヲ見ルニ常ニ仰臥ノ稍々
 眼瞼ヲ閉鎖シ口ヲ開ラキ内面ニ汚物ヲ堆積スルヲ甚タシク顔面暗黒色ニシテ沈鬱シタ
 ルカ如ク中央ニ於テ淡紅色ノ斑点ヲ見ルヲアリ唇緣常ニ乾燥シテ裂溝ヲ生シ不隨意ノ

運動ヲ起コシテ恰カモ猶語スルモノ、如シ
 患者疲勞シテ生カノ虚脱スルヲ甚タシク整然其体位ヲ保持スルヲ能ハサルヲ以テ卧床
 外ニ四肢ヲ垂ル、モノ多シ
 兩便共ニ自利シテ制止スルヲ能ハス或ヒハ尿管閉ヲ起シ或ヒハ滴瀝シテ快通スルヲナク
 膀胱ノ緊満非常ナルヲ見ルヲアリ或ヒハ偶マ便秘スルヲアリ
 脈搏疾速ニシテ九十至若シクハ百二十至余ニ達スルト雖モ大ヒニ其力ヲ減スヘシ其他
 心臓ノ鼓動モ亦タ微弱トナルヲ以テ肺臓及ヒ腦内ノ溢血ヲ起シ易シ
 脈搏モ亦タ微弱ニシテ壓止シ易ク且張力減少スルカ爲メニ重復脈ヲ現ハスヘシ
 腸埜扶斯ノ熱症ハ稽留熱ニ屬スト雖モ決シテ然ラス判然タル間歇熱ノ症狀ヲ有スルモ
 ノ數ナカラス
 當初第一週日ノ際々ハ漸々増進シ毎朝稍々輕減シ日晡ニ至リ昇騰スト雖モ一回毎ニ多
 少増進シテ終ニ極期ニ達スヘシ
 第二週日ニアリテハ熱症稽留シ第三週日ニ至リ弛張熱ノ症狀ニ變シ第四週日ニ達スル
 氏ハ更ニ轉化シテ間歇熱ノ症狀ニ陥ルモノナリ爾後毎日漸々減退シテ終ニ健態ノ度
 ニ復スヘシ

經過時期及轉歸

本症ノ極期ニアリテハ稽留スルヲ常トス偶マ瓊少ノ増減アリト雖モ其差ハ健康体ニ於
 テ朝夕ニ因テ生スル所ノ昇降ノ度ト異ナルヲナシ
 第三週日ノ終リニ達スル氏ハ佳良ナルモノニアリテハ熱症ノ退消ト共ニ變換ノ証徴ヲ
 呈スヘシ然リト雖モ病機増進ノ時ニ際シ不良ノ感動ヲ起ス所ノ併發症ヲ將來スルハ多
 ク第三週日内ニアリ而シテ其症狀ハ後章ニ詳説スヘシ
 第四週ニ達スル氏ハ感覺閉止ノ狀ヲ脱シ全然疾患ノ症狀ヲ自覺スヘシ故ニ七八日前ニ
 比スレハ反對ノ狀ヲ呈シ身上ニ関スル事物ニ遇フモ顧ミサリシモノ此期ニ至ルトキハ
 管ニ自己ノ身上ニ止マルヲナク延ヒテ他人ノ事ニ及ホシ憂愁措ク能ハサルカ如シ
 顔面羸瘦スト雖モ稍々健態ノ容貌ニ復シ眼球モ亦タ光澤ヲ有スヘシ
 夜間安眠ヲ妨クルヲ數ナク且譫語ヲ發スルヲナシ又タ精神恍惚タル症狀ヲ呈セスト雖
 モ睡眠中屢々醒覺スルヲアリ
 舌体及ヒ齒齦共ニ清潔トナリ食欲恢復シ下痢鎮靜シ却テ便秘ヲ起スヲアリ肚腹鼓脹モ
 漸次退消シ脾臟萎縮シ尿液多量ニシテ清澄トナリ數日間發汗淋漓トシテ流ル、カ如ク
 殊ニ臍底中ニ米ルヲ多シ

前章ニ記シタル熱症ノ經過ハ全然本症ノ病機發育シタルモノ

ニ於テ日常現ハル、所ノモノナリ然リト雖モ各人固有ノ體質、衛生上ノ感動及ヒ後章ニ記スル所ノ諸般ノ併發症トニ因テ種々ノ變態ヲ現ハスモノナリ
 不幸ノ轉歸ヲ將來スル所ノ主要ノ原因ハ高度ノ熱症持續スルニアリ故ニ本症ノ豫后ヲトスルニ當テハ此点ニ注目スルヲ最モ緊要ナリ
 爰ニ大家「リーベルメーヌステル」氏カ統計上ノ調査ニ據テ説明セシ所ノモノヲ舉クルニ
 体温華氏百四度以下ニアル者ハ患者ノ死亡スルモノ百分ノ九六ニアリ又々百四度若シクハ其餘ニ達スル者ハ死亡スルモノ百分ノ二十九、一ナリ若シ百五度八分以上ニ昇隆スル者ハ死亡スルモノ殆ント半數(百分ノ五十)以上ヲ見ルヘシ
 体温ノ高度ニ尋テ豫后ニ關係ヲ及ホスモノハ熱症ノ時期ナリ故ニ熱症ノ極期長キ者ハ死亡ノ數益々多シ
 併發症ヲ有セサルモノニアリテハ一般ノ規則トシテ熱症ノ極期ハ第一週ノ終リニ於テ始マルモノナリ又々毎日熱症ノ浮沈スルヲ甚タシキモノハ劇症ナラサルヲ知ルヘシ
 治法ノ巧拙ニ因テ死亡ノ多少ニ感動ヲ及ホスモノナリ殊ニ体温ヲ減退セシムルノ必要ナルヲ知ルヘシ
 年齡ハ本症ノ轉歸ニ於テ亦々重要ナル感動ヲ有スルモノナリ而シテ幼者ニアリテハ

死亡ノ數少ナク年齡ノ増加スルニ從テ益々多キモノトス
 各人固有ノ體質モ亦々死亡ノ増減ニ關係ヲ及ホスヲ素ヨリ論ヲ俟タス故ニ神經質ノモノハ危險ニ陥リ易ク粘液質ノモノハ佳良ナリトス又々筋肉多クシテ脂肪少ナキモノハ肥滿シタルモノニ比スレハ病機ニ耐ユルヲ強大ナリ
 平素酒類ヲ嗜ムモノハ體質ノ如何ニ關係ス願フル不良ノ結果ヲ將來スヘシ
 本症ノ流行時ニアリテハ數多ノ輕症患者ヲ見ルヲアリ又々願フル不整ナル破格症ヲ現出スルヲ尠ナカラス
 輕症、重症、扶斯ハ体温腋下ニ於テ百三度ヲ超ユルヲ鮮ナク又々譫語ヲ發スルヲナク唯々睡眠中醒覺セシムレハ少シク昏迷ヲ覺ユルヲアルノミ且精神稍々遲鈍トナリ輕症ノ下痢ヲ來タシ其時期短少ニシテ全經過ヲ合算スレハ二十一日ニシテ終ハルモノナリ
 不全、全、扶斯ハ毫毛前駆症ヲ有スルヲナク突然一回ノ寒戰ヲ以テ起リ一二日ニシテ極期ニ達スル者ハ体温百四度ニ至リ熱症ハ一週日間ニ渉ルヲナク四五日ニシテ弛張性若シクハ間歇性トナリ二週日以内ニシテ全治スルモノナリ
 我カ米國ニアリテハ輕症、重症、扶斯ヲ見ルヲ頗フル多シト雖モ予カ實驗スル所ヲ以テスレハ不全、全、扶斯ヲ見ルヲ極メテ鮮ナシトス

腸挫扶斯ノ經過時期及ヒ轉歸ハ併發症ニ因テ大ヒニ變動ヲ起スモノナリ
 腸出血ハ最も重要ナル併發症ニシテ熱症ノ經過中ニ一定ノ時期ヲ刻セスシテ來ルモノ
 ナリ而シテ失血ノ量ノ如キモ亦タ各人同一ナラサルモノトス
 血液ノ性狀ハ鮮紅色ニシテ稍々流動ノ力ヲ有スルヲアリ或ヒハ暗赤色ナルアリ或ヒハ帶
 濁黑色ニシテ殆ント「テール」(石炭ヨリ取リタ
 ル黑色ノ油質)狀ノ凝塊ヲナスヲアリ
 通常出血ヲ發スルヲ最も多キハ第二週日内ニアリ否レハ大抵第三週日ニアリト雖モ其
 他ノ時期ニアリテモ亦タ出血スルヲアリ
 本症ニ罹ル所ノ患者ノ總數ヲ以テ比較スルハ出血ヲ將來スルモノ殆ント百分ノ五ニ
 達スヘシ
 第一週日以内ニ出血スルモノハ充血ノ爲メニ腸ニ分布スル尿管ノ血壓ヲ増加スルニ因
 ルモノナリ又タ第二週日若シクハ第三週日ニ於テ來ルモノハ腐蝕ニ因テ尿管ノ破綻ス
 ルカ爲メニ發スルモノナリ而シテ第三週日後ニ出血スルモノハ潰爛ノ蔓延ニ因テ尿管
 ヲ侵蝕スルカ爲メニ現ハル、モノナリ
 偶々多量ノ失血ヲ起スモ体外ニ流泄セサルハ俄然抑壓ノ症狀ヲ呈シ皮膚厥冷シテ唇
 白色トナリ卒倒シテ脈搏幽微トナリ且体温ノ減退スルヲ以テ徴知スヘシ

出血ノ機ハ反復スルニアラサレハ大抵一二日ニシテ歇止スルモノナリ既ニ止血スルハ
 ハ脈搏稍々強實トナリ出血中鎮靜シタル諸語及ヒ感覺閉止ノ二症共ニ再ヒ現出スヘシ
 失血多量ナルモノハ尿管内ノ傷害モ亦タ巨大ナルヲ知ルヘシ
 或ル人ノ説ニ據レハ多量ノ失血ニ因テ大ヒニ病機増進ノ度ヲ挫折スルノ効ヲ奏スルヲ
 アリト云フ而レモ統計上ノ檢査ヲ以テスレハ全ク反對ノ結果ヲ見ルヘシ故ニ有名ナル
 「リーベルメーステル」氏ノ統計ハ失血ヲ將來シタルモノ、死亡數ハ其併發症ヲ有セサ
 ルモノニ比スレハ殆ント三倍ノ多數ニ達セリ然リト雖モ同氏ノ統計モ亦タ一概ニ正確
 ナルモノト斷定スルヲ能ハサルモノトス何トナレハ出血ヲ起スカ如キ症ニアリテハ他
 ノ諸症候モ亦タ從テ危篤ナルカ故ニ特リ失血ノ爲メニ斃レタルモノト見做スヲ能ハサ
 ルヲ以テナリ
 獨逸國ニ於テ水治法ヲ發明シテヨリ爾來大ヒニ腸出血ノ數ヲ減少セリ
 腸穿孔ハ死亡ノ一原因ニシテ其數ハ大抵百分ノ五乃至十五ノ間ニアリ
 腸穿孔ヲ將來スルノ時期ハ偶々第一週内ニ來ルヲアリト雖モ多クハ第三週ヨリ第五週
 ノ間ニアリ而シテ其原因ハ潰爛ノ侵淫又タハ硬結便、不化ノ食品若シクハ腸内瓦斯ノ
 緊滿ニ因テ腹膜ニ孔穴ヲ生シ又タハ屢々剖驗ニ於テ腹膜腔内ニ檢出スル所ノ腸蟲ニ基

因スルヲアリ
 潰瘍面ノ形状ハ恰カモ尖塔ヲ倒マニシタルカ如ク腹膜ニ穿孔ヲ生スルキハ其尖端ハ帽
 針頭大ヨリ豆大ニ至ル
 穿孔ノ部位ハ通常廻腸ナリト雖氏偶マ小腸ニ發スルヲアリ或ヒハ結腸部殊ニ蟲様垂ニ
 於テ孔穴ヲ生スルヲアリ又孤腺ニ於テ潰瘍ヲ發スルコト尠チカラス
 潰爛ノ部位巨大ナルキハ穿孔ヲ生スルノ危険モ亦タ從テ大ナリト雖氏單一ノ潰瘍ニ因
 テ腹膜ニ穿孔ヲ生スルカ如キ例証モ亦タ鮮ナカラサルモノトス
 穿孔ニ因テ起ル所ノ直接ノ結果ハ震盪症ナリ此時ニアリテハ皮膚厥冷シテ体温減少シ
 脈搏頗フル微弱トナリ非常ノ虚脱ニ陥リテ斃ル、コトアリ
 普通ノ症ニアリテハ患者ノ生力稍々回復シテ反動ヲ起シ忽チニシテ急性腹膜炎ヲ誘發
 スヘシ
 偶マ瓦斯ノ蓄積ニ因テ破綻ヲ起スキハ腹肚ノ膨滿スルヲ甚タシク上腹部突隆シ又々横
 隔膜ヲ舉擡スルカ爲メニ呼吸ヲ阻塞スルコトアリ
 腸管ノ破綻ヲ起スキハ忽チニシテ右側鼠蹊部ニ於テ劇痛ヲ發シ尋テ肚腹ニ向テ放射ス
 ヘシ而シテ一回若シクハ數回ノ寒戰ヲ發シテ再ヒ体温ノ昇隆スルノミナラス腹膜炎ニ

基因スル所ノ諸徴ヲ現ハスヘシ
 既ニ穿孔ヲ生スルキハ恢復スルモノ極メテ尠ナシ大抵當初第一回ノ震盪ニ因テ心臓麻
 痺ヲ起シテ斃ル、ニアラサレハ穿孔後第四日以内ニ鬼籍ニ登ルモノ多シ
 症ニヨリテハ重症ノ昏睡ヲ伴ヒ併發病ニ基因スル所ノ實性ノ証徴ヲ現ハスナク隱然
 穿孔ヲ生スルコトアリ
 穿孔ハ婦人ニ比スレハ男子ニ於テ發スルコト多シ
 腹膜炎ハ穿孔ノ外他ノ原因ニ依テ起ルコトアリ假令ハ潰瘍ノ蔓延シテ以テ腹膜ニ達
 スルヲアリ或ヒハ膽囊ノ破綻ニ依リ或ヒハ脾臓ノ破綻スルカ爲メニ發スルヲアルカ如
 シ予ハ恢復期ニ際シ胸脇ヲ打撲スルヲ強劇ナラサルモ終ニ脾臓ノ破裂ヲ起シ之レカ爲
 メニ不幸ニ陥リタルモノヲ實驗セリ
 第二週日後ニアリテハ容易ニ脾臓ノ破裂ヲ起スヲアルヲ以テ脾臓部ノ検査ニ臨ンテ最
 モ細心注意セサルヘカラス
 循環器ニ於ケル主要ノ併發症ハ心臓筋纖維ノ顆粒狀變質ニシテ心臓ノ作用萎憊スルカ
 爲メニ心臓若シクハ大血管内ニ血塞ヲ生スルニ因ル
 呼吸機ニアリテハ諸般ノ變狀ヲ將來スルモノニシテ殊ニ重要ナル症狀ヲ呈スルコトアリ

口、峽、ノ、質、扶、埴、利、性、滲、出、物、及、ヒ、喉、頭、ノ、潰、瘍、ハ、粘、膜、面、ノ、質、扶、埴、利、症、ノ、浸、潤、ニ、基、因、ス、ル、所、ノ、
 重、要、ナ、ル、併、發、症、ナ、リ
 偶、マ、聲、門、水、腫、ニ、因、テ、頓、カ、ニ、死、ヲ、致、ス、テ、ア、リ、或、ヒ、ハ、喉、頭、ノ、潰、瘍、ニ、基、因、ス、ル、テ、ア、リ
 心、臟、ノ、作、用、微、弱、ト、ナ、ル、カ、爲、メ、ニ、肺、臟、ニ、波、及、ス、ル、所、ノ、併、發、症、ハ、肺、臟、索、鞘、不、全、下、垂、充、血、脾、
 株、變、質、出、血、性、硬、塞、症、及、ヒ、浮、腫、ナ、リ
 續、發、症、ハ、乾、酪、肺、炎、肋、膜、炎、及、ヒ、急、性、粟、粒、結、核、ナ、リ
 腦、内、浮、腫、ハ、屢、々、目、擊、ス、ル、所、ノ、症、狀、ニ、シ、テ、腸、埴、扶、斯、ノ、死、体、剖、驗、ニ、於、テ、重、要、ナ、ル、變、狀、ト、ナ、
 セ、リ、其、他、凝、集、体、及、ヒ、液、体、ノ、變、狀、ヨ、リ、来、ル、所、ノ、諸、般、ノ、併、發、症、ヲ、見、ル、ヘ、シ
 腦、出、血、及、ヒ、急、性、腦、膜、炎、ハ、稀、有、ノ、併、發、症、ナ、リ
 精、神、ノ、錯、誤、ハ、必、發、ノ、症、候、ニ、シ、テ、大、腦、灰、白、質、ノ、貧、血、及、ヒ、官、能、ノ、遲、鈍、ニ、基、因、ス、ル、モ、ノ、ナ、リ
 精、神、錯、誤、ハ、腦、力、ノ、亢、進、ス、ル、カ、如、キ、モ、ノ、ア、リ、或、ヒ、ハ、抑、壓、シ、テ、鬱、憂、狀、ヲ、呈、ス、ル、テ、ア、リ、又、タ、
 遺、傳、ノ、腦、症、ヲ、賦、有、ス、ル、モ、ノ、ハ、重、要、ナ、ル、症、狀、ヲ、呈、ス、ト、雖、モ、唯、タ、腸、埴、扶、斯、ノ、爲、メ、ニ、腦、ノ、變、
 狀、ヲ、將、来、ス、ル、モ、ノ、ハ、恢、復、ス、ル、テ、迅、速、ナ、リ

腎、臟、ニ、於、テ、ハ、判、然、尿、中、ニ、蛋、白、質、ノ、痕、跡、ヲ、有、ス、ル、モ、ノ、多、キ、カ、故、ニ、腎、臟、ノ、一、部、ニ、於、テ、
 ラ、イ、ド、氏、病、ヲ、發、生、シ、タ、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、普、通、ノ、經、過、ヲ、取、ル、ノ、後、回、復、ス、ル、モ、ノ、ト、ス
 月、經、ハ、屢、々、本、症、ノ、經、過、中、ニ、来、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、却、テ、病、症、ノ、經、過、ニ、於、テ、佳、良、ノ、感、動、ヲ、起、ス、モ、
 ノ、ナ、リ、然、リ、ト、雖、モ、臨、産、ノ、婦、人、ニ、ア、リ、テ、ハ、墮、胎、ヲ、速、子、ク、テ、ア、リ、故、ニ、病、機、ヲ、シ、テ、危、篤、ナ、ラ、
 シ、ム、ル、モ、ノ、ト、見、做、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス
 皮、膚、ニ、於、テ、起、ル、所、ノ、最、モ、重、要、ナ、ル、併、發、症、ハ、瘰、癧、ナ、リ、而、シ、テ、其、部、位、ハ、最、モ、壓、迫、ヲ、被、ム、ル、
 所、ニ、シ、テ、薦、骨、脣、部、大、滑、車、及、ヒ、腸、骨、節、ナ、リ
 症、ニ、ヨ、リ、テ、ハ、殆、ン、ト、身、体、鞏、韌、ノ、性、ヲ、失、シ、タ、ル、カ、如、ク、何、ノ、部、ヲ、問、ハ、ス、壓、迫、ヲ、被、ム、ル、モ、
 忽、チ、潰、爛、ヲ、起、ス、テ、ア、リ
 潰、爛、ノ、廣、狭、及、ヒ、深、淺、ノ、度、ニ、至、テ、ハ、頗、フ、ル、差、異、ア、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、輕、症、ニ、ア、リ、テ、ハ、唯、タ、表、皮、
 赤、色、焮、腫、シ、或、ヒ、ハ、剝、脫、ス、ル、ニ、過、キ、サ、ル、テ、ア、リ、ト、雖、モ、重、症、ニ、ア、リ、テ、ハ、皮、膚、筋、鞘、及、ヒ、筋、肉、
 共、ニ、潰、爛、ヲ、起、シ、終、ニ、骨、膜、ニ、達、ス、ル、ヲ、見、ル、ヘ、シ、而、シ、テ、其、輕、重、ノ、度、ハ、當、初、被、ム、リ、タ、ル、傷、害、
 ノ、廣、狭、ニ、關、ス、ル、モ、ノ、ナ、リ
 潰、爛、巨、大、ニ、シ、テ、化、膿、及、ヒ、分、解、ヲ、起、ス、ル、ハ、必、ラ、ス、熱、症、ヲ、發、シ、全、身、ニ、感、傳、シ、テ、膿、血、症、及、ヒ、
 敗、血、症、ヲ、將、来、ス、ヘ、シ

毛髮脱落シ爪甲ノ發育ヲ止ムルカ如キハ皆ナ普通ノ症候ナリ
 再發。 偶マ併發症ノ爲メニ熱度ノ増進シタルモノヲ誤認シテ本症ノ再發トナス
 アリ然レモ眞ノ再發症ハ熱症ニ於テ現ハル、所ノ普通ノ經過ヲ逐フモノニシテ唯タ其
 時期ノ稍々短少ナルヲ見ルノミ是故ニ体温ノ昇騰スルヲ腸埵扶斯一癩ノ症狀ト異ナル
 一ナク脾臟腫大及ヒ蓄薇疹ヲ現出スルノミナラス其他ノ諸徵候モ亦タ其順序ヲ逐フテ
 現出スヘシ
 再發症ハ稍々輕緩ナリト雖モ之レカ爲メニ衰弱ヲ致ス一甚タシキヲ以テ大ヒニ危險ニ
 陥井ルノ恐レアリ
 再發症ニ罹ルモノ、統計ハ大抵百分ノ二乃至十二ノ間ニアリ

治則

腸埵扶斯ハ特異ノ疾患ナリト雖モ吾人ハ未タ其特効藥ヲ有セサルナリ然
 レモ獨逸國ニ於テ發明シタル療法ハ最モ著効アルカ如シ
 水銀及ヒ沃度ハ卓効ヲ奏スルモノ、如シ而シテ統計上ノ調査ニ據ルニ第一週日內ニ大
 量ノ甘汞ヲ投スルキハ大ヒニ病勢ヲ挫折スルノ効驗アルヲ疑ヒナシトス而シテ其用法
 ハ隔日二十 $\frac{1}{2}$ (〇、六〇) 宛一回ニ頓服セシムヘシ若シ体温昇隆スルヲ甚タシキハ毎
 日一回宛與フヘシト雖モ數日ニ渉ルキハ流涎ヲ起スノ恐レアリ

水銀療法ノ効力ハ体温ヲ降下セシメ病勢ヲ減殺シ且其時期ヲ短縮スルニアリ
 沃度療法ハ「ルゴル」氏溶液純沃度半 $\frac{1}{2}$ 及ヒ沃度加里壹 $\frac{1}{2}$ ヲニ滴乃至三滴宛一日三四
 水ニ滴シテ内服セシメ當初一二週日間持長シテ恢復期ニ達スヘシ
 大家「リーベルメーステル」氏ノ調査ニ據レハ普通ノ療法ヲ施シタルモノニ於ケル死亡
 數ハ百分ノ十三、ニシテ甘汞療法ニアリテハ百分ノ八、ハニ過キヌ又タ沃度ヲ用ヒタ
 ルモノニアリテハ十〇、九ナリシト云フ
 予カ實驗セシ所ヲ以テスレハ「リーベルメーステル」氏ノ說ニ左祖セサルヘカラス又タ
 實際上予カ確効アル者ト認メタル治法ハ沃度丁幾二 $\frac{1}{2}$ (ハ、〇〇) ニ石炭酸一 $\frac{1}{2}$ (四、〇〇)
 ヲ加ヒ一日三回一滴乃至三滴宛與フルニアリ
 硝酸銀、硫酸銅、砒石及ヒ「テレビン」油ノ如キモノハ腸管ノ疾患ニ於テ欠クヘカラサル
 所ノ藥品ナリ
 然リト雖モ腸埵扶斯ノ療法ニ於テ主眼トスヘキハ体温ヲ減退セシムルニアリ故ニ其目
 的ヲ有スル所ノ治法ヲ以テ最第一ノ要務トナサ、ルヘカラス所謂驅熱法是レナリ而シ
 テ其主藥ハ水治法幾尼涅及實芝多利斯ノ三種ニ過キヌ
 水治法ハ適宜ノ微温湯ニ浴セシメ或ヒハ温罨法ヲ施コシ或ヒハ外用法ヲ以テ熱ヲ減殺

セシムルニアリ

普通ノ住家ニアリテハ熱病患者ヲ浴セシムヘキ浴室ノ設ケナキヲ以テ病院ニアラサレハ施コスヲ能ハサルモノトス

水治法ヲ施コスニ當テハ漸々温度ヲ減スルヲ良トス故ニ當初華氏九十八度ノ水中ニ浴セシメ尋テ冷水ヲ加ヒ終ニ六十度ニ至ルマテ冷却セシム

此時ニ於テハ常ニ寒暖計ヲ浴水中ニ置キ温度ノ減少スルヲ注目スヘシ

水治ノ時間ハ十分時乃至十五分時間ヲ以テ程度トス

水治法ヲ要スル症ハ腋下ニ於テ体温華氏百二度半以上ニ達スルモノナリ而シテ水治法ノ効驗アルルハ晝夜共ニ毎二時乃至六時ニ反復スヘシ

患者抑壓ノ狀ヲ呈シ或ヒハ虚弱スル時ハ水治中及ヒ其前後ニ少量ノ刺動劑ヲ與フヘシ

水浴ノ効ナキハ寒暑法ヲ代用スヘシ其法タルヤ先ツ護謨布ヲ以テ床蓐ヲ被包シ冷水ニ浸シタル布片ヲ以テ身体ヲ蓋ヒ其上ニ「ブランケット」ヲ以テ包ミ二三分時毎ニ交換ス又タ腹部ニ氷嚢ヲ貼シ大ヒニ体温ヲ減スルヲアリ又タハ直腸ヨリ氷冷水ヲ注入スルヲアリト雖モ本症ニ於テハ敢テ稱賛スルヲ能ハサルカ如シ

冷水浴法ニ於テハ古來之レヲ非議スルモノ多シト雖モ腸出血ヲ將來スルモノニアリテ

ハ最モ必要ナリ其他心臟ノ作用頗フル衰憊シタルモノ及ヒ皮膚厥冷シテ内部ニ高熱ヲ有スルモノニハ飲クヘカラサルモノトス

異常ノ体温ヲ減少スルカ爲メニ水治法ニ次クモノハ發熱ニナリ或ヒハ却テ水治法ノ効力ニ優ルヲアリ

水治法ハ屢々良驗アリト雖モ發熱ニ溼ヲ稱用スルモノニ至テハ遙カニ多シトス是レ即チ其用法ノ簡便ナルノミナラス熱症ノ發生ニ向テ拒抗セシムルノ効力ヲ有スルカ如シ

大家「リーベルメーステル」氏ノ如キハ最モ水治法ヲ稱讚スト雖モ發熱ニ溼療法トノ優劣ヲ論シ孰レヲ取ルカノ論ニ至テハ必ラス先ツ發熱ニ溼ヲ先キニスヘシ

驅熱劑ニハ發熱ニ溼ノ用量二十 $\frac{1}{2}$ (一、二五) ヨリ四十 $\frac{1}{2}$ (二、五〇) ヲ投セサルヘカラス斯

ノ如ク大量ヲ與ルルハ体温ノ減スルヲ數度ニシテ二三時間持續スヘシト雖モ其量ヲ減スルルハ効力ヲ現ハサ、ルヲ多シ

予カ屢々良驗ヲ現シタルモノハ判然体温ノ減退ヲ起スマテ毎四時間ニ二十 $\frac{1}{2}$ (一、二五)

宛ヲ持長シ既ニ驅熱ノ効ヲ奏スルルハ其後ヲ止メ更ニ再ヒ体温ノ昇騰スルニアラサレハ反復スヘカラス

特リ發熱ニ溼ノミヲ投シテ効ナキハ腎莖多利斯ヲ伍用シテ以テ大ヒニ異常ノ体温ヲ減

殺スルコトアリ其用法ハ幾尼涅ノ駢熱量ヲ投シ傍ハラ二十四時間中毎四時ニ實多利
 斯浸一食匕(一五〇)宛ヲ内服セシムルニアリ而シテ此二品ヲ併用スルハ必ラス効
 カヲ現ハスト雖氏症ニヨリテハ實多利斯ヲ用ヒテ最モ害アルモノナリ假令ヘハ胃ノ
 刺衝アルモノ及ヒ心臟ノ作用微弱ナルモノニアリテハ實多利斯ヲ禁忌スルカ如シ
 駢熱法ハ一法ニ偏セスシテ内外ノ二法ヲ兼用スルハ大ヒニ効驗アルカ如シ故ニ水治
 法ト幾尼涅及ヒ實多利斯ノ内用ヲ命スヘシ
 腸垣扶斯患者ノ統計表ニ據テ精査スルニ吾人ハ未タ腸垣扶斯ノ侵蝕ニ依リ高熱ヲ發ス
 ルカ爲メニ起ル所ノ要點ト其侵蝕ヲ制止スルカ爲メニ使用スル所ノ駢熱藥トノ關係ヲ
 詳知スルヲ能ハサルナリ
 本症ノ治法ニ於テ体温ノ昇降スルヲ非常ノ度ニ達セスシテ本症固有ノ限界ヲ超エル
 ナキハ併發症ヲ將來スルノ危險尠ナキモノト見做スヘシ然リト雖氏輕忽ニ看過セ
 シテ危篤ニ陥ルナカラント豫防シ且併發症ノ侵襲ヲ戒マシムヘシ
 心臟ノ虛憊シタルハ興奮劑ヲ投スヘシト雖氏若シ其徵候ナキハ之レヲ禁シ專ラ食
 物ノ節制ヲ守ラシムヘシ
 經久不眠及ヒ懊惱甚タシキハ莫爾比涅及ヒ莖若ノ合劑ニ依テ大ヒニ鎮靜スヘシ

抱水格魯刺兒ハ心臟筋質ノ孱弱ナルモノニアリテハ最モ謹慎シテ用ヒサルヘカラス
 舌體乾燥シテ大渴ヲ催スノミナラス肚腹内毛斯ヲ以テ充滿スルハ「テレピン」油ヲ投
 スルコト最モ緊要ナリ其他稀塩酸モ亦タ同一ノ効ヲ有スルモノナリ
 下痢甚タシキハ磷酸ニ少量ノ阿片ヲ伍シ或ハ「ホール」氏水及ヒ阿片丁幾ノ合劑ヲ
 投スルモ可ナリ殊ニ蒼鉛ニ石炭酸ヲ伍用スルハ能ク下痢ヲ鎮靜スヘシ
 一日二三回上圍スルモ暴瀉シテ虚脱ヲ起スノ徵ナキハ敢テ意ニ介スルヲ要セス
 食物ノ攝生及營養ニ注意スルハ腸管ノ作用ヲ整復スヘシ又タ出血スルハ阿片ヲ以
 テ腸ノ蠕動ヲ靜止スヘシ尚ホ出血止マサルハ皮下ニ麥奴元ヲ注射シ肚腹ニ氷囊ヲ貼
 スヘシ
 内服ニハ丹寧酸、明礬及ヒ格魯爾鈦ノ溶液ヲ用フヘシ既ニ腸ニ穿孔ヲ生スルトキハ阿
 片劑殊ニ莫非比涅ノ皮下注射法ヲ施コスノ外ナシ
 興奮劑ハ最モ注意シテ用ヒサルヘカラス且身體ヲシテ常ニ安靜ナラシムルヲ要ス又タ
 瘰癧ヲ豫防スルカ爲メニ冷水ヲ含有セル囊狀ノ枕子ヲ用ヒテ壓迫ヲ除クヘシ
 將サニ皮膚ノ剝脱ヲ起サントスルハ屢々亞兒侗兒ヲ以テ洗ヒ錯酸鉛水ヲ注キ皮膚ノ
 癒合ヲ促カスヘシ

瘡瘡ヲ豫防スルカ爲メニ最モ適當ノ保護法ハ「コバイバ」ト「カストル」油ノ等分ヲ混シ
 タル溶液ヲ塗擦スルニアリ
 潰瘍面ニ於テ多少ノ重量ヲ支持スルルハ巨大ナル醗酵巴布ヲ以テ最良トス
 榮養療法ハ特ニ軟クヘカラサルモノトス何トナレハ其疾患ノ所在ハ多ク腸管ニアルヲ
 以テ最モ其攝生ニ注意セサルヘカラス
 是故ニ有名ナル醫士「ジヨージ、ギョソソ」氏ノ如キハ腸垣扶斯患者ノ大數ハ病臥ニ
 靜置シテ乳汁ノミヲ與フルノ外他ニ治法ヲ要セサルモノトナセリ又大家「ウヰルレム、
 ゼン子ル」君ノ如キハ牛乳ハ最モ緊要ナルモノニシテ其症狀ノ如何ヲ問ハス必ラス軟
 クヘカラサル所ノモノトナセリ予モ亦タ此諸大家ノ説ニ左祖シテ本症ニ於テハ特拔無
 比ノ食品トナスト雖モ其分量ト時間トヲ斟酌セサルヘカラス
 牛乳ノ用法ハ毎三時間ニ「二〇〇」_{グラム}「六〇〇」_{グラム}乃至四「〇〇〇」_{グラム}宛與フルヲ良
 トス或ヒハ同一ノ時間ニ於テ一回ハ牛乳ヲ與ヒ第二回ニハ犢肉、牛肉若シクハ鶏肉ノ
 蒸汁ヲ與フルモ可ナリ
 牛乳ヲ充分ニ得ルヲ能ハサルルハ之レニ裸麥煎汁ヲ加ヒ稀釋シテ用フルモ妨ケナシ
 若シ恆氣ヲ發シ或ヒハ消化セスシテ排泄スルルハ毎食後ニ少量ノ「ペプシチ」溶液及ヒ

稀塩酸ヲ内服セシムヘシ
 牛肉蒸汁ハ頗フル消化シ難キモノニシテ胃中ニ入り却テ下痢ヲ促カシ其排泄物ヲ檢ス
 レハ嘔下シタルルキト毫モ變状ナキモノヲ見ルヲ妙ナカラス
 衰弱甚タシキハ鶏卵ノ黄色ナル部ニ「ウヰスキ」酒又ハ「ブランデー」酒ヲ加ヒ砂糖
 少許ヲ投シ温湯ヲ加ヒテ攪拌シテ與フルルハ大ヒニ食氣ヲ増進スヘシ
 食物ハ一時ニ投スルヲナク前回ニ嘔下シタルモノハ既ニ消化シタル後ニ次回ノ食物ヲ
 與フヘシ
 當初一週目ノ間ハ微弱ナル葡萄酒ヲ與ヒ第三四週ニアリテハ鶏卵「ブランデー」ヲ飲マ
 シムルヲ良トス而シテ葡萄酒ハ一回ノ量半汚_{グラム}「一五〇」乃至一汚_{グラム}「三〇〇」トシ「ブラ
 ンデー」酒ハ二汚_{グラム}「七五〇」乃至半汚_{グラム}「一五〇」ヲ超ユヘカラス
 輕症ニアリテハ毫モ興奮劑ヲ要セサルナリ
 患者ノ排泄物ハ硫酸鉄或ヒハ格魯兒亞鉛ノ強溶液ヲ注キ充分ニ防腐法ヲ施スヘシ
 病室内ニハ無用ノ器具ヲ陳列セスシテ室ノ中央ニ臥床ヲ設クヘシ且空氣ノ流通ヲ自在
 ナラシメ一室内ニハ一人ヲ限り常ニ看護人ヲシテ注意セシメ妄リニ無用ノ人ヲシテ居
 ラシムヘカラス

○ 發疹 塚 扶 斯

原 名
タイフス フヰブル
TYPHUS FEVER.

釋 義

發疹塚扶斯ハ自折性ノ熱性病ニシテ非常ノ虛脱ヲ起コシ一種特異ノ紫斑ヲ發シ佳良ナルモノニアリテハ第二週ノ末期ニ於テ分利ノ轉歸ヲ以テ終ルモノナリ近世一般ニ信據スル所ノ説ヲ見ルニ腸塚扶斯ト發疹塚扶斯トハ全然特殊ナル疾患トナセリ然レハ英國ノ大家「ストーク」氏ノ論ハ稍々其趣ヲ異ニスルモノ、如シ今マ此二症ノ類似スル所ト殊異ナル点トヲ比較スレハ殆ント類似シタル点ノ多數ナルヲ見ルヘシト云フ

原 因

一般ノ規則トシテ發疹塚扶斯ハ港灣ノ市街ニ流行スルヲ多キヲ以テ一ニ船舶熱ノ異名アリ然リト雖ハ饑饉ノ如キ時變ニ際スルハ大陸ニ於テモ亦タ其猖獗ヲ極ムルヲアリ愛爾蘭土國ニアリテハ最モ明亮ナル例ヲ現ハセリ以太利及ヒ澳斯太刺匈牙利國ニ於テハ同一ノ時變ニ際シ激烈ナル流行ヲ來タセリ本症ハ多數ノ旅客ヲ搭載スル船舶又タハ貧院牢獄ノ如キ衆人群居シテ粗食シ且ツ不潔ノ空氣ヲ呼吸シテ生力ノ抑壓スルヲ甚タシキハ益々流行ノ勢力ヲ助クルモノ、如シ我カ米國ニアリテハ港灣ノ市街ヲ除クノ外内地ニ於テハ之レヲ見ルヲナシ吾人カ實驗セシ所ヲ以テスレハ千八百五十年ヨリ五十三年ニ至ルノ間「バルチモール」港（合衆國一衆國

リナ）ノ病院ニ於テ博士「バワル」氏及ヒ「チウ」氏カ治療セシ患者アルノミ而シテ其原因ハ同港ニ碇船セル船舶ヨリ發疹塚扶斯ニ罹リテ入院シタルモノニシテ其他ハ絶ヘテ本症ノ流行セシモノヲ見ス

衛生學上ノ感動ニ於テ頗フル不良ナルヲアルモ發疹塚扶斯ハ特發スルノ勢力ヲ有スルモノニアラス必ラス外部ヨリ特殊ナル病毒微菌ノ侵入ニ依テ起ルモノナリ吾人ハ未タ其微菌ノ性質形狀及ヒ作用ノ如何ヲ詳知スルヲ能ハサルナリ然リト雖ハ其病機ハ觸接傳染スルコト鹹カンニシテ其傳染毒ハ一局處ニ多數ノ患者ヲシテ群居セシムルハ益々勢力ヲ加フルノミナラス攝生不良ナルモノ及ヒ体力ノ虛衰セルモノハ殊ニ侵襲ヲ被ムルヲ多キカ如シ是故ニ愛爾蘭土國ニ於テ饑饉ニ際シ本症ノ毒質ヲシテ猛烈ナラシメタルコト實ニ驚クニ耐エタリ

本症ハ婦人ニ比スレハ男子ニ於テ發スルコト多ク又タ年齡ヲ以テ比較スルハ生活機能ノ最モ強盛ナル時即チ十五歳ヨリ五十歳ノ間ニ於テ最モ多數ヲ有スルモノナリ本症ハ他ノ急性傳染病ノ如ク一タヒ侵襲ヲ被ムルハ後求免厄質トナルヘシ

病理的解剖

吾人ハ發疹塚扶斯ニ於テ現ハル、所ノ變狀ヲ討究ススルニ判然腸塚扶斯ト區別スルヲ得ヘキ証徴ヲ檢出スルヲ能ハサルナリ

身体ノ諸組織及ヒ液体共ニ侵蝕セラル、₁甚タシク特ニ小腸ノ上部及ヒ廻腸ノ部ニ於テ尿管ノ怒張スルヲ見ルヘシ
廻腸ハ星芒狀或ヒハ樹枝狀ノ充血ヲ起シ其中央ニ於テ微細ナル潰爛ヲ起シ腸壁扶斯ニ於テ見ル所ノモノト稍々異ナルト雖「ライオン」氏ノ説ニ據レハ唯々百人中五名ニ過キスト云フ

腸間膜腺ニ於テハ肥厚及ヒ沈着物ヲ生スル₁アリト雖稀有ノ變狀トス又タ症ニヨリテハ脾臟、肝臟及ヒ腎臟ニ於テ多少ノ充血ヲ起シ且顆粒狀變質ヲ將來スル₁アリ或ヒハ心臟ニ於テハ亦タ同一ノ(顆粒)變質ヲ起ス₁アリ其他心囊内ニ漿液ノ渚溜スル₁アリ血液ノ性状ハ暗赤色ニシテ凝結スル₁甚シカラスト雖「巨」大ナル靜脈管壁ニ於テ血塞ヲ生スルコト尠ナカラス

蜘蛛網膜下腔ニ於テハ多少ノ液体ヲ生シ腦ノ諸膜及ヒ實質ニ於テモ亦タ多少ノ充血ヲ起スヘシ

氣管支ノ粘膜ハ充血及ヒ炎症ヲ起シ偶々橐籥不全症及ヒ肺炎ヲ將來スルコトアリ筋肉ニアリテハ顆粒狀變質ヲ現ハスヘシ

徵候

本症ハ前徵期ヲ有スル₁アリ或ヒハ否ラサル₁アリ縱令ヒ之レヲ有スル

₁アルモ頗フル短少ナルヲ常トス

前駆症ハ患者精神鬱屈シタルカ如ク且疲勞ノ感覺甚タシク頭痛ヲ起シ夜間安眠ヲ妨クルモノ多シ

二三日ヲ經ル₁ハ患者臥床ヲ離ル、₁能ハスシテ虚脱スル₁甚タシ又タ症ニヨリテハ往時愛爾蘭土國ニ於テ流行シタルカ如ク卒然侵襲ヲ被ムリ直チニ虚脱ノ狀ニ陥リ自ツカラ病院ニ赴キ或ヒハ臥床ニ仆レ二十四時間ヲ經ル₁ハ昏睡ノ狀ニ陥リ生力沈衰スヘシ

病初輕微ノ戰慄ヲ以テ起リ或ヒハ惡心及ヒ嘔吐ノ症候ヲ以テ發スル₁アリ既ニ此期ヲ終ハル₁ハ背部及ヒ四肢ニ於テ疼痛ヲ感シ且劇頭痛ヲ將來スヘシ

頭顱ニ溫暖ノ感覺アリ起立セントスル₁ハ忽チ眩暈ヲ發シ噴嚏其他加多兒症ノ諸徵ヲ呈シ且耳鳴スルヲ常トス

病初ヨリ体温ノ昇騰スル₁頗フル迅速ニシテ第三日若シクハ第四日ニ達スルトキハ早晨華氏百三四度ニ至リ日晡ニアリテハ百五六度ニ達スヘシ

脈搏ハ一分時間九十乃至百二十至ノ度ニアリ

偶々病毒ノ浸潤スル₁頗フル強盛ナルヲ以テ諸液ノ勢力減損スルカ爲メニ脈搏ヲシテ

増加セシメ若シクハ常度ヲ保有セシムルヲ能ハス又体温ノ如キモ九十九度以上ニ達スルヲ能ハサルヲ見ルヲアリ

特異ノ症徴ナクシテ暫時高度ノ熱ヲ發スルヲアリト雖ヒ体温ノ昇隆スルヲ甚ダシク頑固ニシテ容易ニ減少セサルハハ險惡ナルヲ知ルヘシ

非常ノ虛衰ヲ来タシ忽チニシテ全然人事ヲ省セサルニ至ル此時ニアリテハ患者病容ニ仰臥シ毫モ他ヲ顧ミルヲナシ而シテ眼瞼常ニ全ク閉鎖スルヲナク唇縁乾燥シテ屢々裂傷ヲ起シ齒牙ニ污垢ヲ生シ顔面暗黒色ヲ呈スルノミナラス全身ノ皮膚ニ波及シ顚骨突起ハ帶褐赤色ヲ現ハスヘシ

第一週ノ終ニ達スルハハ判然タル埵扶斯ノ發疹ヲ現出スヘシ其部位ハ男子ニアリテハ背部肩胛骨ノ中間ヨリ始メ婦人ニアリテハ胸腹ノ部位ヨリ始メテ全身ノ諸部ニ蔓延スルヲ常トス

發疹ノ面積ハ大抵半「ライン」(我五釐ニ當ル)乃至一「ライン」ノ間ニアリ其色帶褐赤色ニシテ稍々表皮面ニ突出シ指壓スレハ其色退消シ其壓ヲ除ケハ再び現出スヘシ而シテ其數ノ夥多ナルモノニアリテハ一寸平方ノ面積ニ數十顆ヲ發生スヘシ又々其數ノ少ナキモノハ發疹ノ巨大ナルモノ多シ

發疹ノ機ハ一頓ニ来タルヲナク漸次其數ヲ増加シ其時期ハ大抵五日乃至七日ノ間ニアリ故ニ全然退消スルノ期ハ第十二日ヨリ第十四日ノ間ニアリ

豫后ノ良否ハ發疹ノ形状ニ據テ判知スルヲ得ルヲアリ縱令ヘハ發疹ノ薔薇色ヲ呈スルモノハ皮膚ノ健全ナルヲ以テ豫后ノ佳良ナルヲ徵知スヘシト雖ヒ帶褐黒色ヲ現ハスモノハ表皮面モ亦タ暗黒色ニ變スルカ故ニ豫后ニ至テハ險惡ナルモノトス

大家「トロシユウ」氏ノ說ハ本症ノ輕重及ヒ時期ハ專ハラ發疹ノ多寡ト其色ノ濃淡トニ関スルモノトナセリ

流行時ノ景況ニヨリ本症ノ正徴タル麻疹ニ類スル所ノ皮疹ヲ發スルノ外大小一様ナラサル紫斑ヲ現出スルヲアリ而シテ巨大ナル出血滲漏ヲ將來スルモノハ之レヲ惡性紫斑ト稱セリ斯ノ如ク二種ノ發疹ヲ現出スルモノハ益々病機ノ危篤ヲ致スモノナリ

又タ汗疹ヲ發スルヲアリト雖ヒ其含有物ニ於テ特異ノ性状ヲ有スルニ非サレハ敢テ意トスルニ足ラサルナリ而レヒ血液ヲ含ミ或ヒハ腐敗具ヲ放ツハ組織ノ頽廢ヲ来タスモノナリ

第一週ノ終リ或ヒハ第二週ノ初二於テ腦力ノ遲鈍ナルヲナク却テ銳強ナル精神錯誤ヲ發スルコトアリ加之ノミナラス其症狀ノ強劇ナルモノニアリテハ患者自ツカラ制スル

一能ハス臥床ヨリ蹴起シテ迄接スルモノアルキハ何人ヲ問ハス之レヲ毆打シ或ヒハ之
 レト争闘スヘシ斯ノ如キ症狀ヲ指シテ狂亂ト云ヒ二三日間持續スルヲアリ
 患者毫モ睡眠スルヲナク同時ニ劇熱ヲ發シ心臟ノ鼓動疾速トナリ結膜ニ充血ヲ起シ且
 羞明スルヲ甚タシク瞳孔ノ縮小スルヲ見ルヘシ然レトス如キ強腎ナル精神錯誤ヲ將
 采スルモノハ低聲獨語スルモノニ比スレハ妙ナキモノトス
 患者多クハ自動ノ精神ヲ失シ飲食ノ如キモ機械的ノ作用ニ依テ嚥下スルニ過キス夜間
 安眠スルヲナク常ニ半醒半睡ノ間ニアリ脈搏百二十至ヨリ百四十至ヲ數ヒ重復脈トナ
 リ且壓止シ易キモノトス全身ノ表皮ハ污垢ヲ被ムリタルカ如ク蒼身症狀ヲ呈シ全然衰
 耗ニ陥ルモノナリ
 輕症ノ乾咳ヲ發スルヲ多ク腸管ノ機能ハ病初ニアリテハ稍々便秘ヲ起シ殊ニ病機増進
 ノ期ニアリテハ大便ノ排泄少ナシト雖モ稀薄ニシテ惡臭ヲ放ツ所ノ褐色便ヲ瀉スヘシ
 本症ニアリテハ毫モ肚腹ノ緊滿ヲ起スヲナシ脾臟腫大シテ下垂スルヲアリ
 尿量減少シテ其色濃厚トナリ異重高クシテ常ニ蛋白質ヲ含有ス
 感覺閉止ノ際ニ於テハ兩便共ニ自利スヘシ
 世ノ醫家ハ本症ノ患者ニ接スルキハ一種特異ナル臭氣ヲ發スルモノトナセリ

大家「トロシユ」氏ハ一種固有ノ性質ヲ有スルモノト信セリ然リト雖モ吾人カ認知ス
 ル所ヲ以テスレハ特リ本症ニ於テ此臭氣ヲ放ツノミナラス諸般ノ熱病患者ニアリテハ
 大抵同一ナルモノ、如シ
 第二週日ニアリテハ衰弱スルコト最モ甚タシク他ニ併發症ヲ將來スルヲナキモ心臟ノ
 虚脱ニ因テ斃ル、コトアリ
 表皮面ノ温度稍々減少シ紫斑ハ却テ増大スルヲ見ルヘシ又タ薦骨部ノ如キ壓迫ヲ被ム
 ル所ノ部位ハ軟化シテ潰爛ヲ起スヘシ
 脈搏微細ニシテ不整トナリ心臟ノ鼓動幽微ニシテ認知シ難ク殊ニ第一音ノ如キハ殆ン
 ト聽取スルコト能ハサルニ至ル
 既ニ此機ニ達スルキハ一二日間將ニ死セントシテ再ヒ醒覺シ終ニ昏睡ニ陥ルヲアリ或
 ヒハ俄然肺臟ノ鬱積ニ因テ斃ル、コトアリ或ヒハ心臟ノ虚脱ヲ起シ橈骨動脈ノ搏動ノ
 如キハ幽微ニシテ覺知スルヲ能ハス皮膚厥冷シテ冷汗ヲ流カスヲアリ
 患者ノ大數ハ不幸ニ陥ルヲナク回復ノ轉歸ヲ取ルモノナリ
 佳良ノ轉歸ニ向ハントスルモノニアリテハ大凡ソ第十四日ニ至リ稍々分利ノ症狀ヲ現
 ハスモノニシテ患者數日間安靜ニ睡眠シ醒覺スルキハ精神稍々爽明トナリ腦力モ亦タ

殆ント恢復スヘシト雖氏既ニ經過シタル事物ハ皆十忘却スルヲ常トス而シテ自ツカラ
非常ニ衰弱シタルヲ覺ユヘシ
肺搏ハ其數ヲ減スルモ實大トナリ舌体モ亦タ清潔ニシテ滋潤シ皮膚アリテハ溫暖ナル
汗液ヲ分泌シ稍々食思ヲ起スヘシ

醫士「モルチソン」氏ノ熱病論ヲ見ルニ回復ニ趣カントスルノ症狀ニ伴フ所ノ分泌機ノ
顯象ハ脱汗、下痢若シクハ尿液ノ排泄多量トナリ且大量ノ沈澱物ヲ含有スルニアリ

經過時期及轉歸

流行時ニアリテハ發疹埒扶斯ノ經過ニ於テ大ナル差異ヲ生ス
ルモノナリ

最モ輕易ナルモノニアリテハ脈搏百至ヲ超ユルヲナク舌体乾燥セス又タ褐色ニ變スル
ヲナク唯タ少シク精神ノ昏迷ヲ起シ稍々安眠ヲ妨クルニ過キス

劇症ニアリテハ最モ強劇ナル毒質ノ侵襲ヲ被ムリ直チニ危篤ナル虚脱ノ症狀ニ陥ル
且血液ノ滲敗ヲ起シ他ニ認知スヘキ併發症ナキモ發病後二三日ニシテ命期ヲ終ハルモ
ノナリ然リト雖氏通常不幸ノ轉歸ヲ取ルモノハ多ク併發症ニ基因スルモノナリ

併發症ノ最モ重要ナルモノハ氣管支炎、肺臟下垂充血、肺炎、肺壞疽及ヒ肋膜炎ナリ
本症ク經過中既ニ感覺閉止スルヲ甚タシキハ患者自ツカラ併發症ノ徵候ヲ現出スヘ

キ生カヲ有セサルカ故ニ數回検査スルノ後始メテ之レヲ發見スルヲアリ

呼吸益々疾數トナリ或ヒハ鼻翼ノ扇動スルヲ甚タシク或ヒハ顔面ノ充血益々甚タシキ
ハ直チニ胸部ノ諸機關ニ異狀ナキヤ否ヤニ注目スヘシ

胸部ノ疾患中特ニ最モ多キモノハ氣管支炎ナリ而シテ咳嗽ヲ發スルヲナク唯タ濕性病
的音ヲ聽取スルノミ偶々毛細氣管支ニ蔓延スルノミナラス同時ニ下垂充血ヲ將來スル
ハ危険ニ陥ルモノ多シ

衰弱益々甚タシキハ氣管支ニ麻痺ヲ起シ蓄積スル所ノ粘液ヲ驅逐スルヲ能ハサルヲ
以テ窒息ニ因テ斃ルヘシ

普通ノ順序ヲ以テ論スルハ發疹埒扶斯ニ於テ氣管支炎ト共ニ下垂充血ヲ將來スルモ
ノハ死因ノ最モ多數ヲ占ムルモノナリ

肺炎ハ稀有ノ併發症ナリ然レ氏飢饉ノ時ニ求ル所ノ發疹埒扶斯ニアリテハ肺壞疽ヲ發ス
ルモノ多キカ如シ

偶々股動脈ノ血塞ヲ生スルヲアリト雖氏血液中ニ起ル所ノ主要ノ併發症ハ其中ニ含有
セル有機体ノ分解ヲ起スニアリ縱令ハハ紫斑ヲ現出シ或ヒハ動脈、氣管支出血、胃出血、

腸出血及ヒ腎臟出血ヲ將來シ且蒼身症狀ヲ呈スルモノアルカ如シ

偶マ精神遲鈍若シクハ癲狂ヲ繼發スルコトアリ然リト雖モ熱症ノ經過中若シクハ恢復期ニ於テハ半身不遂、截癱若シクハ五官ヲ侵カス所ノ失明又ハ耳聾ノ如キ麻痺性ノ疾患ヲ併發スルモノ多シ

斯ノ如キ併發症ハ大抵熱症ニ依テ起ル所ノ強劇ナル之血症ノ爲メニ來ルカ故ニ暫時ニシテ恢復スルモノ多シト雖モ中耳部ノ化膿ニ基因スル所ノ耳聾ノ如キハ頑固ナル頑固ニシテ容易ニ治セサルモノトス

皮膚ニ於テ現ハル、所ノ併發症ハ顔フル危險ナルモノ尠ナカラズ其重要ナルモノハ瀰漫性ノ瘡癤、皮膚ノ瘰癧及ヒ癩瘡ナリ

偶マ一肢ノ全部悉トク瘰癧ニ陷ルコトアリ又タ頭顱及顔面ノ羅斯、頸腺、化膿及ヒ横痃ヲ發スルコトアリ

何症タルヲ問ハス發疹瘰癧扶斯ノ經過中ニ他ノ疾患ヲ併發スルモノハ本病ヲシテ幾分ノ危險ヲ加フルノミナラス緊要ナル關係ヲ起スモノナリ

輕症ニシテ併發病ヲ有セサルモノハ其時期大抵三週日ヲ費ヤスヘシ

獨逸人ハ一種破格ノ發疹瘰癧扶斯ナルモノヲ報告セリ而シテ其時期頗フル短少ニシテ第七日ニ於テ分利スルモノナリ然リト雖モ予カ見ヲ以テスルモノハ此症ハ特殊ノ疾患ナル

モノヲ取テ本症ノ範圍内ニ算入シタルモノ、如シ

本症ニ於テ併發症ヲ有スルモノハ四五週日若シクハ六週日ヲ要スルコトアリ

強劇ナル流行時ニアリテモ過半数以上ノモノハ回復ノ轉歸ヲ取ルモノナリ而シテ豫后ノ良否ハ專ハラ病症ノ如何ニ関スルモノナリ左ニ其大要ヲ略叙スヘシ

「マルチソン」氏曰ク劇熱及ヒ強實ナル精神ノ錯誤ヲ將來スルモノハ之レヲ炎症性瘰癧扶斯ト稱シ精神錯雜、感覺閉止及ヒ筋惕肉跳ノ如ク專ハラ神経系ノ症候ヲ呈スルモノハ之レヲ神經性瘰癧扶斯ト名ツケ又タ癡篤ナル虚態ヲ來タス所ノモノハ之レヲ虚脱性瘰癧扶斯ト號ス

往年愛爾蘭土國及ヒ印度地方ニ於テ流行シタルカ如ク暴激ナル流行時ニアリテハ患者總數中五分ノ一ハ鬼籍ニ登ルヘシ而シテ此調査ハ倫敦府ノ熱病醫院ニ於テ十四年間ノ死亡數ヲ計算シタルモノナリ

流行時ノ景況ニヨリテハ死亡數ノ多キヲ殆ント百分ノ四十二達スルコトアリ然リト雖モ僅少ナルモノハ唯タ百分ノ八ニ過キサコトアリ

是故ニ死亡數ノ多寡ハ持リ患者ノ體質ニ関スルノミナラス流行時ノ景況ニ因テ異ナルモノナリ

數多ノ統計ニ據テ平均シタル死亡數ハ百分ノ十五乃至二十ノ間ニアリ
男子ハ婦人ニ比スレハ不幸ニ陷ルモノ多ク又々年齡ニ就テ論スルハ小兒ニ於テ勤
ナク年齡ノ増加スルニ從テ斃ル、モノ多シトス

診 断

腸埴扶斯ト發疹埴扶斯トノ區別ヲ説明シタルモノハ大家「ストーク」氏ノ
所論ヲ以テ最モ明亮ナリトス

腸埴扶斯ニアリテハ前徵期ノ症候曖昧トシテ遷延スルヲ甚タシト雖氏發疹埴扶斯ニア
リテハ感覺閉止及ヒ精神錯誤ヲ將來スルヲ早ク且強劇ナルヲ常トス

腸埴扶斯ニアリテハ右腸管竈ニ於テ鼓脹及ヒ腹鳴ヲ發シ且下痢ヲ起スト雖氏發疹埴
扶斯ニ於テハ毫モ其徵候ヲ有スルヲナシ

發疹ニ於テハ腸埴扶斯ニアリテハ少數ノ蔷薇疹ヲ現出スト雖氏發疹埴扶斯ニアリテハ
紫斑狀ヲ呈シ其數頗フル多ク全身ニ布蔓スヘシ

時期ニ就テハ發疹埴扶斯ニシテ併發症ヲ有セサルハ大凡二週日ニシテ分利ノ轉歸ヲ
取ルト雖氏腸埴扶斯ニアリテハ熱症漸々減退シ殆ント四週日餘ヲ費ヤスヘシ

死體剖檢ニ於テハ腸埴扶斯ニアリテハ「ペール」氏腺及ヒ孤腺ノ變厚及ヒ壞爛ヲ起シ腸
間膜腺ノ腫脹及ヒ軟化ヲ見ルト雖氏發疹埴扶斯ニアリテハ毫モ其症徵ヲ見ルヲナシ

治 則

本症ニアリテハ腸埴扶斯ノ條下ニ於テ記シタル療法ヲ應用スヘシ唯々異

ナル所ハ虚脱ノ症狀ヲ呈スルヲ早キヲ以テ刺動劑ヲ投スルヲ速カナルヲ要スルノミ
病初ヨリ滋養易化ノ食品ヲ撰ヒ専ハラ牛乳、鶏卵、肉煮汁及ヒ少量ノ葡萄酒ヲ與ヒ衰弱
益々加ハルハ「ウヰスキ」酒若シクハ「ブランデー」酒ヲ代用スヘシ

本症ニアリテハ驅熱藥ヲ投シテ体温ヲシテ安全ノ度ニ止ラシムルヲ最モ緊要ナリ

驅熱法ハ腸埴扶斯ノ條下ニ於テ詳記シタル如ク冷浴、濕罨法、發汗及ヒ腎多利斯等
ヲ用フルニアリ

第二週ノ終ニ於テ分利ノ景況ヲ顯ハスハ驅熱法ヲ以テ誘導スルヲ最モ緊要ナリ否ラ
サレハ生活機能ノ交換ニ際シ生力ノ作用ヲ起サシムルヲ強劇ナルヲ以テ虚脱ニ陷ル
ノ恐レアリ

本症ハ判然觸摸傳染ノ証徵アルヲ以テ勉メテ患者ヲ隔離シ排泄物ハ消毒法ヲ施コシ速
カニ除却スルヲ最モ緊要タリ

○ 再 歸 熱

原 名 RELAPSING FEVER.
レラプシシグ フキーン

釋 義

本症ハ自折性急性傳染病ノ一種ナリ而シテ其正徴ハ大略一週日間持續スル所ノ熱症ヲ發作シ爾後四五日間全然間歇シ更ニ又タ同一ノ症候ヲ再發シ其時期ハ漸々減少スト雖氏順次反復スルモノニシテ再歸熱ノ名アル所以ナリ

原 因

再歸熱ハ烈然タル獨接傳染病ニシテ其感傳ノ景況ハ醫士「ジ、エス、バル」氏カ講述ニ於テ明ラカナルノミナラス流行時ニアリテハ常ニ其例証ヲ見ルヘシ本症ノ病源ハ流行地ノ人民ニ於テ攝生ニ注意スルヲナク汚穢ニシテ數人群居シ健康ヲ保持スルヲ願フル不良ナルルハ益々傳染ノ力ヲ逞フスヘシ是故ニ一地方ニ於テ多數ノ患者ヲ羣居セシメ其周圍ノ地ニ於テ衛生ニ注意セスシテ不健康ノ生活ヲ營ムルハ其猖獗ナルコト實ニ恐ルヘキモノアリ
患者ノ衣服ニ感染シタル病源ハ久シク獨接傳染ノ力ヲ失スルヲナク遠隔ノ地ニ輸送スルノ後健康ノ人ヲ襲フコトアリ
飲水中ニ汚染スルルハ其毒質ヲ蔓延セシムルコト最モ信據スルニ足レリ又タ一家内ニアリテ感傳スルコト頗フル迅速ニシテ一人之レニ罹ルヤ否ヤ直チニ傳染シ殆ント皆ナ

同時ニ感染スルカ如シ

年齡ニ於テハ幼年ノ人ヲ侵カスヲ多ク三十歳以上ノ壯者ニ至テハ其數ヲ減シ五十歳以後ニアリテハ殆ント發セサルニ似タリ

千八百七十三年ニ於テ「オベルミール」氏カ再歸熱患者ノ血中ニ微細ナル有機體ヲ發見シテ以來本症ノ病原ニ就テ精々精細ナル學說ヲ唱フルニ至レリ

本症ハ一タヒ之レニ罹ルモ免厄質トナルヲナキノミナラス次回ノ侵襲ニ逢フテ感染シ易キモノナリ

再歸熱ト發疹埃扶斯トハ頗フル親密ナル關係ヲ有スルモノナリ大家「レーベルト」氏カ實驗セシ患者五十三人ハ再歸熱ニ罹ルノ後二三週日ヨリ數月ノ間ニ於テ發疹埃扶斯ノ侵襲ニ遭遇セリ

當初再歸熱ノ流行セシハ愛爾蘭土國ナリト雖氏忽チニシテ英吉利西國ヨリ延ヒテ歐洲ノ大陸ニ蔓延シ又タ我米國ニ達セリ

我米國ニ於テ明瞭ナル流行ヲ證セシハ千八百五十年ニシテ新約兒克府「ヒラテルヒヤ」府其他ノ市街ニ流行セリ

本症ノ流行ハ四季ノ別ヲ問ハサルモノ、如シ

病理的解剖

再歸熱ニ依テ起ル所ノ變狀ハ一モ確微トナスヘキモノナシ然レトモ生前ニアリテハ血中ニ微細有機体ヲ檢出スヘシ
 大家「レーベルト」氏ハ脾肺其他ノ諸臟ヲ剖檢シタレモ檢出スル能ハサリシト云フ此有機体ハ第一回ノ發作時ト其再發時トニ於テ發生スト雖モ間歇時ニアリテハ消滅スルモノナリ而シテ其形狀ハ微細ナル線狀纖維ニシテ常ニ運動セリ「レーベルト」氏ノ說ニ其直径ハ「〇、〇〇一」「ミリメートル」ニノ縦徑ハ「〇、五」乃至「〇、二」「ミリメートル」ノ間ニアリ又其運動ハ頗フル活潑ニシテ捻轉スルカ如キ狀ヲ呈シ血液ノ凝結ト共ニ歐ムヘシ而シテ血漿中ニ含有スルモノハ一種ノ蛋白質ヨリ成ル所ノ顆粒狀体ノ内ニ潜伏セリ
 白血球ハ比例上増加スルモノ、如シ而シテ脾臟ハ甚タシク腫大ヲ起シ一部ハ硬變シ一部ハ軟化スルヲ見ルヘシ
 症ニヨリテハ脾臟ニ於テ帶黃褐色ノ粟粒狀凝集体ヲ生シ内ニ顆粒狀老廢物ヲ含ミ偶マ細胞元質及ヒ遊離核ヲ混スルヲアリ又タハ楔狀ノ出血梗塞ヲ見ルヲアリスノ如キ變狀ハ線狀有機体ノ聚合ニ依テ發生シタル血栓ヨリ起ルモノ、如シ
 肝臟ハ稍々腫大シテ葡萄酒核ハ蒼白色トナリ且混濁スルモノ多シ又タ脾臟ニ於ケルカ如キ

徵候

キ寄生物ノ沈着スルヲ說クモノアリト雖モ極メテ稀有ナルモノトス
 膽囊内ニハ多量ノ膽汁ヲ含有スヘシ
 腎臟モ亦タ肝臟及ヒ脾臟ノ如ク稍々腫脹シ皮質ハ血液ニ乏シク細尿管ニ於テハ顆粒体ノ浸淫ヲ起シ且暗赤色ヲ呈シ腫大スルヲ見ル
 腸管ニアリテハ「ペール」氏腺及ヒ孤腺ノ肥厚ヲ起シ腸間膜ニ於テモ亦タ然リ而レモ腸管扶斯ニ於テ見ル所ノ變狀ニ比スレハ實ニ僅微ナルモノトス
 偶々粘膜炎ノ諸處ニ微細ナル出血滲漏ヲ檢出スルコトアリ
 心臟ニアリテハ他ノ熱病ニ於ケルカ如ク筋組織ノ顆粒狀變質ヲ起シ又タ其他ノ部位ニ於テモ同一ノ症狀ヲ現ハスヲアリ
 潜伏期トハ當初病發ニ暴露シ或ヒハ之レヲ吸取シテヨリ本症ノ初徵ヲ呈スルニ至ルノ期ヲ云フ而シテ本症ニアリテハ大抵五日ヨリ七日ノ間ニアリ
 本症ニアリテハ真ノ前徵期ヲ有セサルモノトス既ニ其侵襲ヲ被ムルハ全身ノ違和ヲ覺エ頭顱及ヒ四肢ニ疼痛ヲ起シ不眠及ヒ食思欲乏ヲ將來スヘシ
 患者ノ大半ハ俄然熱症ヲ以テ起リ其他ハ戰慄ヲ以テ來ルモノトス然レモ判然タル寒戰ヲ發スルモノ極メテ少ナシトス

流行時ノ景況ニヨリ不整ナル戰慄ヲ發シ當初二三日間偶發性ノ脱汗ヲ將來シ殆ント間歇熱ニ類スルコトアリ

大數ノ患者ニアリテハ病初ヨリ高度ノ熱症ヲ發シ諸症候共ニ強劇ナルヲ常トス其他ハ二三日間劇症ヲ發スルヲナシ而シテ通常序熱ト共ニ惡心嘔吐ヲ將來スヘシ

病初道チニ虚脱セサルモノト雖モ暫時ニシテ非常ニ衰弱スルヲ見ルヘシ

熱症ハ弛張性ニシテ早晨ニアリテハ華氏百二三度ニ減シ日晡ニ達スルハ四百四五度ニ昇隆スヘシ脈搏ハ微弱ニシテ多クハ重復脈トナリ張力頗フル弱ク毎朝百十至ヲ數ヒタ景ニ於テハ百三十至トナル

舌体ニアリテハ厚苔ヲ被ムリ忽チニシテ乾燥シテ疼痛ヲ起シ且便秘スルヲ常トス

病初患者ノ最モ惣フル所ハ背部及ヒ四肢ノ疼痛ナリ而レモ暫時ニシテ全身ノ諸筋ニ波及シ撲ツカカク錐スカカク刺スカカキヲ覺エ運動或ヒハ壓迫ニ依テ増劇スヘシ而シテ其苦痛ハ腓腸部ニ於テ最モ強劇ナリ

全身諸部ノ筋痛増劇スルニ從テ病初因ルシミタル頭痛ハ稍々輕減スヘシ

第二日ニ達スルハ兩側ノ季肋下部ニ於テ壓重ノ感アリ殊ニ左側ニ於テ著ルシク肝臓及ヒ脾臓ニ充血ヲ起シ腫大スルヲ見ル特ニ脾臓ノ膨大スルコト甚タシク肋骨下ニ突隆

スヘシ

肝臓ノ濁音面モ亦タ甚タシク増大シ肋骨下縁ヨリ突出スルヲ數「インチ」ニ達スヘシ

當初肝臓ノ腫大ヲ始ムルノ期ハ第二日ニアリテ日ヲ逐フテ増大シ間歇時ニアリテハ減小スヘシ

腫大シタル諸器ハ特リ容積ヲ増加スルノミナラス壓痛ヲ起シ易ク且鈍痛ヲ感スヘシ

腹部ニアリテハ鼓脹、下痢、蓋蕪疹ノ如キ諸徵ヲ呈スルヲナク唯タ數日間嘔吐ヲ起シ其吐出物ハ帶綠色ノ酸敗液ヨリ成ル

毫モ譫語ヲ發スルヲナク夜間疼痛ニ苦ルシムト雖モ精神ノ錯亂ヲ起スヲナシ

尿中ニ蛋白質ヲ含ムト雖モ其他ノ成分ハ他ノ熱病ニ於テ見ル所ノモノト同一ナリ

多少發汗スト雖モ熱症ノ減少ヲ呈スルヲナク全身ノ皮膚熱灼スルヲ以テ手觸スレハ濕潤ナルカ如シ

熱症疼痛惡心嘔吐及ヒ肝脾ノ腫大ノ如キ諸徵ハ發作時ノ終リニ至ルマテ持續スヘシ

斯ノ如キ症狀ナルヲ以テ衰弱及ヒ羸瘦ヲ將來スルモ敢テ怪シムニ足ラサルナリ

患者ノ少數ニアリテハ第一ノ發作時ニ於テ黃疸ヲ發スルコトアリ

第一週ノ終リ即チ第五六日若シクハ第七日ニ達スルハ諸症候共ニ増進ノ極度ニ達シ

真ニ恐ルヘキ症状ヲ現ハスト雖ヒ俄然無熱トナリ同時ニ他ノ諸症候モ亦タ著ルシク輕減シ又タ腕汗ヲ將來シ体温減退シテ健態ノ度ヲ降リ朝夕ノ差ハ五六度トナル脈搏ノ如キモ亦タ最高度ヨリ俄然健態以下ニ減シ其他ノ諸症共ニ之レニ準スヘシ

患者頃カニ苦痛ヲ免レテ心神ノ幸福ヲ覺エ惡心去テ食思來リ腸ノ作用モ亦タ整復シ肝脾ノ腫大及ヒ鈍痛共ニ消滅シ黃疸ヲ發スルモノハ退消スルヲ見ルヘシ

舌体清潔トナリ夜間安眠ヲ妨クルヲナク全身ノ生力モ亦タ速カニ恢復スルヲ以テ暫時ニシテ病床ヲ離レントヲ望ムヘシ

患者益々快愈ニ趣クヲ以テ本症ノ病機ヲ詳知セサルハ更ニ又タ發作症ヲ將來センコトヲ恐ルコト最モ甚タシ

間歇時ハ一定ノ期ヲ有スルコトナク大抵四日乃至一週日ノ間ニアリト雖ヒ偶マニ週日ニ渉ルコトアリ是故ニ再發ノ症候ヲ將來スルマテ全然回復セサルモノナリ

午後、日晡若シクハ夜間ニ多ク俄然寒戰ノ感覺或ヒハ熱症ヲ以テ再歸症ヲ現發シ其症狀ハ第一回ノ發作時ニ異ナルコトナク唯タ少シク輕微ニシテ其時期モ亦タ短少ナルヲ常トス然リト雖ヒ疼痛惡心、嘔吐及ヒ肝脾ノ腫大スルカ如キ諸症候ハ毫モ異ナルコトナシ

熱症ハ弛張性ニシテ第一ノ發作時ニ比スレハ發汗後大ヒニ輕快ヲ覺ユルモノナリ故ニ

多少分利ノ作用ヲ有スルモノ、如シ

真ノ分利期ニ先タツコト一二日前稍々分利セントスルカ如キ景況ヲ現ハスコトアリ假令ハ發汗多量ニシテ体温モ亦タ著ルシク降下スト雖ヒ毫モ快復ノ効ナク再ヒ体温ノ昇騰スルコトアルカ如シ

最後ノ減熱期ハ第三日ヨリ第五日ノ間ニアリテ多クハ夜間ニ當リ腕汗スルコト甚タシク体温及ヒ脈搏共ニ健態以下ニ降ルヘシ

偶マ第七日ニ至ルマテ分利機ノ遷延スルヲ見ルコトアリト雖ヒ殆ント例外ニ屬スヘシ

流行時ノ景況ニヨリ第二回、第三回、若シクハ第四回、ニ至ルマテ反復スルコトアリ而シテ每發作時ノ症候ハ皆ナ同一ナリト雖ヒ發作時ノ度數ヲ反復スル毎ニ益々虛脱スルヲ見ルヘシ

經過時期及轉歸

普通ノ症ニ於テ現ハル、所ノ全經過ハ數回ノ反復ヲ將來スルニアラサレハ三週日以内ニシテ終ハルモノナリ

再歸熱ノ末期ニ達スルハ患者自ツカラ快愈ヲ覺ユト雖ヒ羸瘦及ヒ虛脱ヲ致スコト最モ甚タシ其症候タルヤ貧血ノ狀著ルシク多少關節節ノ浮腫ヲ起シ眼瞼モ亦タ腫脹スルカ如ク結膜ハ白色ニシテ瑱珠ノ光澤ニ類スヘシ

恢復ノ機ハ頗フル緩慢ナルモノトス而シテ其遲速ハ專ハラ發作症ノ劇易ト反復ノ度數トニ関スルモノナリ

年齡ハ本症ノ經過ニ於テ感動ヲ起スモノ、如シ假令ヘハ十二歳以下ノ小兒ニアリテハ其經過短小ナルノミナラス諸症共ニ輕易ナルモノ多シ是レ即チ大家「パーリー」氏カ發見セシ所ナリ

又タ流行時ノ景況ニ依テ其時期及ヒ輕重ノ度ニ於テ差異アルモノトス

普通ノ轉歸ハ佳良ナルモノトス而シテ死亡ノ數ハ百分ノ二三ニ過キス

併發症ハ本症ノ轉歸ニ於テ重要ナル感動ヲ有スルモノナリ

偶マ氣管支炎、加多兒性肺炎及ヒ腹膜炎ヲ將來スルヲアリ又タ喉頭炎ヲ發スルキハ氣管截開術ヲ施サ、ルヘカラス

分利期ニ際シ出血ヲ將來スルヲアリ殊ニ衄血及ヒ三角筋ノ局處麻痺ヲ發スルコト多シ

又タ流行時ニヨリテハ脱汗ニ依テ分利セスシテ下痢ヲ起スヲアリ此時ニアリテハ不幸ノ轉歸ヲ取ルモノ多シ

妊娠中本症ニ罹ルキハ墮胎スルモノ多キヲ以テ最モ危險ナル併發症ト微見サ、ルヘカラス又タ既ニ分利ニ際シ微知スヘキ理由ナクシテ危篤ナル卒倒ヲ起スヲアリ

此期ニ於テ非常ノ劇變ヲ發スルキハ既ニ虛衰シタル心臟ニ於テ強劇ナル緊張ヲ起サシムルヲアリ

熱症退消スルノ後ニ至ルモ尚ホ肝臟及ヒ脾臟ノ變狀持續スルキハ亦タ繼發症ト見做シテ治術ヲ施サ、ルヘカラス

流行時ニヨリテハ眼炎ノ一症モ亦タ繼發症ノ部類ニ算入セサルヘカラス

治則

本症ノ療法ハ專ハラ對機療法ニ過キサルナリ

吾人ハ未タ血中ニ發生シタル線狀微菌ノ發育ヲ制止スヘキ藥品ヲ發明セサルナリ加之ノミナラス如何ノ方法ニ依テ血中ニ侵入スルヤ又タ何ノ處ヨリ來レルヤ証明スルヲ能ハサルナリ

熱症ヲ治スルニハ駈熱劑ヲ使用スト雖モ其効驗ハ唯タ發作時間ヲ短縮セシムルノ目的ニアリ予ハ獨逸國ノ大家「レース」氏ノ說ヲ信用セリ同氏ハ「サルシール」酸曹達ヲ投スルキハ体温ヲ減スルノミナラス二三日間大量ヲ使用スルキハ諸症候ヲ輕減シ再發ヲ豫防スルノ効アリト云フ

劇痛ヲ鎮靜スルニハ莫爾比涅ノ皮下注射及ヒ温罨法ヲ最良トス

本症ニアリテハ阿片劑ノ内用ハ効力最モ渺ナシ又惡心ヲ起スキハ石炭酸半氏(〇〇三)ガラム

ヲ老利兒水ニ滴加シテ與フヘシ
 熱症ノ發作時ニ於テ絲狀微菌ノ發生夥多ニシテ間歇時ニ至リ消滅スルキハ駐留藥ノ効
 カニアルコトヲ論スルモノ鮮ナカラス然リト雖氏幾尼涅ノ如キ全ク無効ナルモノ多シ硫
 酸塩類ヲ多服セシメ病室内ニ亞硫酸氫斯ヲ發生セシムルノ方ヲ怠ルヘカラス
 分利期ニ際シ卒倒ヲ豫防スルカ爲メニ時々亞兒個爾性ノ衝動劑ヲ用フヘシ間歇時ニ達
 スルキハ更ニ絲狀微菌ノ發生ヲ起スカ如キ想像ヲ懷クモノ多キヲ以テ之レヲ制止スル
 ノ方法ヲ發見スルコト最モ緊要ナリ
 血液ノ成分ヲ整復シ脾臟ノ腫大ヲ減スルニハ適宜ノ榮養物ヲ攝リ鉄劑及ヒ強壯藥ヲ與
 フヘシ又タ白血球ノ過剩ヲ防カント欲セハ幾尼涅及ヒ麥奴克ヲ投セサルヘカラス其他
 絲狀微菌ノ新生ヲ制止スルニハ硫酸塩類及ヒ他ノ駐留藥ヲ處スヘシ

○發黃熱

原 エルロー
名 YELLOW FEVER. フギーブ

釋義

發黃熱ハ急性傳染病ノ一種ニシテ北緯四十八度以南ノ地ヲ限リ四季共ニ華
 氏七十度ヲ降ラサル温度ヲ保ツニアラサレハ發スルコトナシ海濱ニアリテハ風土病トナ
 リテ米リ又タ散在性トナリテ現ハル、モノハ海面ヲ去ルコト二千五百尺以下ノ地ニアラ
 サレハ病毒微菌ヲ輸入スルコト能ハサルノミナラス地位ノ景況ニヨリテ其發育ヲ扶ケサ
 ルヘカラス

原因

予ハ左ニ演フル所ノ管跡アルヲ以テ無用ノ辨ヲ要セサルモノト信認セリ
 予カ自宅ニ於テ治療セシ患者ハ「ミシシツピ」ノ溪間(北米英領ノ地)ニ發病セシモノナ
 リ又「シンシンナツチ」(合衆國ノ一市街)ニ於テ遭遇セシ患者ハ皆ナ南方ノ流行地殊ニ「メン
 ヒス」(全上)ヨリ米タリシモノナリ
 本症ヲ發生スルニハ必ラス体外ヨリ特異ノ微種即チ病毒ノ輸入ヲ仰カサルヘカラサル
 モノ、如シ而シテ其微種ノ發育ヲ起サシムルニハ地位ノ景況ト患者ノ體質トヲ擇ハサ
 ルヘカラス

本症ノ病毒ハ固有ノ占居ヲ有シ必要ナル景況(即誘因)ニ遭フキハ特發スルモノナルヤ
 否ヤヲ討究スルノ緊要ヲ覺エサルナリ

吾人ハ未タ病毒元質ノ本性形状及ヒ造構ノ如何ヲ詳知スルヲ能ハサルナリ最モ近今ノ
 講究ニ係ルモノト雖モ其成績ハ上文ニ擧ケル所ノモノニ過キサルナリ
 四季共ニ大凡七十二度ノ温度ヲ有スルモ其活機ヲ保有スヘク氷結ノ沍寒ニ逢フモハ
 滅殺セラル、ニ足ルカ如キハ吾人共ニ認知セル所ナリ
 縱令ヒ沍寒ニアラサルモ毒質ノ活機ヲ保有スルヲ能ハサル所ノ冷氣ニ觸ル、モハ必ラ
 ス毒質ノ死廢ヲ増加スヘシ
 發黃熱ハ當初海濱ニ面スル所ノ市街ニ發生シ尋テ運河若シクハ鐵道ニ依テ直接ノ交通
 ヲ有スルノ都會若シクハ村落ニ蔓延スヘシ是故ニ地位ニヨリ傳染シタル海濱ノ街市ト
 接スル所ノ都會若シクハ村落ニアリテハ直チニ交通ヲ遮斷スルモハ流行ヲ免ル、ヲ得
 ヘシ然リト雖モ一市街ヨリ他ノ地方ニ傳染スルハ同一ノ流行地ニ於ケル人民ノ間ニア
 リテ甲者ヨリ乙者ニ傳播スルカ如ク駁速ナルモノニアラサルナリ
 總テ動植物ノ分解ヨリ成ル所ノ汚穢物、不潔ナル暗渠、多人ノ群居其他衛生ニ背戾セル
 有害ノ事物ハ皆ナ病毒ノ活機ヲ熾カンナラシムルニ足ルヘシ
 是故ニ流行ニ適スヘキ地ニシテ大氣ノ不潔ナル客舎ニ宿泊スルモハ病毒ノ發育ヲ促カ
 シ終ニ其人ヲ侵襲スヘシ而ル後此地ヲ去ルモハ之レヲ他ノ地方ニ輸送スヘシ

病毒ノ發育ヲ補クル所ノ最モ適當ナル地ハ船舶ヲ以テ第一トス之レニ次クモノハ大河
 ノ下流ニシテ將サニ海中ニ注カントスルノ地ニシテ毎年洪水アリテ健康ヲ害スヘキ不
 潔物ノ蓄積ヲ致ス所ノ市街ナリ
 時季ヲ以テ論スルモハ七月八月九月ノ一季ヲ以テ最モ流行ヲ促カスノ期トナセリ
 既ニ病毒ノ輸入ヲ致シ其地ノ景況能ク發生ニ適スト雖モ住民ハ皆ナ悉トク發黃熱ノ爲
 メニ襲ハル、モノニアラサルナリ故ニ人々各自ノ體質ニ因テ其病毒ヲ感受スヘキモノ
 ト否ラサルモノトノ差アルカ如シ
 人種ハ最モ明亮ナル感動ヲ有スルモノナリ故ニ黑人種ニシテ流行地外ニ住居セサリシ
 モノ又タハ旅行スルモ流行前ニ歸ルモノハ其傳染ヲ被ムルヲナシ
 黑人種ト雖モ白色人ト婚姻シテ漸々雜種ノ子孫ヲ設クルモハ免危質ヲ消滅スヘシ白色
 人種ハ感受性最モ強ク一タヒ流行地ニ住居シ去テ後チ久シキヲ經ルニ尚ホ襲ハル、ヲ
 アリ然リト雖モ久シク流行地ニ住ミ殊ニ流行時ニ遭遇シテ其侵襲ヲ避ケ又タハ一タヒ
 之レニ罹ルモハ免危質トナルヘシ更ニ再ヒ流行地外ニ出テ、時ヲ經ルモハ其素質ヲ變
 シテ侵カサル、ヲ多シ斯ノ如ク流行地ニ永住シ却テ病毒ノ感染ヲ免ル、ニ至ルノ狀ヲ
 指シテ吾人ハ之レヲ風土ノ馴習ト云フ

本症ハ傳染ノカアリト雖ヒ觸接ニ因テ感傳スルモノニアラス即チ甲ノ患者ヨリシテ直チニ乙人ニ傳染スルヲナク衣服蓐衣其他ノ毛布類ニ浸潤シテ以テ他人ヲ襲フモノナリ是故ニ檢疫所ヲ設クルノ趣旨ハ病者ヲ檢査センヨリハ寧ロ衣類及ヒ器具ヲ速サクルヲ以テ緊要ナリトス

同一ノ人種ニアリテモ人々各自天稟ノ素質ニ於テ感受力ヲ有スルモノト否ラサルモノトノ差異アリ又タ上記ノ如ク病毒ノ蔓延ヲシテ遲速ヲ生スルノ理由アルノミナラス人氏ノ風俗及ヒ慣習モ亦タ幾分ノ感動ヲ有スルモノト見做サ、ルヘカラス
飲酒及ヒ房事ノ過度ハ毒質ノ感染ヲ促カシ既ニ感染シタルモノニアリテハ体内ノ毒質ヲシテ其作用ヲ活潑ナラシムヘシ

諸般ノ精神ヲ抑壓スル所ノ感動殊ニ恐駭ノ如キハ最モ不良ナリ

病理的解剖

身体ニ於テ甚タシキ衰耗ヲ現ハスヲナク死後ノ強直モ亦タ判然タルモノ多シ皮膚黄色ヲ呈スルモノニヨリテ輕重ノ差アリ然レモ全ク軟如スルヲナシ又タ出血滲漏、膜下溢血水泡疹ヲ現出シ刺激性ノ外用藥ヲ貼シタル部ニアリテハ壞疽狀ノ膿疱ヲ起スヘシ

硬腦膜ハ屢マ黄色ヲ呈シ竇内膨滿シ軟腦膜ノ脈管破綻シテ偶マ蜘蛛網膜下腔ニ出血ヲ

起シ或ヒハ血漿ヲ見ル大脳ハ健態ヲ失ハス諸室内ニハ少量ノ漿液若シクハ血漿ヲ含ミ脊椎ニアリテモ亦タ同一ノ變狀ヲ呈スト雖ヒ炎症ノ証徴ヲ見ルヲナシ而レモ特リ腰椎及ヒ薦骨部ニアリテハ脊髓蜘蛛膜ノ炎症ヲ現出スヘシ
米國ノ大家「スクミドト」氏ハ腹腔及ヒ肝臟神經叢ニ於テ神經鞘ノ炎症ヲ起スモノトナセリ

肺臟ニアリテハ通常下垂充血ヲ起シ氣管支粘膜ニ於テハ虚性充血ノ狀ヲ呈スルヲアリ心嚢内ニハ多少ノ漿液ヲ滲出シ血液ヲ混スルモノ鮮ナシ偶マ心内膜及ヒ心嚢若シクハ心臓ノ外面ニ於テ紫斑ヲ見ルヲアリ心臓ノ筋纖維ハ屢々顆粒狀變質ヲ起スヘシ

血液ノ成分ニ於テ種々ノ變狀ヲ檢出スルヲアリト雖ヒ一モ本症ノ特徴ト見做スヘキモノナシ故ニ「ヒテルヒヤ」府ノ醫士「ゼー、ジー、リチヤードソン」氏ハ血中ニ於テ一種特異ノ「バクテリウム」ヲ發見シ之レヲ「バクテリウムサンガイニス」(血中微菌ノ義)ト稱セリ

然レモ數多ノ有名ナル試檢家ハ之レヲ確實ナルモノト認定スヘキ証憑ヲ得スト云フ
大家「スクミドト」氏ハ赤血球ノ鋸齒狀ヲ呈スルヲ速カナリト雖ヒ此變狀ハ特ニ本症ニ於テ固有スルモノニアラスシテ普通ノ退却變化ニ基因スルモノト想定セリ
白血球ニ於テハ毫モ變狀ヲ起スヲナク只タ其數ノ稍々増加スルカ如キヲ見ルノミ

發黃熱ノ特徴ト見做スヘキ變狀ハ肝臟及ヒ腹腔内諸器ニ於テ見ル所ノモノナリ
 哉米國及ヒ葡蜀牙國首府「リスボン」ニ於テ流行シタルモノニアリテハ肝臟ノ變狀最モ
 著ルシク外面帶黃褐色トナリ肝ノ全面ニ涉リ處々ニ一層濃厚ナル斑點ヲ現出ス
 肝臟實質ニアリテハ脂肪浸潤ヲ起シ肝細胞ノ脂肪變質ヲ將來スヘシ又タ病機増進シタ
 ルモノニ於テハ全然肝細胞ノ形体ヲ失シテ脂肪細胞及ヒ顆粒ヨリ成ル所ノ凝塊ニ變ス
 ヘシ又タ尿管ノ徑路ニ沿フ所ノ細胞ニアリテハ血液及ヒ膽汁色素ノ爲メニ多少變色ス
 ルヲ見ルヘシ
 胃ニ分布スル靜脈管ニ於テハ膨大ヲ起シ或ヒハ其一部ヲ限局スルアリ或ヒハ全部ニ涉
 ルヲアリ一局部ヲ限ルモノハ貴門(即チ胃上口)ヲ侵カスモノ多シ
 症ニヨリテハ紫斑、膜下溢血、點狀充血及尿管ノ膨大ヲ起スヲアリ 上皮細胞ハ健態ヲ失
 スルヲナシ偶マ胃中ニ於テ暗褐色ニ恰カモ珈琲ニ類スル所ノ液体ヲ見ルヲアリ吐逆
 物ハ血液ト上皮ヨリ成ルモノ多シ内ニ「トルラセレウ非サイ」ト稱スル酸酵素ノ成育シ
 タルモノヲ抽出スルヲアリ
 小腸ノ粘膜モ亦タ胃ニ於ケルカ如キ甚タシキ充血ヲ起スヘシ
 脾臟ニアリテハ特異ノ變狀ヲ呈スルヲナシ

腎臟ニ於ケル變狀ハ充血スルコト最モ強激ニシテ細尿管ノ上皮ハ顆粒變質ヲ起シ終ニ
 虛尿管及ヒ尿管ニ波及スヘシ而シテ死ニ至ルマテ充分時日ヲ費ヤシタルモノニアリ
 テハ其變狀ハ更ニ脂化スルヲ見ルヘシ
 尿液ニ於テハ重要ナル變化ヲ起スモノナリ當初尿酸及ヒ尿素共ニ減少シ末期ニ至ルキ
 ハ全ク消滅シテ更ニ「リウシン」及ヒ「チーロシン」(二種ニ唾液及ヒ尿液ノ成分)ヲ現出シ又初期ニ
 アリテハ蛋白質ノ痕跡ヲ含ミ時ヲ經ルニ從テ増量スヘシ
 尿色ヲ檢スルニ血色素及ヒ膽汁色素ヲ混スルカ爲メニ濃厚トナリ且粘膠ノ性ヲ有スル
 モノナリ是レ即チ獨逸人「ウ非デルレツト」氏カ發明セシ所ナリ

徵候

第一期 潜伏期ハ即チ病發後ニ暴觸シテ体内ニ感染スルノ期ニシテ
 大抵一日ヨリ三日ノ間ニアリ然レハ破格ノ症ヲ算入スルキハ殆ント限リナキカ如シ
 本症ハ發病ニ當テ二般ノ症狀ヲ呈スルモノナリ一ハ前徵期ヲ以テ發症スルモノニシテ
 一ハ卒然ニ暴發スルモノナリ之レヲ徐發性及ヒ頓發性ト稱ス
 患者ノ大數ハ徐發性ニシテ病發ヲ感受スルヤ直チニ食思飲乏、虛憊、頭痛、筋痛ノ如キ諸
 症候ヲ呈シ二三日間持續スルノ後一回ノ寒戰若シクハ戰慄ニ尋テ熱症ヲ發スヘシ
 頓發性ノモノハ頗フル健康ニシテ歩行ノ際又タハ職業ニ從事スルノ間若シクハ睡眠中

突然寒戦ヲ起シ或ヒハ強直ヲ發シ忽チニシテ熱症ヲ將來スヘシ
 近今流行時ニ於テ見ル所ノ稀有ノ一症ハ強健ナル人ニ於テ卒カニ背部ニ巨大ナル鉄槌
 ヲ以テ打撲セラル、カ如キ感覺アリテ直チニ虚衰ノ狀ニ陥リ二三時間ヲ經サルニ生
 カ沈衰ニ因テ倒ル、キハ再ヒ起ツテ能ハス吾人ハ此症ヲ指シテ槌打病ト云フ
 流行時ニアリテハ危篤ナル血毒ノ症狀ヲ呈シ忽チニシテ生カ沈衰ニ因テ斃ル、モノヲ
 見ルヘシ
 爰ニ普通ノ症ニ於テ現ハル、所ノ經過ヲ述フレハ熱症ノ昇騰スルヲ頗フル急激ニシテ
 第一日若シクハ第二日ノ日晡ニ於テ華氏百三度ヨリ百五度ニ至ルヘシ
 合衆國ノ陸軍醫官「ジョージ・エム・スタルンバーグ」氏ノ實驗表ヲ見ルニ患者ノ總數ニ
 十六名中十六人ハ第一日ニ於テ極期ニ達シ十人ハ第二日ニ至リ極期ニ達セリト云フ
 病初ニアリテハ甚タシキ違和ヲ覺エ患者毫モ心身ヲ安ニスルヲ能ハス故ニ面貌慘憺ト
 シテ憂フルカ如ク又タ赤色ニシテ怒ルカ如シ眼球濕潤シテ光澤アリ結膜ニ充血ヲ起ス
 一甚タシ頭痛強劇ニシテ顛顛部ニ搏動ヲ起シ全身ノ諸筋悉トク疼痛ヲ發セサルノ部ナ
 ク殊ニ背腰部ニ於テ最モ烈シク其惡症ナルモノハ即チ槌打病ナリ
 病初若シクハ發病前一種ノ異臭ヲ嗅クヲアリ世人ハ多ク發黃熱ノ特徵トナセリ

此異臭ハ殆ント屍体ヲ嗅クニ似タリト云フモノアリ然レモ予カ實驗スル所ヲ以テスレ
 ハ必ラスシモ屍体ノ臭ト同一ナルモノニアラサルナリ
 舌上白色ノ厚苔ヲ被ムリ尖端及ヒ邊緣共ニ赤色トナリ乳齶体ハ腫脹シテ表面ニ突隆ス
 ヘシ又タ口蓋ノ粘膜面ハ赤色ニシテ浮腫狀ヲ呈ス
 胃ハ病初ヨリ刺衝ヲ起シ上腹部ヲ按壓スレハ疼痛ヲ感シ冷飲ヲ好ムト雖モ疼痛ヲ起シ
 忽チニシテ吐逆スヘシ又タ何ノ食物ヲ與フルモ胃ニ受容スルヲ能ハサルナリ
 偶々下痢ヲ起スヲアリト雖モ多クハ便秘ニ苦シムルモノナリ
 初起ニ於ケル吐逆物ハ暗褐色ニシテ食物ノ阻滯シタルモノ粘液膽汁及ヒ纖毛上皮ヨリ
 成ル大便ハ灰白色ノ泥軟塊ニシテ秘結スルヲ多シ
 尿液ハ其量ヲ減シ濃厚ニシテ蛋白質ノ痕跡ヲ見ルヘシ
 脈搏ハ症ニヨリテハ強實ニシテ張力ヲ有シ疾數ナルアリ或ヒハ微弱ニシテ重役脈トナ
 リ其數ハ大抵九十至ヨリ百二十至ノ間ニアリ
 体温ノ極度ハ多ク第二日ニアリテ爾後漸々消散ノ機ヲ起シ第四日ニ至テ弛緩シ始メテ
 第一期ヲ終ハルモノナリ
 最モ輕症ナルキハ第二日ニ於テ弛緩シ又第六日以上ニ渉ルヲアリ

体温ノ最高度ニ達スルノ際及ヒ第一期中ニアリテハ上記ノ諸徴ヲ呈スルノミナラス強
劇ナル譫語ヲ發シ苦悶スルヲ甚クシク患者病態ニ靜卧スルヲ能ハス殆ント沈飲譫妄ニ
類シ頗フル惚忙ニシテ戰慄スルカ如キ強カナルモノ多シ

此期ニ於テ黃疸ノ色澤ヲ現ハシ尿中ニ膽汁色素ヲ含ミ大便ハ灰白色トナルヲアリ又タ
靛血、齒齦出血若シクハ胃出血ヲ將來スルヲアリ然リト雖モ劇症ニアリテハ出血ヲ起ス
ト早ク且不良ノ前徴タリ

第二期 第一期ノ終ニ達スルトキハ体温減退シテ全然間歇時ノ症狀ヲ呈スヘシ大家
「ステルン、ベルグ」氏ノ統計ニ據レハ全然間歇ノ狀ヲ呈スルハ第三日ノ早晨ニアリト
云フ其他ノ諸大家ニシテ「ヘーニス」氏ノ如キハ患者ノ大數ニアリテハ全然間歇スルヲ
ナク唯タ弛期ヲ徴スルニ過キサレモノトナセリ

体温ノ減退ト共ニ他ノ諸症候モ亦大ヒニ輕快スルヲ覺ユヘシ縱令ヘハ譫語止ミ疼痛鎮
靜シ胃ノ作用モ亦タ整復シ且ツ排泄ノ機能ヲ起シ發汗及ヒ通利ヲ來タシ或ヒハ靛血ヲ
見ルヲアリ爰ニ於テ始メテ豫后ノ佳良ヲトスヘシ

又タ症ニヨリテハ譫語歇ムヲナク胃ノ刺衝益々甚クシク尿中ニ蛋白質ヲ混スルヲアリ
脈搏微弱トナリ曰ヲ遂フテ險惡ノ狀ヲ呈スルヲアリ

第三期 弛緩ノ症候退消シ再ヒ体温ノ昇騰ヲ起スト雖モ第一期ノ如ク急劇ナラス大
凡ソ二日ヲ經テ体温ノ最高度ニ達スヘシ即チ華氏百四度ノ前後ニアリ

強劇ナル譫語ヲ發シテ頑固ニシテ輕減セサルハ患者自ツカラ其身ヲ處スルヲ能ハス
飲食ヲ嫌忌シ脛部ノ諸筋ニ強劇ナル痙攣ヲ起シ黃疸ノ症候ヲ増劇シ黑色ナル凝塊ヲ吐
逆シ橈骨動脈ノ搏動微弱トナリ精神錯誤ノ症狀ヲ呈スルノ際俄カニ死ニ瀕スヘシ
患者ノ大數ニアリテハ神識ノ昏忘ヲ來スヲナク其行爲ニ於テハ無情ニシテ是非ノ判斷
ニ関セサルモノ、如シ

生力ノ虚脱スルヲ甚クシク脈搏不整ニシテ細數微弱ナルモノ多シ既ニ此機ニ達スルハ
ハ黃疸ノ正徴タル深黄色ヲ失シテ帶褐赤色トナリ殆ント朱檀ノ色澤ニ類シ諸部ノ粘膜
或ヒハ表皮ヨリ出血ヲ起シ又靛血、胃出血及ヒ下血ヲ將來シ排泄物ノ量ヲ減スヘシ
齒齦軟化シテ海綿狀トナリ指觸スレハ忽チ出血シ又タ偶々耳部ノ出血ヲ起スヲアリ
最モ明亮ナル正徴ハ胃中ニ出血ヲ起シ渚溜スルノ際其性状ヲ變シテ黑色トナリテ吐出
スルヲ見ルヘシ

第一期ニアリテモ吐出物中ニ帶褐赤色ナル血液ノ變性ヲ混スルコトアリ然レモ帶褐黑
色ニシテ所謂咖啡狀物ナルモノハ第二期若シクハ第三期ニ至ルマテ現ハル、トナシ

尿液ハ其量ヲ減シ尿素ヲ含ムナク血色素ハ頗フル多キノミナラス蛋白質ノ量ヲ増加シ症ニヨリテハ暫時ニシテ全然虚脱スルヲアリスノ如キ症ニアリテハ精神恍惚トシテ感覺閉止シ終ニ昏睡ニ陥ルモノナリ

又タ尿血症ヲ將來スルモノニアリテハ局處ノ摘掣呢逆及ヒ「チエーン、ストーク」氏ノ呼吸（將サニ死ニ瀕スルノ際發ス）ヲ發スヘシ

体温稍々減殺シ既ニ末期ニ迫ルルハ華氏百度トナリ又タ最モ奇トスヘキハ橈骨動脈ノ搏動及ヒ呼吸共ニ斷絶スルノ後尚ホ心臟ノ作用持續スルニアリ

第三期ニ於テ佳良ノ轉歸ヲ取ルモノニアリテハ俄然体温減退シテ健態ノ度ニ達シ患者忽チニシテ快癒ヲ覺ユヘシ

嘔吐鎮靜シテ少量ノ食品ヲ攝リ腎臟ノ機能及ヒ血液ノ循環モ亦タ整復シ漸々恢復ノ機ヲ起スヘシ

經過時期及轉歸

本症ニ於テ現ハル、所ノ症候數種アリテ各々章ヲ分チテ論スルヲ穩當ナリトス然レハ繁雜ニ渉ルノ恐レアルヲ以テ予ハ大家「ライヨン」氏ノ說ニ據リ左ノ五種ニ分テリ第一寒性、第二亢進性、第三出血性、第四紫斑性、第五埤扶斯性是レナリ

紫斑性、黃熱ハ出血性ノ變症タルニ過キサリナリ故ニ此一症ヲ除クキハ臨床實驗ニ於テ目撃スルモノ四種トス

寒性黃熱ハ体力減衰若シクハ悲哀ニ依テ衰弱シタルモノニ於テ發スルヲ多ク其症徵タルヤ表皮厥冷シテ顔面蒼白色ヲ呈シ四肢寒冷シテ萎縮ヲ起シ皮膚ニ於テハ處々ニ紫斑ヲ現出シ脈搏細少微弱ニシテ体温腋下ニ於テ華氏九十六度ヲ有スヘシ斯ノ如キ諸徵ハ特リ初起ニ於テ現ハル、ノミナラス末期ニ至ルマテ持續スヘシ

又タ病初ニ於テ黑色ノ吐逆物ヲ將來シ諸部ノ粘膜面ヨリ出血スルヲ見ル

亢進性黃熱ハ前症トハ全ク反對ナルモノニシテ平素強健ニシテ壯年ノ人ヲ侵カスヲ多ク其正徵ハ劇熱、劇頭痛及ヒ腰痛ヲ發シ強カノ譫語及ヒ黃疸ヲ現出スルニアリ而シテ黑色ノ吐逆物ヲ發スルヲ少ナシ

出血性黃熱ハ全身ノ諸部ニ於テ夥多ノ出血点ヲ現出シ且排泄物中ニ血液ヲ含有スルヲ以テ特徴トス假令ヘハ黑色ノ吐逆物ヲ發シ腸出血、血尿及ヒ腎出血ヲ將來シ同時ニ眼球、鼻竇、耳部及ヒ口内ヨリ出血シ又タ皮膚ニ搔傷ヲ被ムルモノ忽チ出血スルカ如シ

埤扶斯性黃熱ハ黃熱ノ正徵ヲ呈スルノミナラス更ニ埤扶斯ノ症候ヲ併發スルモノナリ假令ヘハ感覺閉止、虚脱、眼球滲血、仰臥及ヒ嘔々獨語ノ如キ症候ヲ呈シ面貌慘澹トシテ

黄熱ノ諸徴ヲ併發スルカ如シ

死亡ノ多寡ハ流行時ノ景況、土地ノ高低及ヒ黄熱ノ種類ニ依テ異ナルモノトス統計上ノ検査ニ據レハ死亡ノ多キハ百分ノ八十トナリ寡キハ百分ノ十五ニ過キスト云フ又タ婦人及ヒ小兒ニ比ヒレハ男子ニ於テ不幸ノ轉歸ヲ取ルモノ多シ
平素ノ慣習モ亦タ大ヒニ豫后ノ良否ヲ起スモノナリ故ニ酒客ハ最モ不幸ニ陷ルコト多キヲ見ルヘシ

生カヲ抑壓スル所ノ諸徴ノ景況モ亦タ本症ノ病機ヲシテ強劇ナラシムヘシ
初起ニ黒色ノ吐逆物ヲ將來シ尿閉ヲ起スモノハ不良ノ徴ナリ

診 断

屢々本症ト誤認シ易キモノハ間歇熱ニシテ黄疽ヲ併發スル所ノ一症ナリ
發黄熱ニアリテハ黒色ノ吐逆物ヲ將來シ且体温ノ昇降スルヲ著ルシカラス

間歇熱ニアリテハ毎日一回或ヒハ隔日ニ發熱ノ症ヲ呈シ昔熱ノ初期ノ如ク持續スルヲナク又タ黒色ノ吐出物ヲ見ルヲナシ加之ノミナラス癡尼涅ノ大量ヲ投スルハ忽チ頓挫スルヲ得ヘシ

間歇熱ハ流行ノ力強大ニシテ黄熱ニ比スレハ蔓延スルヲ速ヤカナリ

黄熱ハ釋義ノ條下ニ記載スルカ如ク流行ノ地ヲ限ルモノナリ

治 則

本症ノ治法ハ先ツ承瀉ヲ以テ始ムルハ良蹟ヲ修ムベシ

第一日ニ於テ甘黍半匁(〇、〇三)ガラム(ガラム)死二三回反復シ尋テ微温湯ノ灌腸ヲ命スヘシ

胃ノ刺衝ヲ起スノ恐レアルヲ以テ峻下瀉ハ皆チ禁忌セサルヲ得ス

背及ヒ腰部ノ疼痛強劇ナルハ莫爾比涅十二分ノ一匁(〇、〇〇五)ガラム(ガラム)ヲ皮下ニ注射シ時宜

ニヨリテ反復スルモ妨ケナシ

胃ノ刺衝甚ダシキハ之レヲ鎮靜スルノ方法ニ般アリ一ハ石炭酸四分ノ一滴ヲ少量ノ薄荷水ニ滴加シテ毎二時ニ内服セシムルニアリ又ターハ石灰水及ヒ牛乳各一食匕ヲ混和シテ毎二時ニ與フルニアリ或ヒハ此ニ法ヲ交互變換シテ用フルモ可ナリ

氷片ヲ口内ニ含ミ未タ溶解セサルニ當テ嚙下セシムルヲアリト雖胃ノ緊滿ヲ致スノ恐レアルヲ以テ最モ注意セサルヘカラス

胃部ニ鈍痛ヲ起スハ芥子泥ヲ貼シ患者ノ體質強健ニシテ所謂亢進性ノ症狀ヲ現ハスハ水蛭或ヒハ吸角ヲ用フヘシ

第二期ニアリテハ胃ノ刺衝ヲ起シ且ツ煩渴スルハ少量ノ「シヤンパン」酒ニ依テ大ヒニ輕快スルヲアリ又タ鎮靜瀉トシテ胃酸殊ニ「コロ、ダイン」ヲ投スルハ良効アリ
熱症高度ニ達シ皮膚熱灼スルハ温湯ニ醃シタル布片ヲ以テ被包スルヲ良トス或ヒハ

一日數回皮膚ニ脂肪ヲ塗り海綿ヲ以テ摩擦スルモ可ナリ
 偶々發熱ニ至ルニハ(一、二五)ガラムヲ頓服セシメ体温ノ減少スルヲ見ルヲアリト雖モ胃ヲ刺衝
 スルノ恐レアルヲ以テ直腸ヨリ注入スヘシ
 譫語及ヒ頑固ノ不眠症ヲ將來スルハ莫爾比涅及ヒ亞篤比涅ノ合劑ヲ皮下ニ注射スル
 フ良トス

強劑ナル譫語ヲ發シ患者安靜ナルヲ能ハサルトキハ催眠及ヒ鎮靜ノ効ヲ得ンカ爲メニ
 「ヂュボイシヤ」(DUBOISIA)ヲ投スルヲ最モ緊要ナリ此藥品ハ近今ノ發明ニシテ其量ハ
 八十分ノ一(〇.〇〇〇)ヲ皮下注射トシテ用フヘシ
 大家「アイトキン」氏ハ「コロ、ダイン」ヲ稱用セリ

消化機能殆ント廢絶セントスルモノニアリテハ徒ラニ牛肉煮汁及ヒ牛乳ヲ與フルモ嘔
 吐ヲ招クニ過キサルナリ故ニ最良ノ食品ハ牛乳ニ石灰水ヲ等分ニ和シ毎二時ニ一食ト
 宛テ嚥下セシムルニアリ或ヒハ裸麥煎汁ニ牛乳ヲ加ヒ更ニ石灰水ヲ稀釋スルハ最モ
 適スルヲアリ

恢復期ニアリテハ榮養品ニ注意スルヲ最モ緊要ナリ殊ニ寒性黃熱ニアリテハ病初ヨリ
 衝動瀾ヲ投スヘシ

出血性黃熱ニ於テハ屢々「トルペンタイン」及ヒ格魯爾鉄丁幾ノ少量ヲ與フヘシ
 亢進性黃熱ニアリテハ温巻法、水蛭、發熱、莫爾比涅及ヒ「ヂュボイシヤ」ノ如キモノヲ
 以テ要藥トス

珪扶斯性黃熱ニアリテハ葡萄酒、榮養品及ヒ強カノ衝動瀾ヲ用フヘシ

發熱患者ハ總テ隔離法ヲ嚴ニシ傳染ヲ豫防セサルヘカラス加之吐出物及ヒ排泄物共
 ニ充分消毒法ヲ施コスヘシ

病室内及ヒ通路ニ於テハ亞硫酸瓦斯ヲ發生セシメ消毒ノ法ヲ怠ルヘカラス其他患者ニ
 觸接シタル衣服及ヒ露布ノ如キハ悉ク焼却シ或ヒハ沸湯ニ投シテ煮蒸スルニ非ラサレ
 ハ再ヒ用フル勿レ

檢疫所ヲ設置スル方法ノ如キハ敢テ爰ニ詳記スルヲ要セサルナリ讀者宜シク傳染病一
 般ノ檢疫法ヲ應用スヘシ

○ 熱射病

原 名 HEAT STROKE.
ヒート ストローク

釋義

爰ニ論スル所ノ疾患ハ日射病、中暑病、太陽卒厥等ノ異名ヲ有スルモノナリ今マ其病的變狀ニ據テ區別スルキハ大要左ノ三種トス

第一急性腦膜炎ニシテ多ク見サル所ノ一症ナリ

第二虚脱症ニシテ温熱ニ基因シ且普通ノ疾患ナリ

第三眞症日射病ナリ

原因

本症ハ其名稱ニ依テ判知スルカ如ク其主因ヲ討究スルキハ温熱過度ノ感動ニシテ傍ハラ他ノ症候ヲ併發スルニアリ

本症ヲ誘發スルニハ世人ノ信認スルカ如ク必ラズシモ頭顱ヲシテ太陽ノ光線ニ直射セシムルヲ要セサルナリ是故ニ人エノ温熱及ヒ大氣中ニ放散シタル温熱ニ觸ル、モ本症ヲ發生スヘシ然リト雖モ更ニ有力ナル原因ハ直接ニ太陽ノ光線ヲ以テ照射スルニアリ常習酒精飲料ヲ嗜ムモノハ其素因トナルコト最モ明ラカナリ
勞役過度多人ノ群居及ヒ衣被ノ緊縛モ亦タ重要ナル誘因トス

病理的解剖

原因ノ作用頗フル急劇ナルノミナラス其經過モ亦タ迅速ナルヲ以テ組織上ノ變化ヲ將來スルノ違アルトナシ唯タ其現症ニ依テ徴知スルヲ得ヘキノミ

腦ノ諸靜脈及ヒ竇内共ニ血液ヲ以テ膨滿シ肺臟ニハ夥多ノ靜脈鬱血ヲ起シ心臟右側ノ諸腔内ハ緊滿スルヲ甚クシク左側ニアリテハ収縮シテ空虚ナルヲ見ル
心臟實質ノ變化ニ至テハ諸家ノ說一様ナラス多クハ脆軟トナルカ如シト雖モ「大家」ウ「ド」氏ノ說ニ據レハ死後直ニ収縮シテ硬固トナリ又タ腐敗性ノ變化ヲ起スモノニアリテハ弛緩スヘシト云フ
血液ハ暗赤色ニシテ粘稠ノ性ヲ有シ反應ハ弱亞爾加里性或ヒハ中性トナリ或ヒハ偶マ酸性ナルコトアリ
死後強直ハ頗フル早ク且強大ナルヲ常トス

徵候

温熱ニ因テ起ル所ノ急性腦膜炎ハ他ノ原因ヨリ來ルモノト異ナルヲナシ故ニ爰ニ之レヲ反復スルヲ要セサルナリ

温熱ニ因テ虚脱ヲ起スモノ頗フル多シ故ニ屢々眞症ノ日射病ト誤認スルヲアルヲ以テ診斷ニ臨ンテ注意セサルヘカラス

炎天ニ暴露シテ勞動操作スルモノ假令ヘハ毛織ノ軍裝ヲ着テ行軍スル所ノ兵卒ノ如キハ俄然衰弱ノ感アリテ直チニ視力昏暗トナリ耳鳴ヲ發シテ倒ル、アリ或ヒハ生力沈衰シテ感覺閉止シ知覺ノ一分ヲ失スルヲアリ

劇症ニアリテハ患者俄然卒倒シ或ハ蹉跌スルノ後感覺ヲ失フヘシ
 全身ニ寒戰ヲ起シ偶々失血ニ基因スル卒倒ノ如ク全身ノ搐搦ヲ將來スルヲアリ
 顔面蒼白色ニシテ沈衰ノ狀ヲ呈シ瞳孔散大シ皮膚厥冷シテ脱汗シ筋肉悉トク弛緩シテ
 脈搏疾速微弱トナリ呼吸淺クシテ短速ナルヲ見ルヘシ
 五官機能ハ皆ナ鈍麻シテ感受力薄ク迷誤ヲ來タシ或ハ全然知覺ヲ失スルヲアリ患者
 ヲシテ安靜ナラシメ適宜ノ治法ヲ施コスルハ二三時間ニシテ諸症候共ニ退消シ二十四
 時間以内ニ快復スヘシ
 日射病ハ前驅症ヲ發スルヲ少ナカラズ其症狀タルヤ前額ニ緊滿ヲ覺エ頭痛眩暈及ヒ衰
 弱ヲ起シ心臓部ニ抑壓ノ感覺甚タシク又々惡心嘔吐ヲ發スルヲアリ
 既ニ其侵襲ヲ被ムルルハ患者俄然人事不省トナリ或ハ徐々ニ其症候ヲ呈スルヲアリ
 勞働者ニアリテハ頭痛眩暈及ヒ惡心ノ如キ症候ヲ發スルモ尚ホ職業ニ從事シ頃カニ
 知覺ヲ失シテ卒倒スルモノ多シ
 軍人ニアリテハ行軍中或ハ佇立ノ際同一ノ症狀ヲ頻發スヘシ或ハ普通ノ前驅症ヲ
 發シ病勢ニ卧シ安眠スルカ如ニシテ終ニ人事ヲ省セサルニ至ルコトアリ或ハ譫妄症
 ヲ發スルノ後人事不省トナリ敵軍ノ襲撃シタルカ如キヲ覺エテ遁逃シ或ハ抗戰ヲ試

ントスルアリ或ハ高聲ヲ放テ嗤笑スルノ後本症ヲ發スルヲアリ
 屢々尿意頻數トナルコトアリ
 暴劇ナルモノニアリテハ卒然感覺閉止シ吸氣ヲ得ント欲シテ口角ヲ開クヲ二三回ニシ
 テ軀幹ノ全部ニ震戰ヲ起シ忽チニシテ心臓ノ作用歇止スヘシ「モールヘッド」氏ハ之レ
 ヲ心臓ヲ侵カス所ノ日射病ト見做セリ斯ノ如キ症ニアリテハ卒倒シテ直チニ異世ノ人
 トナルカ故ニ感覺閉止ノ期ニ於テ現ハル、所ノ症候ヲ將來スルノ違ナキモノトス唯々
 吾人カ目視スル所ノモノハ顔面充血シテ潮紅シ或ハ蒼白色トナリ全身ノ皮膚モ亦々
 同一ノ狀ヲ呈シ結膜ニ充血ヲ起シ瞳孔ハ縮小スルモノ多シト雖モ偶々散大シ或ハ平
 常ト異ナラサルヲアリ呼吸短數ニシテ淺キモノアリ或ハ頗フル困難ニシテ斷息トナ
 ルヲアリ脈搏疾速ニシテ彈カヲ有シ或ハ却テ微弱ナルコトアリ皮膚乾燥シテ異常ノ
 肌熱ヲ有シ体温腋下ニ於テ華氏百五度ヨリ百十度ノ間ニアリト雖モ多クハ百八九度ニ
 達スヘシ
 普通ノ症ニアリテハ全然筋肉ノ弛緩ヲ起シ反射機能ヲ失却シテ毫モ運動ヲ起スコト能
 ハサルモノトス偶々少數ノ患者ニ於テ筋腸肉痙攣シ或ハ震戰ヲ起スヲアリ或ハ又々強
 硬或ハ八癩癩狀ノ發作ト共ニ間代性ノ搐搦ヲ將來スルヲアリ

偶マ皮膚ニ紫斑ヲ現出シ或ヒハ粘膜出血ヲ見ルヲアリ
大便自利ハ必發ノ症候ト見做スモ妨ケナキカ如シ

經過、時期及轉歸

温熱ノ爲メニ虚脱シタルモノハ身体ヲ安靜ナラシメ適宜ノ療

法ヲ施コスモハ大抵二十四時以内ニシテ健態ニ復スヘシ

暴發性ノモノニアリテハ二三分時間ヲ經サルニ死ヲ致スヲアリ

普通ノ症ハ三十分時乃至五六時間持續スヘシ

死因ハ暴發症ニアリテハ心臟卒中ヲ起シ普通ノ症ハ肺卒中ニ基因スルモノナリ而シテ
摘掣ヲ併發スルモノニアリテハ大抵腦卒中ニ因テ斃ル、モノトス
不幸ノ轉歸ヲ取ルモノハ体温昇騰シテ心臟ノ作用疾速微弱トナリ結膜ニ充血ヲ起シ唇

身症ヲ發シ四肢暗青色ヲ呈シ筋肉ノ弛緩スルヲ益々甚タシ
回復ノ機ヲ起スモハ皮膚稍々蒼白色ヲ減シ呼吸深ク脈搏其數ヲ減スルモ實大トナリ反

射機能恢復シ筋肉ノ弛緩ヲ減スルモ却テ疲勞ヲ覺エ又々摘掣ヲ發シタルモノニアリテ
ハ全然退消スヘシ

死亡ノ數ハ發作症ノ劇易及ヒ原因ノ異ナルニ從テ一様ナラサルモノトス假令ハ若人ハ
心臟病ヲ有スルモノ及ヒ肥滿シタルモノニアリテハ危險ナルモノ多キカ如シ

温熱ノ虚脱ト日射病トヲ併發スルモノニアリテハ殊ニ不幸ニ陥ルモノ多シ
死亡數ハ百分ノ十ヨリ五十ノ間ニアリト雖モ過半数ハ日射病ニ基因スルモノナリ
死因ハ五官閉止ノ爲メニ血液ノ分解ヲ起スヲ以テ呼吸ノ中樞、心臟神經節或ヒハ肺臟
ニ於テ虚衰ヲ將來スルニアリ

診 断

診斷上最モ重要ナルモノハ日射病ト温熱ノ虚脱トヲ鑑別スルニアリ何ント

ナレハ治術ヲ施コスニ當テ其方ヲ誤マルモハ効害ノ差甚タシキモノアルヲ以テナリ

日射病ニアリテハ顔面充血シ或ヒハ蒼白色トナリ表皮温煖ニシテ五官閉止ノ狀ヲ呈ス
ルニ至ルマテ体温益々昇騰シ血液ノ分解ニ因テ知覺減少スルヲ見ルヘシ

温熱ノ虚脱ニアリテハ皮膚蒼白色ニシテ厥冷シ且弛緩スルヲ常トス体温减退シテ健態
ニ達スルヲ多ク卒倒及ヒ腦貧血ニ因テ知覺鈍麻ヲ將來スヘシ

日射病ハ急性亞爾個兒中毒、阿片中毒、及ヒ腦出血ト區別セサルヘカラス

急性亞爾個兒中毒ハ屢々日射病ヲ誘發スルヲアルヲ以テ其診斷最モ困難ナリ此時ニア
リテハ病歴ヲ審查スルヲ緊要ナリ是故ニ日射病患者ハ發作時ニ於テ太陽若シクハ火熱
中ニ勞働操作スルモノニシテ多クハ前驅症ヲ有スヘシ

体温ハ亞爾個兒中毒ニアリテハ健態ノ度ヲ降ルヲ多キモノナリ

二症共ニ病機増進シタルモノニ當テハ亞爾個兒中毒ニアリテハ恢復スルヲ願フル後徐ナリト雖氏日射病ニアリテハ轉歸ノ良否共ニ急劇ナルモノトス
 阿片中毒ハ亞爾個兒中毒ニ準據シテ診斷スルハ大差ナカルヘシ唯々特殊ナル点ハ瞳孔縮少シ呼吸徐トナリ皮膚厥冷スト雖氏日射病ニアリテハ瞳孔散大シ呼吸疾速ニシテ高調トナリ体温ノ昇隆スルヲ見ルヘシ
 腦出血ニアリテハ眼球調節機ノ錯誤ヲ求タシ脈搏徐長ニシテ腎大トナリ呼吸困難ニシテ体温減少シ且筋力ノ反射機能ヲ失却セサルモノ多キヲ以テ日射病ト異ナルヲ徵スヘシ

治則

温熱ノ爲メニ虚脱スルモノハ安静ニシテ衝動劑ヲ投セサルヘカラス且頭顱ヲ低クシテ仰臥セシムルヲ要ス
 患者嚔下スルヲ得ルハ「ブランダール」酒一二匁(三〇〇、〇〇〇)ニ阿片丁幾三十滴ヲ加ヒテ頓服セシムヘシ既ニ嚔下スルヲ能ハサルハ直腸ヨリ注入スヘシ又タ實多利斯丁幾十滴乃至十五滴ヲ皮下ニ注射スルヲアリ
 日射病ニアリテハ數種ノ治法ヲ施サ、ルヘカラス異常ノ高熱ヲ發スルモノニアリテハ直チニ減殺スルノ策ヲ要スヘシ

氷囊ヲ以テ身体ヲ摩擦シ冷水浴ヲ命シ温巻法或ヒハ冷漏法ヲ施スハ最モ効驗アルヘシ印度國ニアリテハ患者ヲ冷蔭ノ地ニ運搬シ全身ニ冷水ヲ注キ且屢々冷浴ヲ命セリ斯ノ如クスルハ忽チニシテ体温ヲ減少スヘシ
 再ヒ体温ノ昇騰セントスルカ如キ症狀アルハ冷水ニ蘸シタル蓆布ノ上ニ横臥セシムルヲ良トス又タ直腸ヨリ氷冷水ヲ注入スルモ可ナリ
 抑壓ノ症狀ヲ呈スルハ少量ノ「ブランダール」酒或ヒハ「ウ井スキー」酒ヲ與フヘシ
 体温ヲ減スルカ爲メニ幾尼涅ヲ皮下ニ注射スルコトアリ又タ摘掣ノ狀ヲ呈スルモノニアリテハ醫士「ハツチソシ」氏ノ說ニ依リ莫爾比涅ノ皮下注射ヲ最良トス
 或ヒハ格魯々保爾母ノ吸引法ヲ稱用スルヲアリ然リト雖氏安全ノ策ヲ專ハラトスルハ莫爾比涅ノ注射法ニ若シクハナシ其量ハ健康ナル大人ニアリテハ硫酸莫爾比涅四分ノ一(〇、〇一五)ヲ適當トス
 摘掣退消スルハ呼吸モ亦タ大ヒニ安静トナリ体温ノ減少スルヲ見ルヘシ又タ其効驗ニ因リテ反復スルモ妨ケナシ且充分ノ効ナキハ半匁(〇、〇三)ノ量ニ達スヘシ
 高熱ヲ減退セシムルニハ冷漏法及ヒ冷浴ヲ專ハラトシ同時ニ莫爾比涅ノ皮下注射法ヲ施コスヲ勿レ

俄然生カノ抑壓ヲ起シ沈衰ノ狀ニ陥ルキハ如何ノ治術ヲ試ムルモ救フヘカラサルコトアリ是レ即チ一ハ治術ノ當ヲ得サルカ爲メニ求ルヲアルヲ以テ最モ戒心セサルヘカラサルナリ

○瘴氣毒諸病（又泥沼毒）

○虎列刺

原コレラ
名 CHOLERA.

釋義

虎列刺ハ一種ノ急性傳染病ニシテ或ヒハ地方病トナリ或ヒハ流行病トナリテ求ルモノナリ而シテ其主徴ハ特異ナル米甘汁ノ如キ吐瀉物ヲ現出シ生力沈衰シテ斃レ或ヒハ反應ノ機ヲ起シ又タハ埤扶斯狀ノ症候ヲ發スルニアリ

本症ハ又タ流行虎列刺、亞細亞虎列刺或ヒハ惡性虎列刺等ノ異名ヲ有スルモノナリ
歐羅巴虎列刺ナルモノハ所謂霍亂ト稱スルモノニシテ全然其病機ヲ異ニスルモノナリ
故ニ此症ハ既ニ消化機病篇ノ條下ニ於テ詳説セリ

原因

古來本症ノ蔓延ニ於テ病原上ノ説ヲナスモノ頗ブル繁雜ニシテ一定スル
一能ハサルカ如シ是故ニ虎列刺機菌ノ有無ヲ問フキハ概テ否ニシテ一定スル
ルカ如キ證據アリト雖モ其機菌ヲ檢出シテ發育セシメントテ勉ムルモ未タ其成績ヲ得
サルナリ

現今ニ至リ獨逸國ノ大家「コツチ」氏（獨逸語ニテハ「コツホ」ト云フ）カ一種ノ病毒機菌アルヲ主張
シ既ニ千八百八十三年ニ於テ「アレキサンドリヤ」府ニ旅行シテ其實跡ヲ證明シタリ其

後千八百八十五年(明治十八年)二月七日ニ於テ佛國ノ大醫「ヘリコールト」氏ハ自家實
 驗ノ成績ト「マルセル」府ノ醫家「ニカチ」氏及ヒ「レイトス」氏ノ報告ニ據テ微菌ノ
 形狀ヲ詳ラカニスルヲ得タリ(圖式ヲ參觀スヘシ)
 地球上虎列刺病ノ流行セシ初起ニ湖ルハ貿易交通ノ徑路ニ沿フテ東方ヨリ西方ニ向
 テ進行シ又タ都會ノ中央ニ發シテ他ノ市街ニ傳播シタルカ如シ然リト雖モ病毒ノ性質
 ニ依テ考フルハ病毒進行ノ徑路ヲ遮斷スルノ方法ナキニアラス唯タ吾人カ信任スル
 所ノモノハ一定ノ方向ヲ有スルヲナク交通ノ自在ナルハ何レノ方向ヲ問ハス何レノ
 人種ヲ撰サルカ如シ
 虎列刺病毒ハ旅隊(商人ノ如キ數人隊伍ヲナシ互ニ旅中ノ危難ヲ防クモノ) 船舶、衣被、行李其他ノ物件若シクハ
 河流及ヒ空氣ノ流通ニ依テ運搬セラル、モノナリ
 本症ハ世人ノ想像スルカ如ク觸接傳染ノカヲ有セサルモノトス故ニ流行時ニ於テ感染
 スヘキ地方ノ原因アルニ非ラサレハ患者ニ觸接スル所ノ醫師及ヒ看護人ハ却テ其侵襲
 ヲ被ハルヲ多キモノナリ
 予ハ千八百六十六年我カ米國「シンシンナツチ」府ニ於テ流行セシ時虎列刺病院ヲ監督
 シ一日數回病室ヲ巡檢シタルノミナラス自ツカラ觸接シ又タ屢々創傷ヲ被ムリタレハ

其症候ヲ覺知セス加之ノミナラス助手醫員及ヒ看護人モ共ニ其侵襲ヲ免レタリ虎列刺
 患者ノ屍體ハ毫モ傳染ノ性ヲ有スルモノニアラス是レ即チ分解性微菌ハ虎列刺微菌ヲ
 撲滅スルノ機能ヲ有スルモノナリ
 病毒微菌ハ濕潤ナルハ其活機ヲ保有スルモノニシテ其毒質ノ作用ヲ發スルニハ必ラ
 ス先ツ其性狀ヲ變換セサルヘカラス故ニ患者ノ身體ヨリ分離シタルノ時ニアリテハ未
 タ毒性ヲ發スルヲ能ハサルモノニシテ爾後若干ノ時ヲ經テ其力ヲ逞マシウスヘシ
 是レニ依テ之レヲ顧レハ虎列刺ハ甲ノ患者ヨリ直チニ乙者ニ傳染スルコトナク其間ニ
 於テ必ラス媒介ヲ要スルモノ、如シ故ニ大家「ベツテンコーヘル」氏ハ地下ノ淺層ヲ通
 過スル所ノ用水及ヒ土質ノ卑濕ヲ以テ最も重要ナリトス
 虎列刺微菌ノ發育ニ適スルノ地質ハ地上ニ雨水ノ渚溜スルヲ以テ最トス故ニ地層ノ上
 部ニアリテハ輕軟鬆粗ナル淺洲ヨリ成リ下層ハ粘土ヨリ成リテ容易ニ流暢セサルカ如
 キ位置ハ最も激烈ナル流行ヲ致スヘシ
 瘴氣毒ノ發生シ易キ地ハ大抵虎列刺微菌ノ成育ヲ促カスニ足ルモノト見做スヘシ又タ
 一般ニ地水ノ減退スルハ滿溢スルノ時ニ比スレハ微菌ヲ發生スルヲ多キモノナリ
 通常虎列刺病ノ蔓延スルヲ迅速ナルハ飲用水ノ供給地表ニアリテ夥多ノ有機物ヲ含有